

# 第 1 部 市民意識調査

---

# 第 1 部 市民意識調査

## I. 調査の概要

### 1. 調査の目的

この調査は古賀市における男女共同参画社会づくりを進めるために、「第 2 次古賀市男女共同参画計画（後期）」の策定などの検討を行うにあたり基礎資料とすることを目的に実施した。

### 2. 調査項目

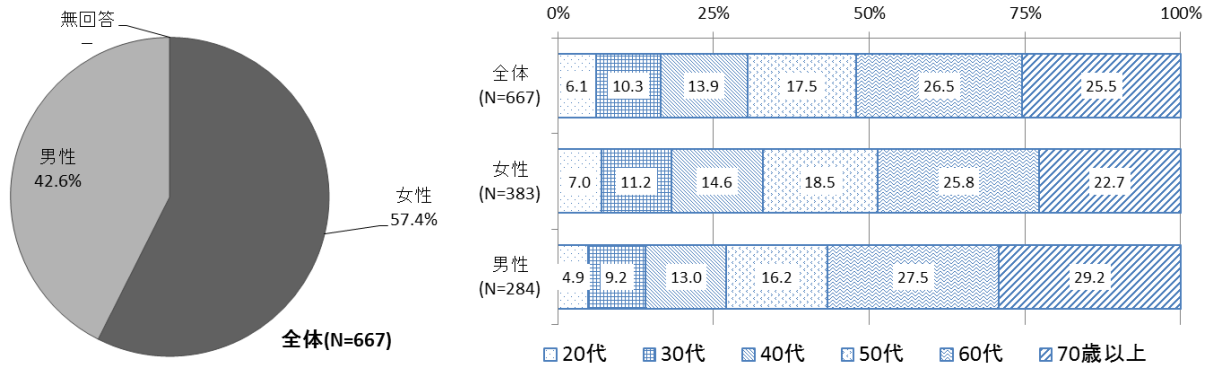
- (1) 男女の地位について
- (2) 家庭生活について
- (3) 職業について
- (4) 社会活動について
- (5) 配偶者等からの暴力について
- (6) 男女共同参画社会の実現について

### 3. 調査の性格

- (1) 調査地域 古賀市
- (2) 調査対象 20 歳以上の男女 2,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳より、男女別年齢階層による無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送法
- (5) 調査期間 平成 27 年 8 月 1 日（土）～8 月 20 日（木）
- (6) 回収率 有効回収数 667 人（回収率 33.4%）
- (7) 調査企画及び調査実施機関  
古賀市総務部総務課男女共同参画係
- (8) 分析の監修とまとめ  
倉富史枝（特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所 理事）

## 4. 回答者のプロフィール

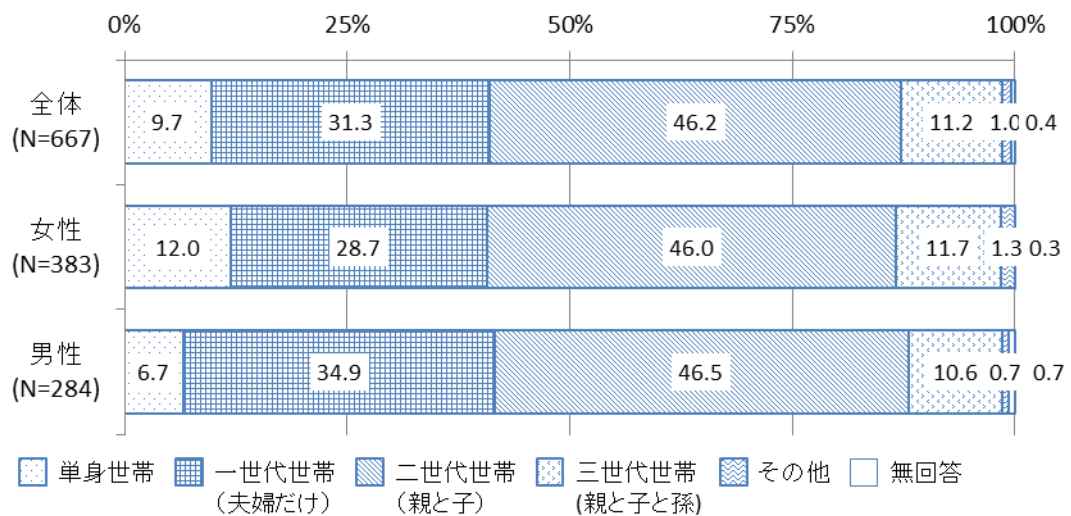
### ◎性別と年代



回答者の性別は、「女性」57.4%、「男性」42.6%と女性の方が14.8ポイント多い。

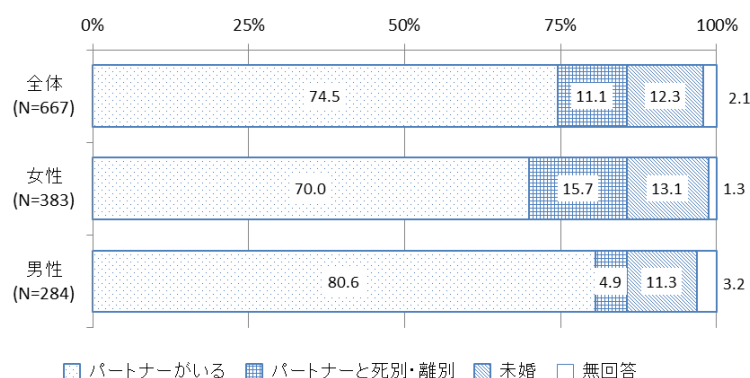
年代は、女性は「60歳代」が25.8%、男性は「70歳代」が29.2%と最も多い。次いで、女性は「70歳以上」(22.7%)、男性は「60歳代」(27.5%)で、男性は『60歳代以上』が56.7%と5割を超えている。女性の『60歳代以上』は48.5%で高齢者層での回答が多い。

### ◎家族構成



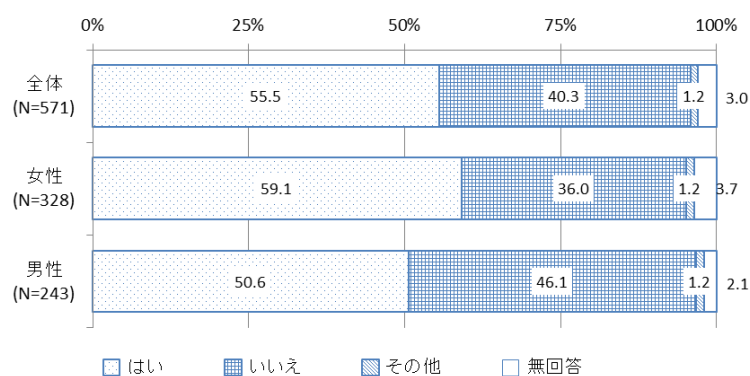
家族構成は「親と子の2世代世帯」が46.2%で最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が31.3%、「親、子、孫の3世代世帯」(11.2%)と「単身世帯」(9.7%)がそれぞれ約1割となっている。

## ◎配偶関係



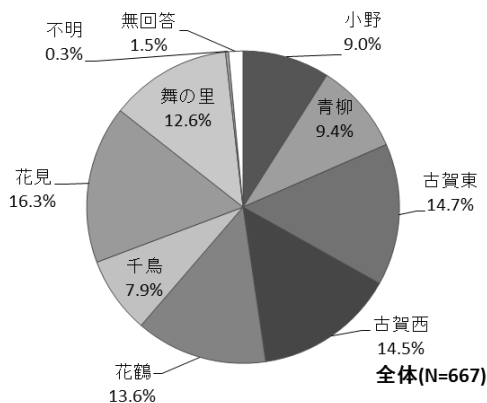
配偶関係は、「結婚している（事実婚を含む）」は女性が70.0%、男性が80.6%と男性の方が多し。「結婚したことがない」は女性が13.1%、男性が11.3%、「配偶者と離婚、死別した」は女性が15.7%、男性が4.9%と女性の方が多し。

## ◎共働きの状況



結婚している（事実婚を含む）人及び配偶者と離婚、死別した人（571人）の共働きの状況をみると、共働き世帯は55.5%、片働きの世帯は40.3%である。

## ◎居住地



居住地は、「花見校区」が16.3%、次いで「古賀東校区」（14.7%）、「古賀西校区」（14.5%）と海側の校区の回答が多い。

## 5. 調査結果利用上の注意

- (1) 集計は小数第二位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
- (2) 回答が複数になる場合、その回答比率の合計は原則として 100%を超える。
- (3) 表、グラフに示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮または簡略して表記している場合がある。
- (4) グラフとして示したものの中には、「無回答」を省略した部分がある。
- (5) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。
- (6) 文中の選択肢の標記は「 」で行い、選択肢のうち 2 つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の資料と分析を行っている。

福岡県「男女共同参画に向けての意識調査」 平成 26 年 12 月実施

内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」 平成 26 年 8 月実施

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」 平成 24 年 10 月実施

## II. 調査結果

### 1. 男女の地位について

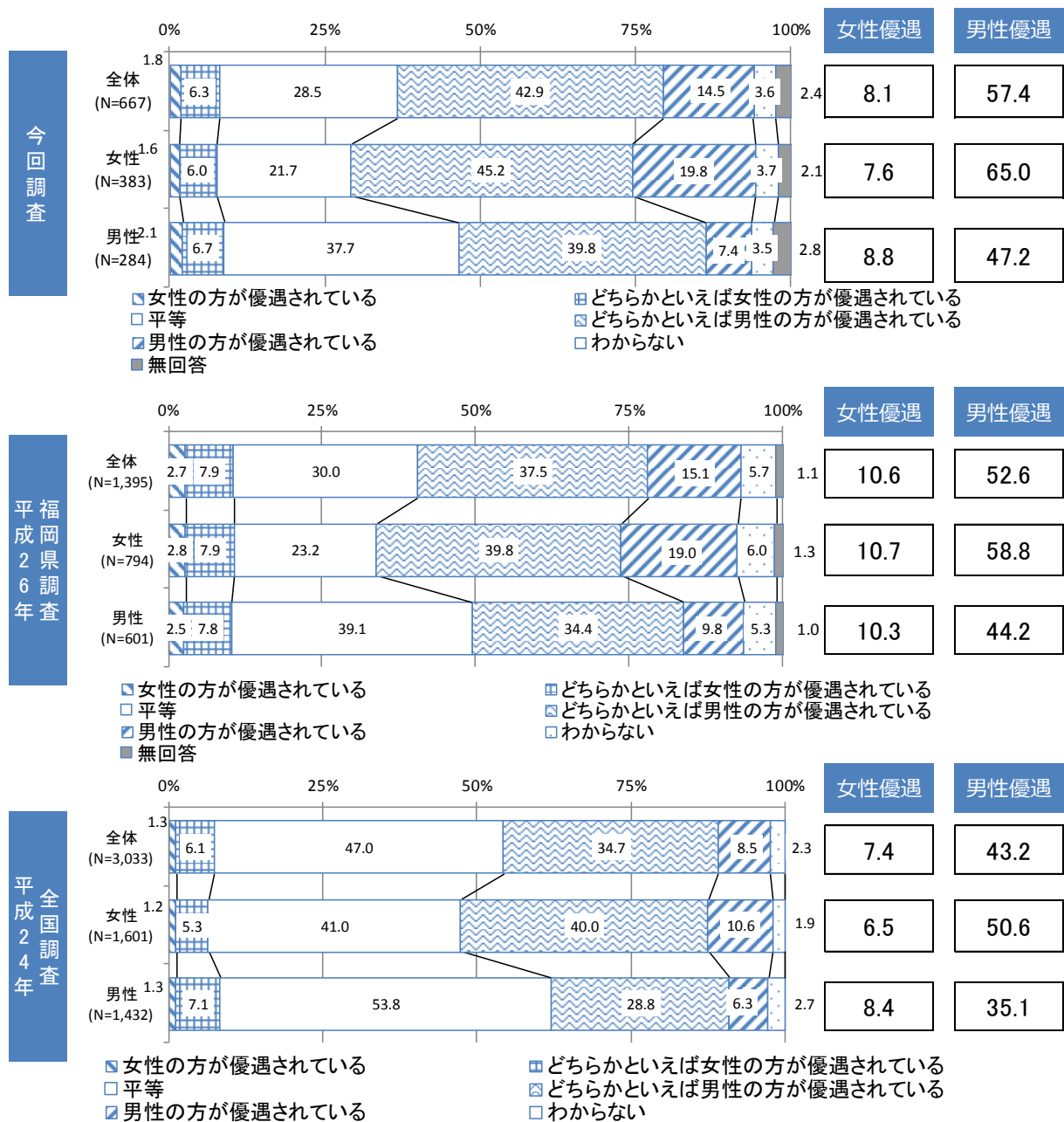
#### (1) 男女の地位の平等感

【問1】あなたは、次にあげる様々な分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(ア)～(ク)のそれぞれについて、あてはまる番号に○を付けてください。(○印はそれぞれ1つ)

#### ① 家庭生活

図Ⅱ-1-1 「家庭生活」における男女共同参画の地位の平等感[全体、性別] (県調査・全国調査比較)



「家庭生活」における男女の地位について、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.9%と最も高く、「男性の方が優遇されている」(14.5%)を合わせた『男性優遇』は57.4%と半数を超えている。「平等」は28.5%で、「女性の方が優遇されている」(1.8%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(6.3%)を合わせた『女性優遇』は8.1%と低い。

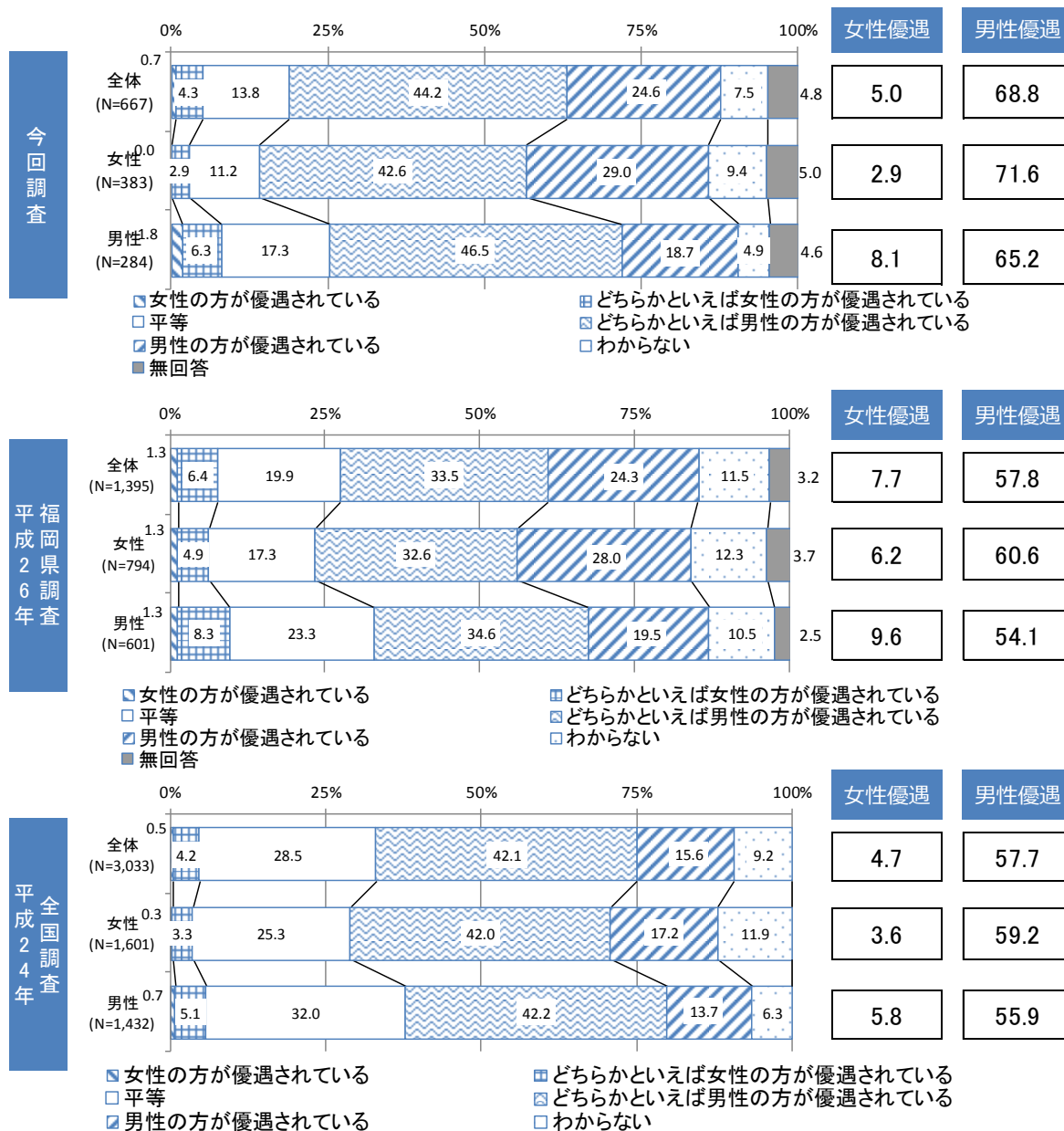
性別でみると、男女とも『女性優遇』は1割に満たないと変わらないが、女性の方は『男性優遇』が65.0%と男性(47.2%)より17.8ポイント高く、男性は「平等」が37.7%と女性(21.7%)より16.0ポイント高くなっている。また『男性優遇』のうち「男性の方が優遇されている」は女性の方が12.4ポイント高いなど、家庭生活において女性は男性が優遇されていると感じているが、男性は女性が感じるほど自身が優遇されていると感じておらず、性別による違いがみられる。

また、平成26年に実施された福岡県の「男女共同参画に向けての意識調査」(以下、「県調査」という)と比較すると、「平等」は県調査では30.0%で今回調査の方が1.5ポイント下回っており、一方、『男性優遇』は4.8ポイント今回調査の方が上回っている。性別でも男女とも今回調査の方が「平等」は1.4~1.5ポイント低く、『男性優遇』は、約3~6ポイント高くなっている。

さらに、平成24年に実施された内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」(以下、「全国調査」という)と比較すると、「平等」は全国調査では47.0%で今回調査の方が18.5ポイント下回っており、一方、『男性優遇』は14.2ポイント今回調査の方が上回っている。性別でも男女とも今回調査の方が「平等」は15ポイント以上低く、『男性優遇』は10ポイント以上高いなど、全国調査に比べて男性は優遇されているという認識が男女とも高い結果となっている。

## ② 職場

図II- 1-2 「職場」における男女の地位の平等感〔全体、性別〕（県調査・全国調査比較）



「職場」における男女の地位について、「男性の方が優遇されている」が24.6%、『男性優遇』も68.8%と全ての分野で最も高く、「平等」は13.8%と最も低いなど、男性優遇の傾向が強く認識されている分野である。

性別で見ると、女性の『男性優遇』は71.5%に対し、男性は65.1%と女性の方が6.4ポイント高く、男性は「平等」が17.3%に対し、と女性は11.2%と男性の方が6.1ポイント高くなっている。また、『女性優遇』は女性が2.9%に対し、男性は8.1%と男性の方が5.2ポイント高いなど、男女間での平等感には違いがみられる。

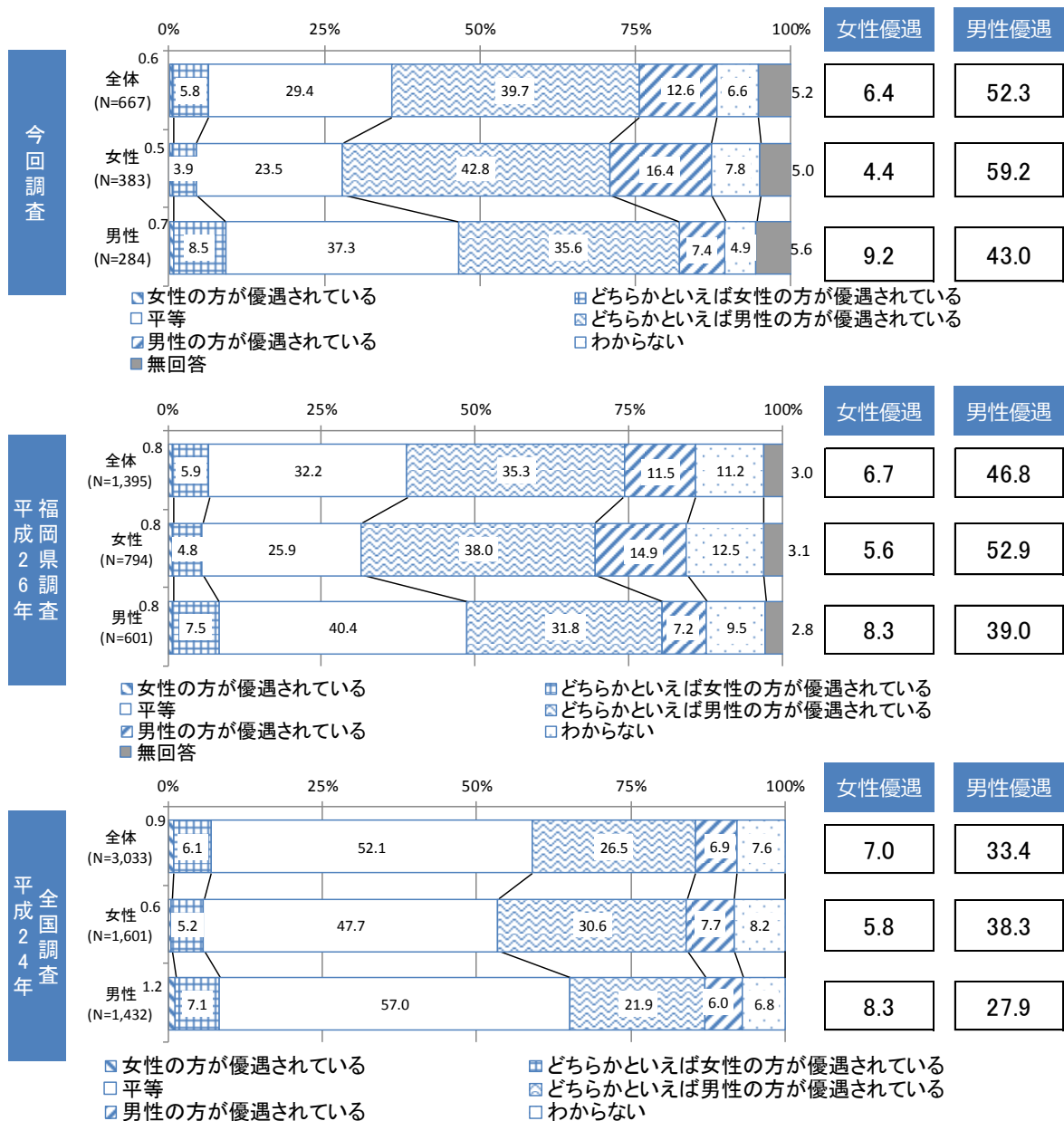
県調査と比較すると、「平等」は県調査では19.9%で今回調査の方が6.1ポイント下回っており、一方、『男性優遇』は11ポイント今回調査の方が上回っている。性別で見ても男女とも今回調査の方が「平等」は約6ポイント低く、『男性優遇』は、約11ポイント高くなっている。



全国調査と比較すると、「平等」は全国調査では 28.5%で今回調査の方が 14.7 ポイント下回っており、一方、『男性優遇』は 11.1 ポイント今回調査の方が上回っている。性別でも男女とも今回調査の方が「平等」は約 14 ポイント以上低く、『男性優遇』は約 9～12 ポイント以上高いなど、全国調査に比べて不平等であると感じている人が男女を問わず多いことがわかる。

### ③ 社会活動の場で

図Ⅱ-1-3 「社会活動の場」における男女の地位の平等[全体、性別] (県調査・全国調査比較)



「社会活動の場」における男女の地位について、「平等」が 29.4%、『男性優遇』が 52.3%と半数を超えており、男性が優遇されているという認識が高い。

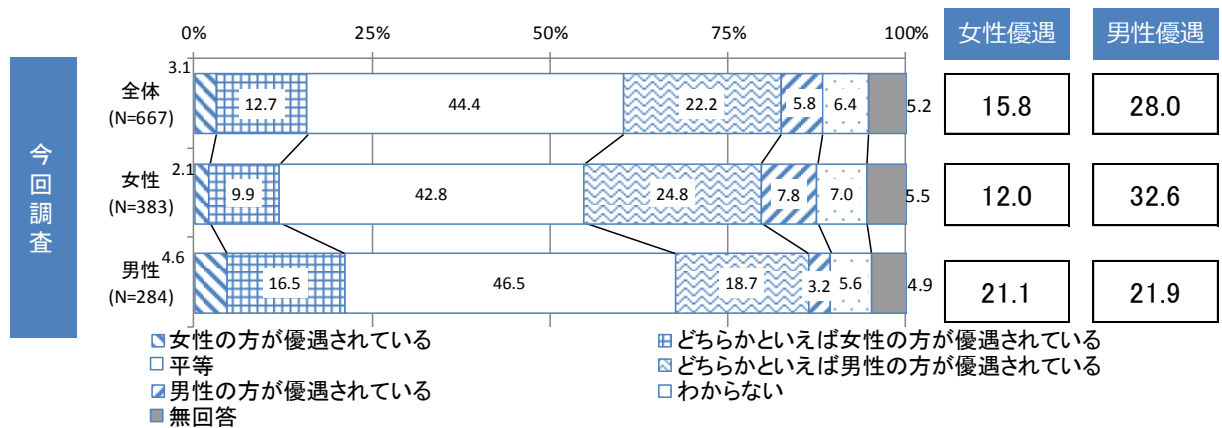
性別でみると、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が42.8%と最も高く、『男性優遇』は59.3%と約6割となっている。一方、男性は「平等」が37.3%と最も高く、男女の認識の差が大きいことがわかる。

県調査（「地域活動・社会活動の場」）と比較すると、「平等」は県調査では32.2%で今回調査の方が2.8ポイント下回っており、一方、『男性優遇』は5.5ポイント今回調査の方が上回っている。性別でみても、男女とも今回調査の方が「平等」は約2~3ポイント低く、『男性優遇』は4ポイント以上高い。

全国調査（「自治会やNPOなどの地域活動の場」）と比較すると、「平等」は全国調査では52.1%で今回調査の方が22.7ポイント下回っており、一方『男性優遇』は18.9ポイント今回調査の方が上回っている。性別でみても男女とも「平等」は20ポイント以上低く、『男性優遇』は女性で21ポイント、男性で15.1ポイント高いなどと社会活動の場での平等感は、男女とも全国と比べるとかなり低くなっている。

#### ④ 余暇活動

図Ⅱ-1-4 「余暇活動」における男女の地位の平等感[全体、性別]

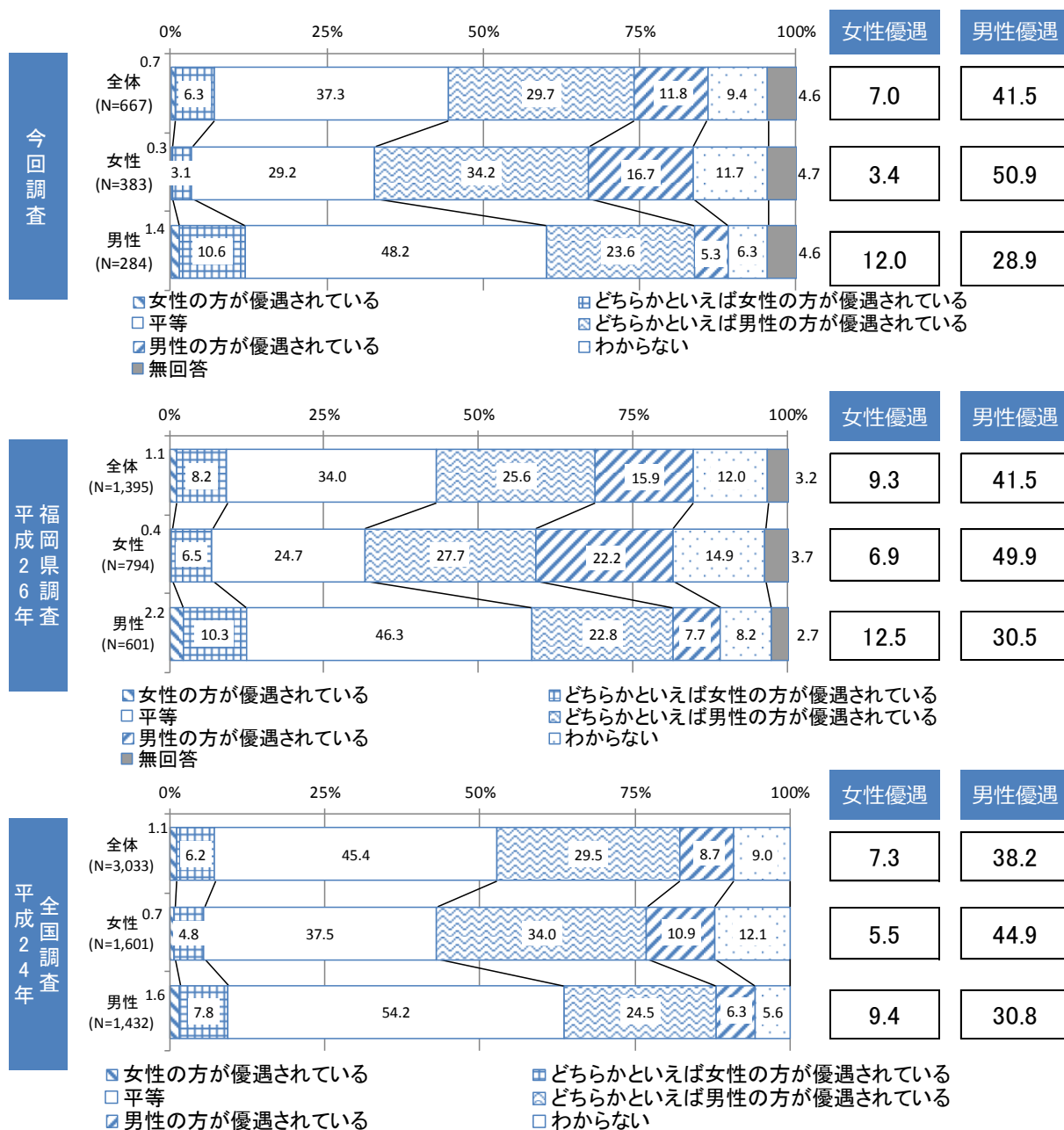


「余暇活動」における男女の地位について、「平等」が44.4%と高い割合となっており、『男性優遇』は28.0%と低い。『女性優遇』は15.9%である。

性別でみると、女性は『男性優遇』が32.6%と男性の21.8%を10.8ポイント上回り、男女の認識の差が大きい。

## ⑤ 法律や制度上

図Ⅱ- 1-5 「法律や制度上」における男女の地位の平等感[全体、性別] (県調査・全国調査比較)



「法律や制度上」における男女の地位には、「平等」が 37.3%と高い割合になっており、『男性優遇』は、41.5%と低い。『女性優遇』は 7.0%である。

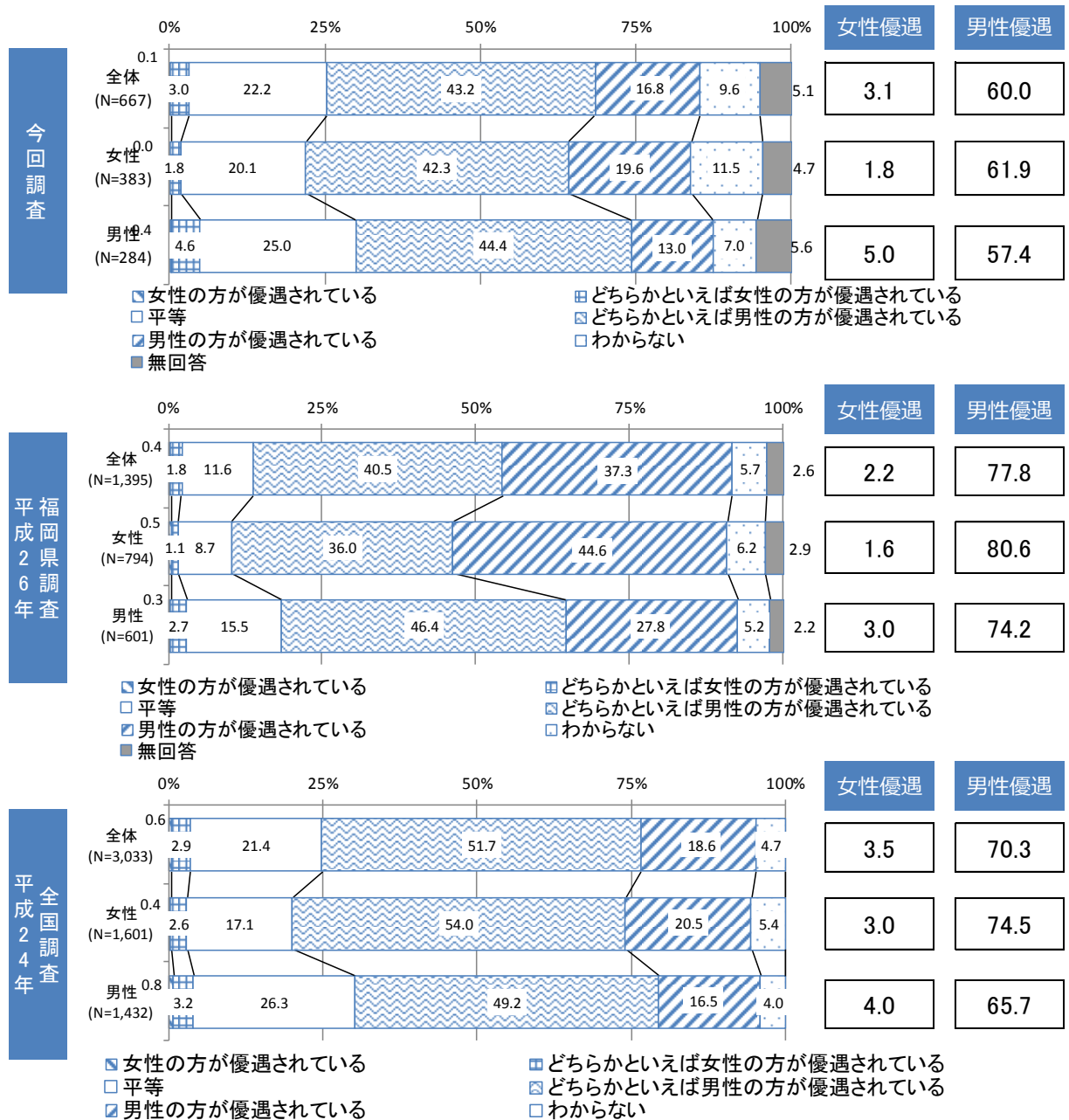
性別で見ると、女性は『男性優遇』が 50.9%と男性の 28.9%を 22 ポイント上回り、男性は「平等」が 48.2%と女性の 29.2%を 19 ポイント上回るなど、男女の認識の差が大きい。

県調査と比較すると、「平等」は県調査では 34.0%で今回調査の方が 3.3 ポイント上回っており、『男性優遇』は 41.5 ポイントと同率だが、一方、『女性優遇』は 2.3 ポイント下回っている。性別で見ても「平等」『男性優遇』はあまり変わらないが、『女性優遇』が女性で 3.5 ポイント下回っている。

全国調査と比較すると、「平等」は全国調査では45.4%で今回調査の方が8.1ポイント下回っており、一方『男性優遇』は3.3ポイント今回調査の方が上回っている。性別でみても男女とも「平等」は5ポイント以上低く、『男性優遇』は男性では約2ポイント、女性では6ポイント高く、『女性優遇』は男性では2.6ポイント高いが、女性は2.1ポイント低いなど、古賀市では法律や制度の分野で平等ではないと認識している人が多いと考えられる。

## ⑥ 地域のしきたりや習慣

図Ⅱ-1-6 「地域のしきたりや習慣」における男女の地位の平等感[全体、性別] (県調査・全国調査比較)



「地域のしきたりや習慣」における男女の地位については、『男性優遇』は60.0%と6割になっており、「平等」は22.2%と不平感は強い。

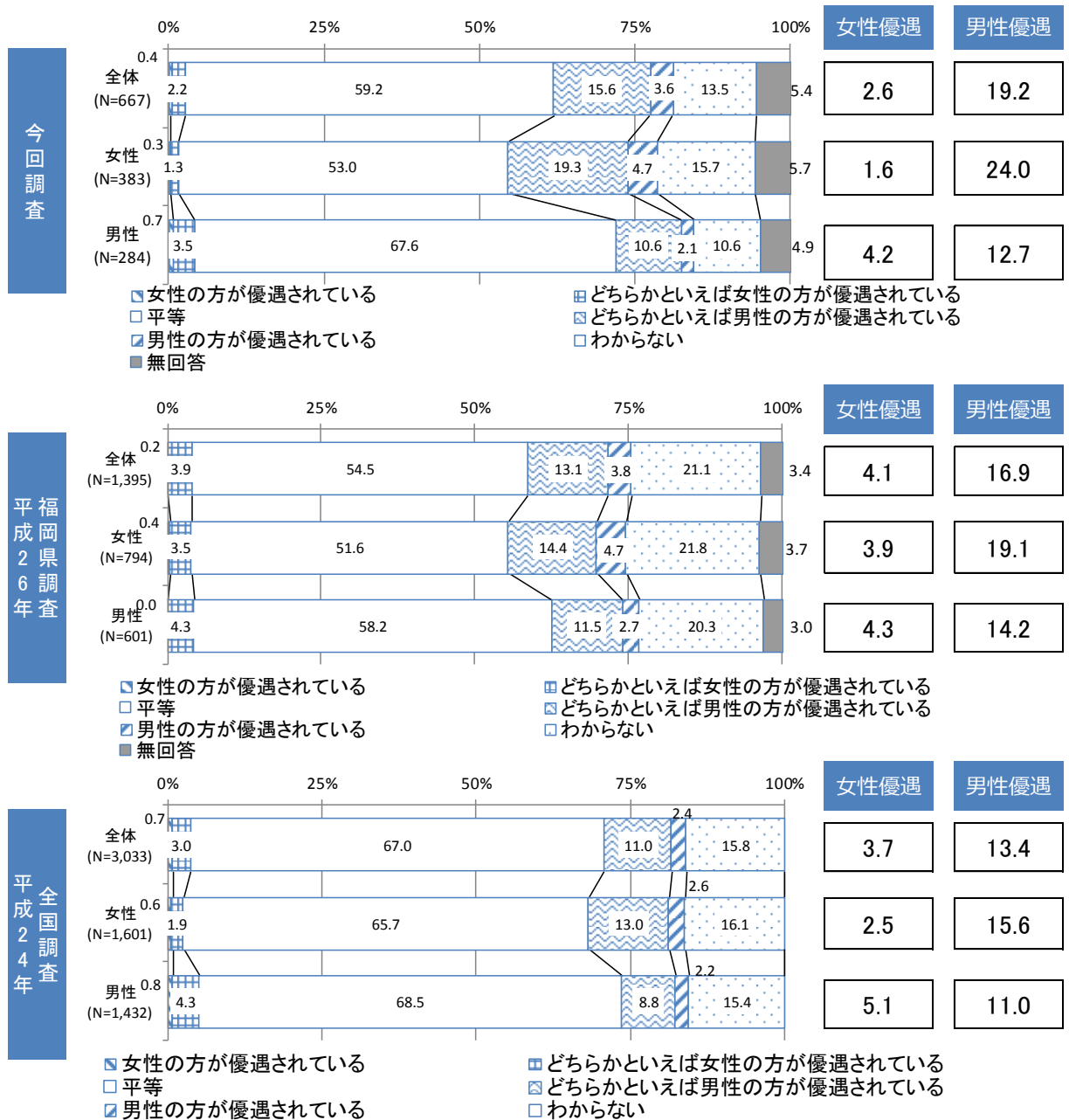
性別でみると、女性の『男性優遇』は61.9%に対し、男性は57.4%と女性の方が4.5ポイント高く、男性は「平等」が25.0%に対し、女性は20.1%と男性の方が4.9ポイント高くなっている。また、『女性優遇』は女性が1.8%に対し、男性は4.9%と男性の方が3.1ポイント高いなど、男女間での平等感に違いがみられる。

県調査と比較すると、「平等」は県調査では11.6%で今回調査の方が10.6ポイント上回っており、一方、『男性優遇』は17.8ポイント今回調査の方が下回っている。性別でみても男女とも今回調査の方が「平等」は約10ポイント高く、『男性優遇』が約17~19ポイント低い。

全国調査と比較すると、「平等」は全国調査では21.4%で今回調査とあまり変わらないが、『男性優遇』は10.3ポイント今回調査が下回っている。性別でみると「平等」は女性で3ポイント高いが、男性では1.3ポイント低い。男女とも福岡県や全国と比べると平等感が高い。

## ⑦ 学校教育の場

図Ⅱ- 1-7 「学校教育の場」における男女の地位の平等感[全体、性別] (県調査・全国調査比較)



「学校教育の場」においては「平等」が59.2%と全ての分野の中で唯一5割を超えている。他方「わからない」も13.5%と他の分野と比べて最も高く、学校教育の場は「平等」であると多くの方は認識しているが、一方で実態が把握しにくい様子がうかがわれる。

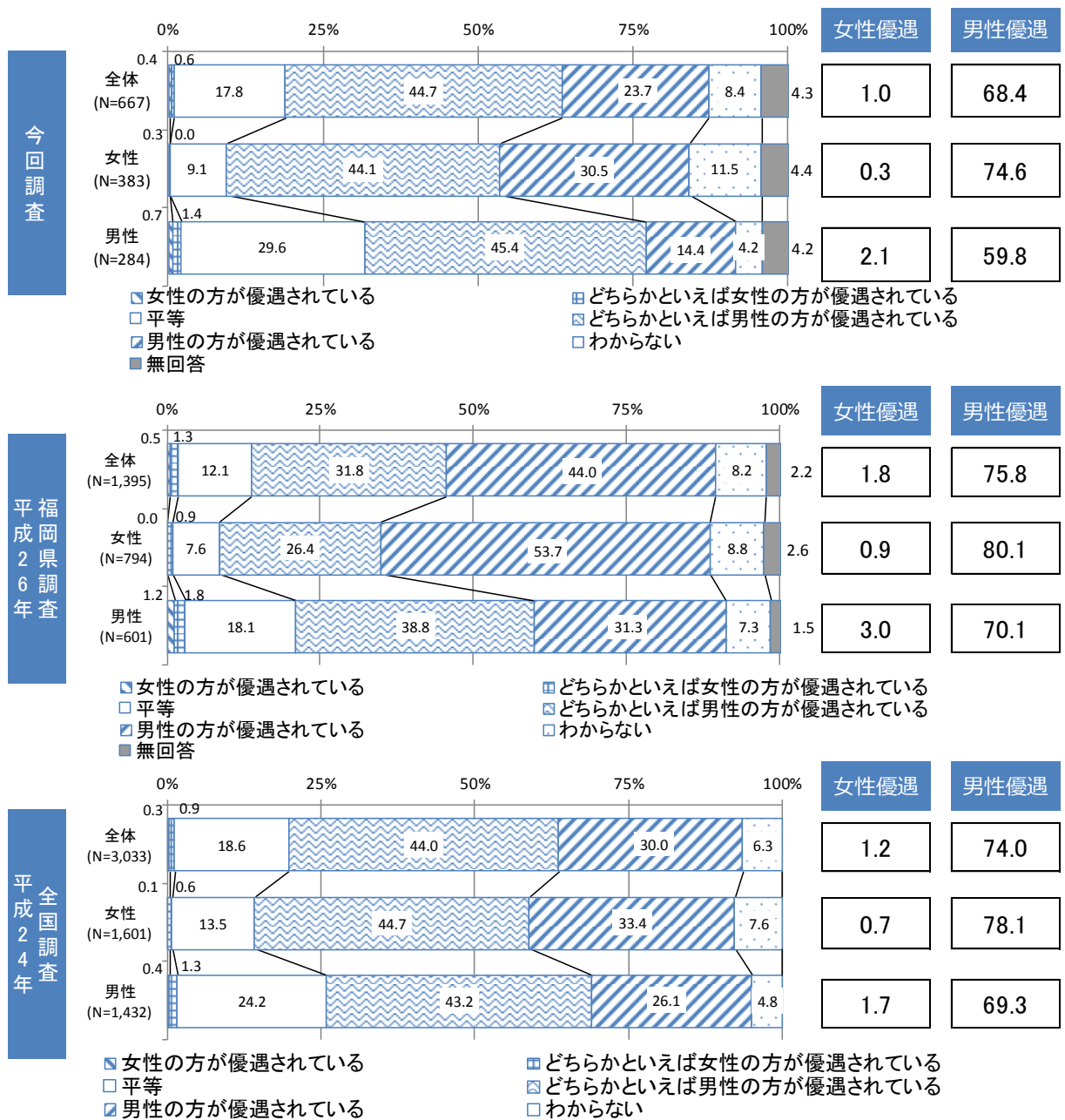
性別でみると、「平等」は男性が67.6%と6割を超えているが、女性は53.0%と男性よりも14.6ポイント低く、『男性優遇』は女性が11.3ポイント高いなど、比較的平等感が高い分野であるものの男女差がみられる。

県調査と比較すると、「平等」は県調査では54.5%で今回調査の方が4.7ポイント上回っているが、一方、『男性優遇』は2.3ポイント今回調査の方が上回っている。性別でみると、「平等」が女性は今回調査が1.4ポイント高く、あまり変わらないが、男性は9.4ポイント高い。

全国調査と比較すると、「平等」は全国調査では 67.0%で今回調査の方が 7.8 ポイント下回っており、一方、『男性優遇』は 5.8 ポイント今回調査の方が上回っている。性別で見ると「平等」は男性ではあまり変わらないが、女性は 12.7 ポイント下回っているなどと、他の分野に比べて平等感強いものの全国と比較すると女性の平等感が低くなっている。

## ⑧ 国や政治の場

図II-1-8 「国や政治の場」における男女の地位の平等感[全体、性別] (県調査・全国調査比較)



「国や政治の場」における男女の地位は『男性優遇』が 68.4%と分野別で 2 番目に高く、男性優遇が強く認識されている分野である。

性別でみると、女性の『男性優遇』は 74.7%に対し、男性は 59.9%と約 15 ポイントの差があり、「平等」は女性では 9.1%と 1 割に満たないが、男性は 29.6%と 3 割近くになっている。女性の方が男性は優遇されていると強く認識している。

県調査と比較すると、「平等」は県調査では 12.1%で今回調査の方が 5.7 ポイント上回っており、『男性優遇』は 7.4 ポイント下回っている。性別でも男女とも今回調査の方が「平等」は上回っており、『男性優遇』は下回っている。

全国調査と比較すると、「平等」は全国調査では、18.6%で今回調査とあまり変わらない。

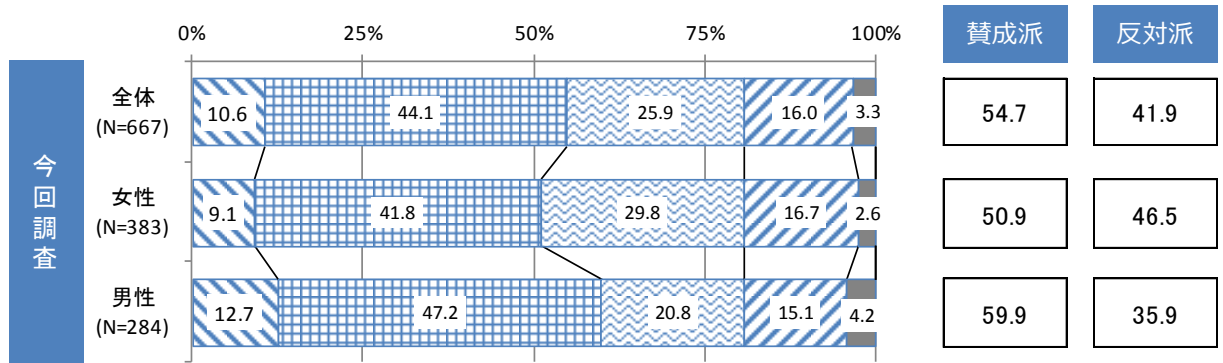


## 2. 家庭生活について

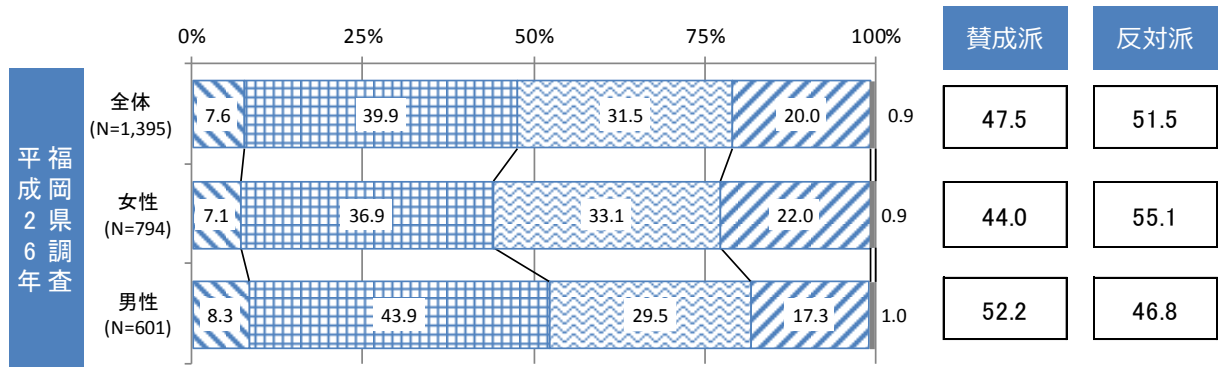
### (1) 性別役割分担意識

【問2】あなたは、「男は仕事、女は家庭を守る」という考え方を、どう思いますか。あてはまる番号に○を付けてください。（○印は1つ）

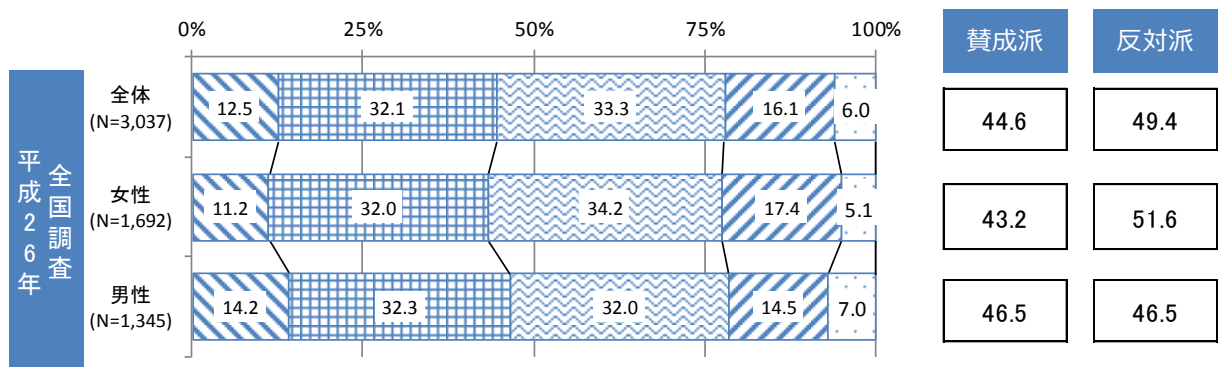
図Ⅱ-2-1 性別役割分担意識[全体、性別]（県調査・全国調査比較）



■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ 無回答



■ 同感する ■ ある程度同感する ■ あまり同感しない ■ 同感しない ■ 無回答



■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 ■ 反対 ■ わからない

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、全体では「賛成」(10.6%)「どちらかといえば賛成」(44.1%)を合わせた『賛成派』が54.7%で、「どちらかといえば反対」(25.9%)「反対」(16.0%)を合わせた『反対派』が41.9%と性別役割分担を容認する人が、12.8ポイント上回っている。

性別でみると、『賛成派』は女性が50.9%、男性が59.9%といずれも5割を超えている。一方、『反対派』は女性が46.5%、男性が35.9%となっており、男性の方が性別役割分担について肯定する人が多い。

県調査と比較すると、設問項目が違うため正確な比較はできないが、県調査の『賛成派』は47.5%と今回調査を7.2ポイント下回り、『反対派』は51.5%と今回調査を9.6ポイント上回っている。性別にみると、女性の『賛成派』は県調査では44.0%で今回調査が6.9ポイント高く、『反対派』は県調査では55.1%で今回調査が8.6ポイント低い。

平成26年に実施された内閣府の「女性の活躍推進に関する世論調査」(以下「全国調査」という)と比較すると、全国調査の『賛成派』は44.6%で今回調査を10.1ポイント下回り、『反対派』は49.4%と今回調査を7.5ポイント上回っている。古賀市では福岡県内や全国と比較して性別役割分担を容認する人が多い傾向がうかがえる。

年代別でみると、女性の70代以上では『賛成派』が6割を超えて、『反対派』の割合を上回っているが、20代と30代では『反対派』が5割を超えて『賛成派』を上回り、40代と50代では『賛成派』『反対派』が約5割となっている。一方、男性では30代以上の年代は『賛成派』が5割を超えて、『反対派』を上回っている。20代は『反対派』が7割を超えて、『賛成派』を上回っている。30代では女性は『反対派』、男性は『賛成派』が多くなっており、同年代でありながらも性別で反対の結果となっている。

表Ⅱ-2-1 性別役割分担意識[全体、年代別]

		標本数	賛成	いど えち ばら か 成と	いど えち ばら 反 か 対と	反対	無回答	賛成派	反対派
全体		667	71	294	173	107	22	365	280
		100.0	10.6	44.1	25.9	16.0	3.3	54.7	42.0
年代別	女性:20代	27	7.4	37.0	37.0	18.5	0.0	44.4	55.6
	女性:30代	43	14.0	25.6	39.5	18.6	2.3	39.5	58.1
	女性:40代	56	7.1	42.9	28.6	21.4	0.0	50.0	50.0
	女性:50代	71	5.6	45.1	31.0	18.3	0.0	50.7	49.3
	女性:60代	99	11.1	35.4	32.3	15.2	6.1	46.5	47.5
	女性:70代以上	87	9.2	55.2	19.5	12.6	3.4	64.4	32.2
	男性:20代	14	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0	28.6	71.4
	男性:30代	26	3.8	53.8	30.8	11.5	0.0	57.7	42.3
	男性:40代	37	10.8	56.8	13.5	16.2	2.7	67.6	29.7
	男性:50代	46	10.9	41.3	23.9	23.9	0.0	52.2	47.8
	男性:60代	78	17.9	44.9	17.9	16.7	2.6	62.8	34.6
	男性:70代以上	83	14.5	49.4	18.1	7.2	10.8	63.9	25.3

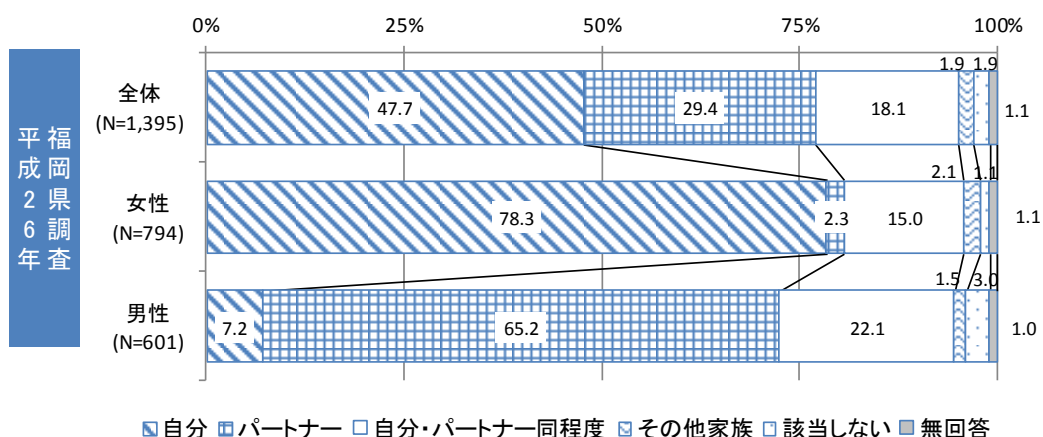
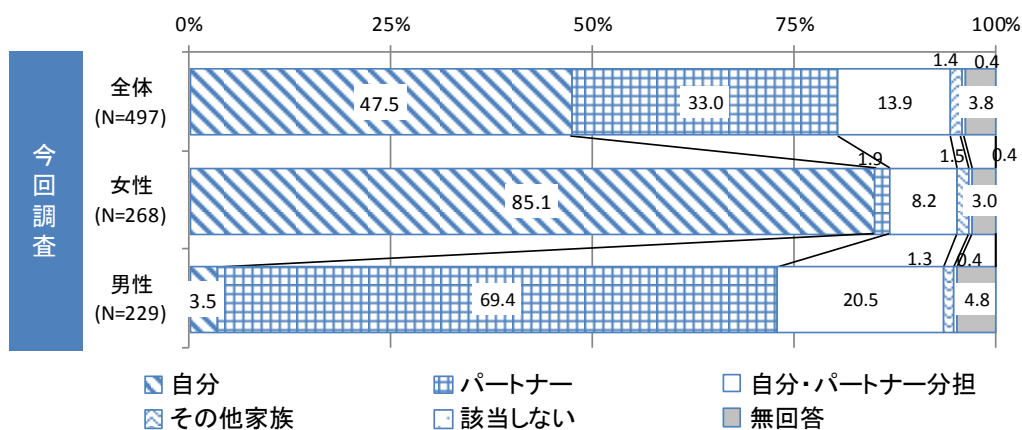
## (2) 家庭内の役割分担の状況

【問3】現在、配偶者（パートナー）と同居している方におたずねします。

あなたのご家庭では次にあげる項目を、あなたと配偶者（パートナー）のどちらが主にされていますか。（ア）～（ク）のそれぞれについて、あてはまる番号に○を付けてください。（○印はそれぞれ1つ）

### ① 炊事

図Ⅱ-2-2 炊事[全体、性別]（県調査比較）



「炊事」を主に行うのは、女性は「自分」（85.1%）、男性は「パートナー」（69.4%）の割合が最も高く、日常の炊事は女性が担うことが多い。「自分・パートナー分担」は女性が8.2%、男性が20.5%と男性の方が12.3ポイント高い。

県調査と比較すると、設問項目が異なるため正確な比較はできないが、今回調査の方が「自分・パートナー分担」とする割合が低く、特に女性で差が大きい。今回調査においては炊事の負担が女性に大きく偏っていることがうかがえる。

年代別でみると、女性の40代以上が「自分」と答えた割合が8割を超えている。

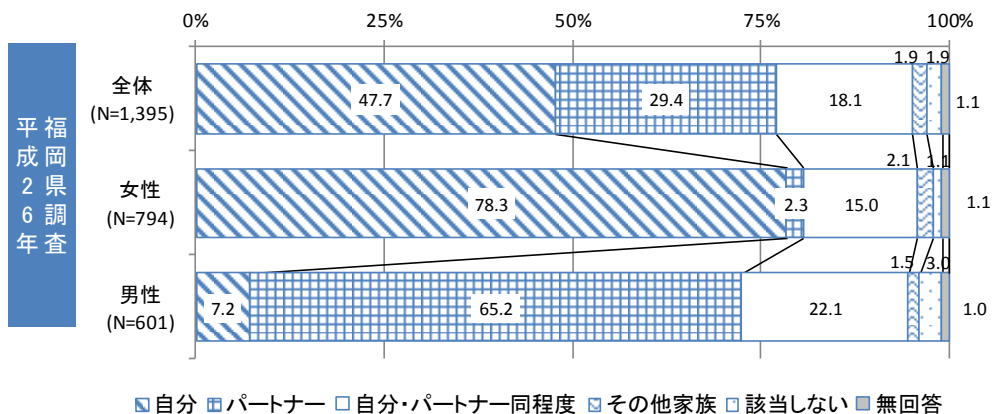
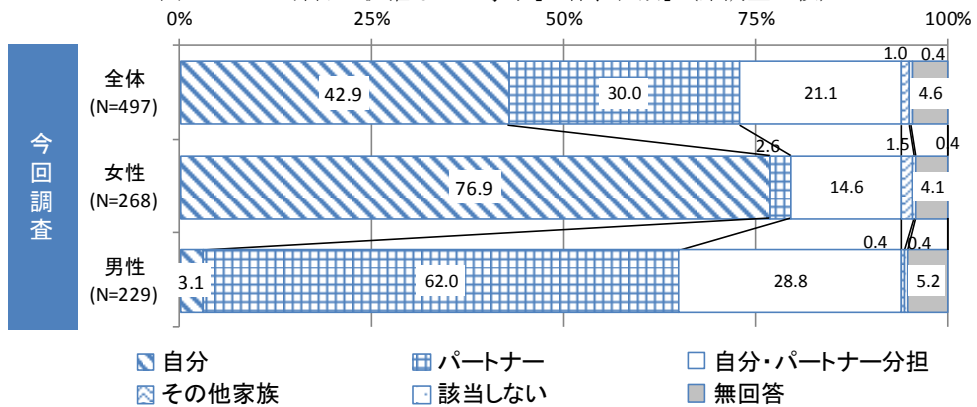
性別役割分担意識別でみると、男性では「反対」の人で「自分・パートナー分担」が3割台半ばと高いが、女性では「反対」とした人でも「自分・パートナー分担」は1割強にとどまる。

表Ⅱ-2-2 炊事[全体、年代別、性別役割分担別]

		標本数	自分	パートナー	自分・パートナー 分擔	その他家族	該当しない	無回答
全体		497	236	164	69	7	2	19
		100.0	47.5	33.0	13.9	1.4	0.4	3.8
年代	女性:20代	6	50.0	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0
	女性:30代	35	77.1	2.9	14.3	2.9	0.0	2.9
	女性:40代	39	87.2	2.6	5.1	0.0	2.6	2.6
	女性:50代	56	92.9	0.0	5.4	0.0	0.0	1.8
	女性:60代	83	85.5	1.2	8.4	1.2	0.0	3.6
	女性:70代以上	49	83.7	4.1	6.1	2.0	0.0	4.1
	男性:20代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:30代	13	7.7	76.9	15.4	0.0	0.0	0.0
	男性:40代	32	0.0	81.3	18.8	0.0	0.0	0.0
	男性:50代	37	0.0	64.9	32.4	0.0	0.0	2.7
男性:60代	74	5.4	73.0	21.6	0.0	0.0	0.0	
男性:70代以上	72	4.2	61.1	15.3	4.2	1.4	13.9	
性別 役割 分担 意識 別	女性:賛成	25	84.0	8.0	8.0	0.0	0.0	0.0
	女性:どちらかといえば賛成	110	86.4	0.9	7.3	1.8	0.9	2.7
	女性:どちらかといえば反対	80	88.8	0.0	8.8	0.0	0.0	2.5
	女性:反対	45	82.2	2.2	11.1	4.4	0.0	0.0
	男性:賛成	31	3.2	74.2	22.6	0.0	0.0	0.0
	男性:どちらかといえば賛成	113	1.8	77.0	15.9	2.7	0.0	2.7
	男性:どちらかといえば反対	40	5.0	62.5	25.0	0.0	0.0	7.5
	男性:反対	35	5.7	60.0	34.3	0.0	0.0	0.0
	無回答	18	27.8	22.2	0.0	0.0	5.6	44.4

② 掃除・洗濯

図Ⅱ-2-3 掃除・洗濯などの家事[全体、性別] (県調査比較)



「掃除・洗濯」を主に行うのは、女性は「自分」(76.9%)、男性は「パートナー」(62.0%)の割合が高く、日常の掃除・洗濯も炊事と同様に女性が担うことが多い。「自分・パートナー分担」は女性が14.6%、男性が28.8%と炊事よりも割合が高い。

県調査と比較すると、設問項目が違うため正確な比較はできないが、今回調査の方が「自分」または「自分・パートナー分担」とする男性の割合が高くなっているが、女性では差はみられない。

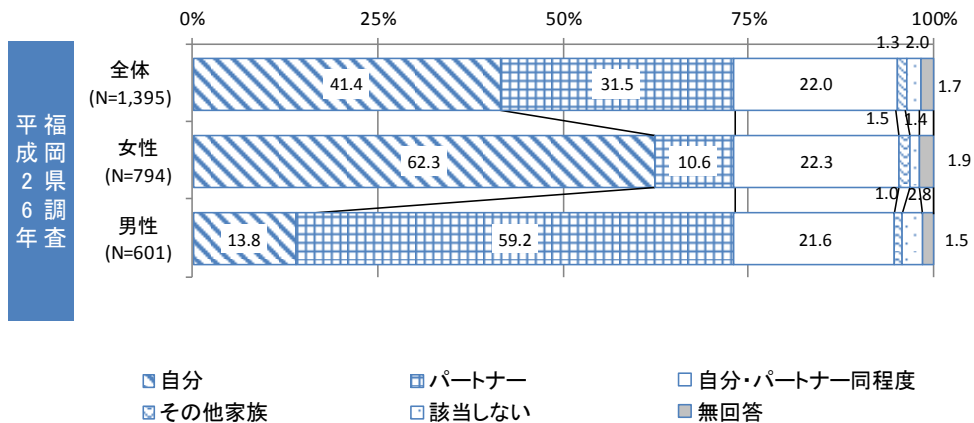
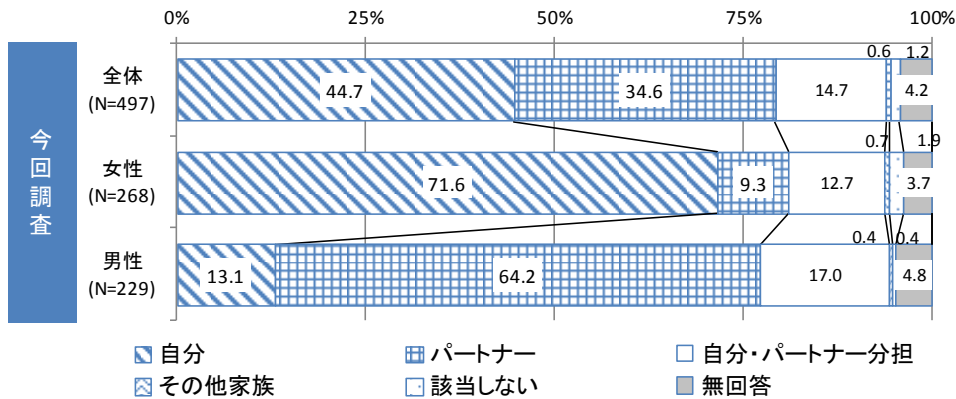
性別役割分担意識別でみると、男性で「反対」とした人が「自分・パートナー分担」と答えた割合が、最も高い。

表Ⅱ-2-3 掃除・洗濯などの家事[全体、性別役割分担意識別]

		標本数	自分	パートナー	自分・パートナー分担	その他家族	該当しない	無回答
全体		497	213	149	105	5	2	23
		100.0	42.9	30.0	21.1	1.0	0.4	4.6
性別役割分担意識別	女性:賛成	25	88.0	8.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	女性:どちらかといえば賛成	110	79.1	1.8	13.6	1.8	0.9	2.7
	女性:どちらかといえば反対	80	82.5	0.0	13.8	0.0	0.0	3.8
	女性:反対	45	64.4	6.7	22.2	4.4	0.0	2.2
	男性:賛成	31	0.0	61.3	38.7	0.0	0.0	0.0
	男性:どちらかといえば賛成	113	4.4	68.1	21.2	0.9	0.0	5.3
	男性:どちらかといえば反対	40	2.5	60.0	35.0	0.0	0.0	2.5
	男性:反対	35	2.9	54.3	42.9	0.0	0.0	0.0
	無回答	18	11.1	16.7	22.2	0.0	5.6	44.4

### ③ 日々の家計の管理

図Ⅱ-2-4 家計支出の管理[全体、性別] (県調査比較)



「日々の家計の管理」については、女性は「自分」(71.6%)、男性は「パートナー」(64.2%)の割合が高く、「自分・パートナー分担」は女性が12.7%、男性が17.0%と男性の方が4.3ポイント高い。

県調査と比較すると、「自分・パートナー同程度」が男女とも今回調査の方が低く、女性が管理しているとする割合が高くなっている。

年代別で見ると、40代では、男女とも女性が管理しているとする割合がやや高くなっている。

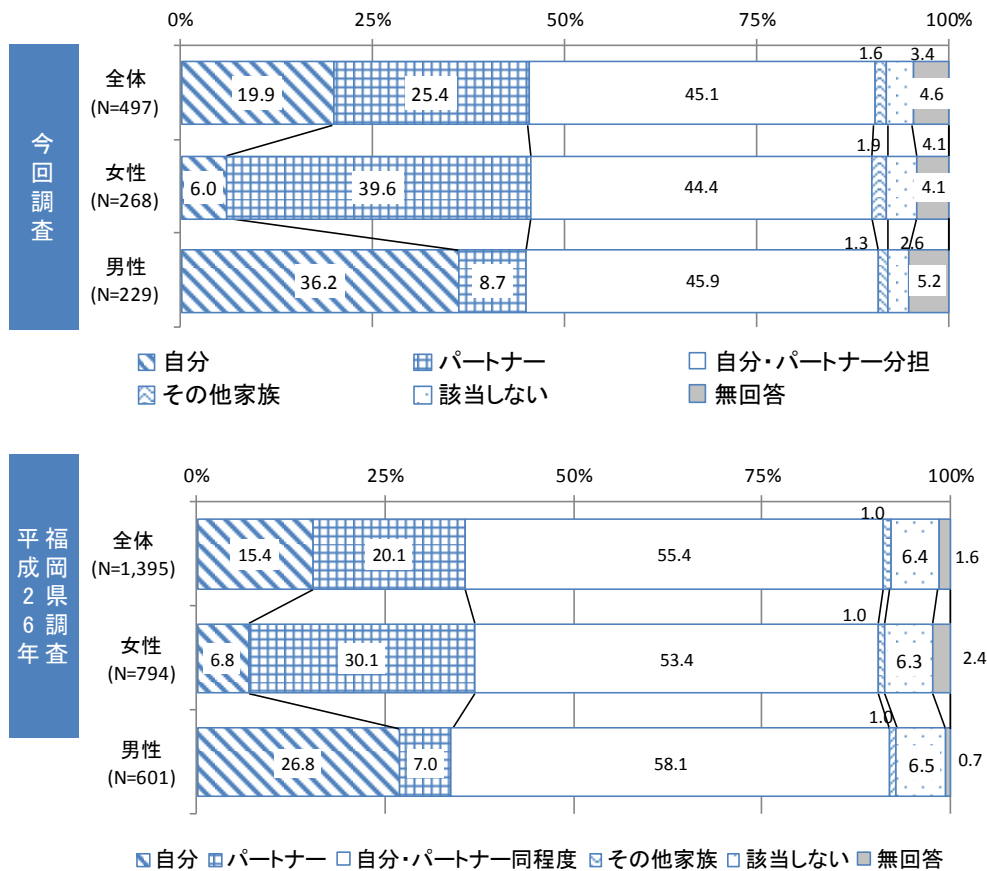
性別役割分担意識別で見ると、賛成する男性ほど「自分」の割合が高く、賛成しない男性ほど「自分・パートナー分担」の割合が高くなっている。

表Ⅱ- 2-4 家計支出の管理[全体、年代別、性別役割分担意識別]

		標本数	自分	パートナー	自分・パートナー分担	その他家族	該当しない	無回答
全体		497	222	172	73	3	6	21
		100.0	44.7	34.6	14.7	0.6	1.2	4.2
年代	女性:20代	6	83.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
	女性:30代	35	74.3	11.4	5.7	2.9	2.9	2.9
	女性:40代	39	79.5	5.1	7.7	0.0	5.1	2.6
	女性:50代	56	67.9	7.1	23.2	0.0	0.0	1.8
	女性:60代	83	72.3	10.8	9.6	0.0	2.4	4.8
	女性:70代以上	49	65.3	12.2	14.3	2.0	0.0	6.1
	男性:20代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:30代	13	15.4	53.8	30.8	0.0	0.0	0.0
	男性:40代	32	6.3	84.4	9.4	0.0	0.0	0.0
	男性:50代	37	5.4	73.0	16.2	0.0	0.0	5.4
	男性:60代	74	17.6	63.5	17.6	0.0	1.4	0.0
男性:70代以上	72	15.3	52.8	18.1	1.4	0.0	12.5	
性別役割分担意識別	女性:賛成	25	72.0	16.0	8.0	0.0	0.0	4.0
	女性:どちらかといえば賛成	110	74.5	5.5	13.6	1.8	0.9	3.6
	女性:どちらかといえば反対	80	73.8	7.5	13.8	0.0	2.5	2.5
	女性:反対	45	68.9	13.3	13.3	0.0	4.4	0.0
	男性:賛成	31	19.4	71.0	6.5	0.0	3.2	0.0
	男性:どちらかといえば賛成	113	15.0	63.7	16.8	0.9	0.0	3.5
	男性:どちらかといえば反対	40	10.0	65.0	20.0	0.0	0.0	5.0
	男性:反対	35	5.7	68.6	25.7	0.0	0.0	0.0
	無回答	18	16.7	33.3	5.6	0.0	0.0	44.4

#### ④ 高額の商品や土地・家屋の購入

図Ⅱ-2-5 高額商品や土地・家屋の購入[全体、性別] (県調査比較)



「高額の商品や土地・家屋の購入」を主に行うのは、「自分・パートナー分担」が4割を超えて最も高くなっている。家計の管理は女性が中心であったが、重要な経済的決定は男性と女性が、または男性中心で行われていることがわかる。

県調査と比較すると、今回調査は男女とも「自分・パートナー分担」が低く、男性が担当する割合が高くなっている。

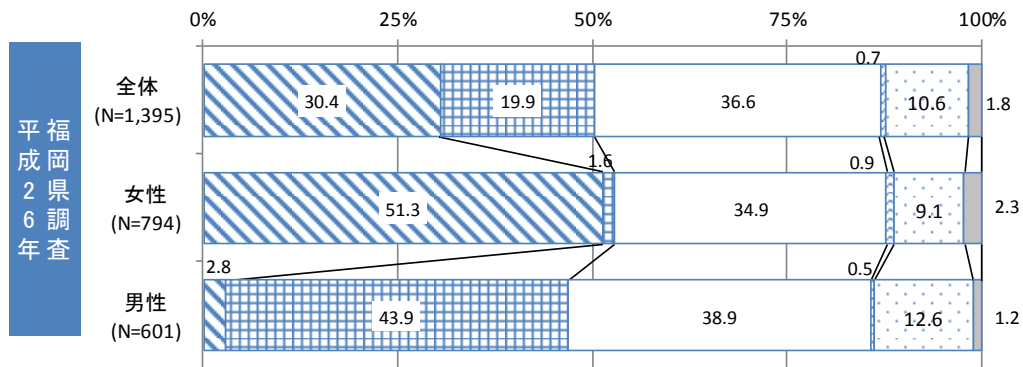
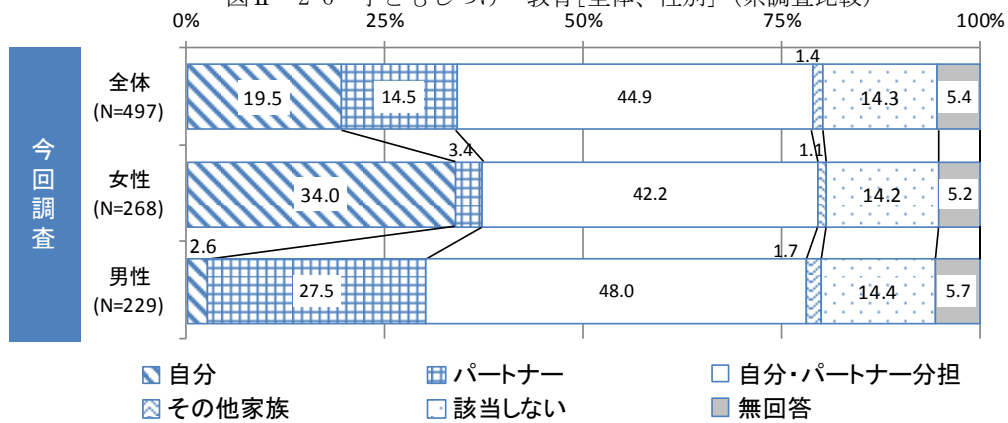
性別役割分担意識別でみると、「賛成」する男性ほど「自分」の割合が高くなっている。

表Ⅱ-2-5 高額商品や土地・家屋の購入[全体、性別役割分担別]

		標本数	自分	パートナー	自分・パートナー分担	その他家族	該当しない	無回答
全体		497	99	126	224	8	17	23
		100.0	19.9	25.4	45.1	1.6	3.4	4.6
性別役割分担意識別	女性:賛成	25	16.0	48.0	28.0	0.0	4.0	4.0
	女性:どちらかといえば賛成	110	1.8	40.0	46.4	2.7	5.5	3.6
	女性:どちらかといえば反対	80	6.3	42.5	43.8	1.3	2.5	3.8
	女性:反対	45	11.1	28.9	53.3	2.2	4.4	0.0
	男性:賛成	31	45.2	6.5	45.2	0.0	3.2	0.0
	男性:どちらかといえば賛成	113	40.7	4.4	47.8	0.9	1.8	4.4
	男性:どちらかといえば反対	40	30.0	17.5	45.0	2.5	2.5	2.5
	男性:反対	35	28.6	14.3	51.4	0.0	5.7	0.0
無回答		18	5.6	22.2	16.7	5.6	0.0	50.0

### ⑤ 子どものしつけ・教育

図Ⅱ-2-6 子どものしつけ・教育[全体、性別] (県調査比較)



■自分 ■パートナー □自分・パートナー同程度 ■その他家族 □該当しない ■無回答

「子どものしつけ・教育」を主に行うのは、男女とも「自分・パートナー分担」が4割を超えて最も高くなっているが、女性が担っている割合も3割前後に上る。

県調査と比較すると、「自分・パートナー分担」の割合が、今回調査の方が高くなっている。

年代別で見ると、40代では女性は「自分・パートナー分担」が約3割と低いが、男性では6割台半ばと高くなっており、認識に差があることが見受けられる。

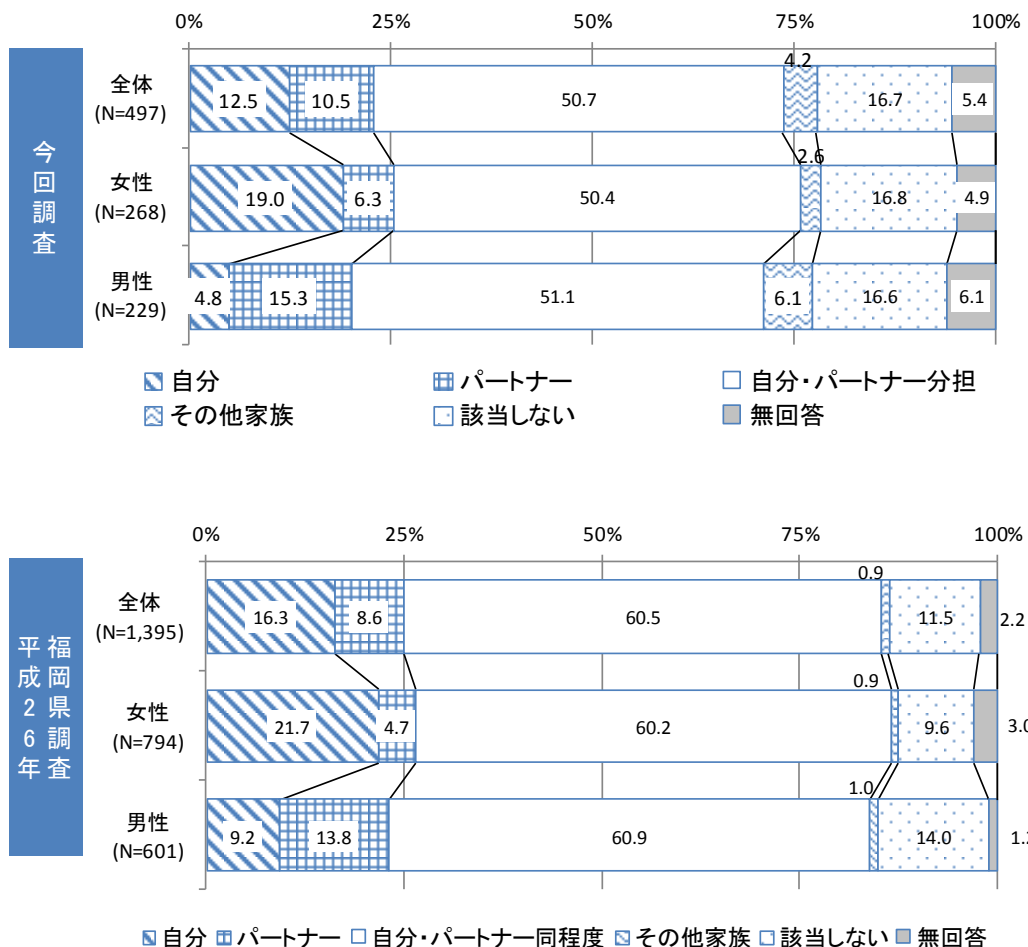
表Ⅱ-2-6 子どものしつけ・教育[全体、年代別、性別役割分担意識別]

		標本数	自分	パートナー	自分・パートナー同程度	その他家族	該当しない	無回答
全体		497	97	72	223	7	71	27
		100.0	19.5	14.5	44.9	1.4	14.3	5.4
年代	女性:20代	6	0.0	0.0	83.3	0.0	16.7	0.0
	女性:30代	35	40.0	2.9	40.0	0.0	14.3	2.9
	女性:40代	39	51.3	2.6	30.8	0.0	12.8	2.6
	女性:50代	56	28.6	3.6	57.1	0.0	8.9	1.8
	女性:60代	83	33.7	4.8	41.0	2.4	13.3	4.8
	女性:70代以上	49	26.5	2.0	32.7	2.0	22.4	14.3
	男性:20代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	男性:30代	13	0.0	38.5	23.1	0.0	38.5	0.0
	男性:40代	32	0.0	25.0	65.6	0.0	9.4	0.0
	男性:50代	37	0.0	21.6	64.9	0.0	8.1	5.4
	男性:60代	74	4.1	32.4	44.6	1.4	17.6	0.0
男性:70代以上	72	4.2	25.0	38.9	4.2	12.5	15.3	



## ⑥ 子どもの教育方針・進路目標の決定

図Ⅱ- 2-7 子どもの教育方針・進路目標の決定[全体、性別] (県調査比較)



「子どもの教育方針・進路目標の決定」を主に行うのは、男女とも「自分・パートナー分担」が約5割と最も高くなっている。性別でみると、男性が「その他家族」（6.1%）と「自分」（4.8%）よりも高い割合となっている。

県調査と比較すると、「自分・パートナー分担」（60.5%）は今回調査が9.8ポイント下回っている。

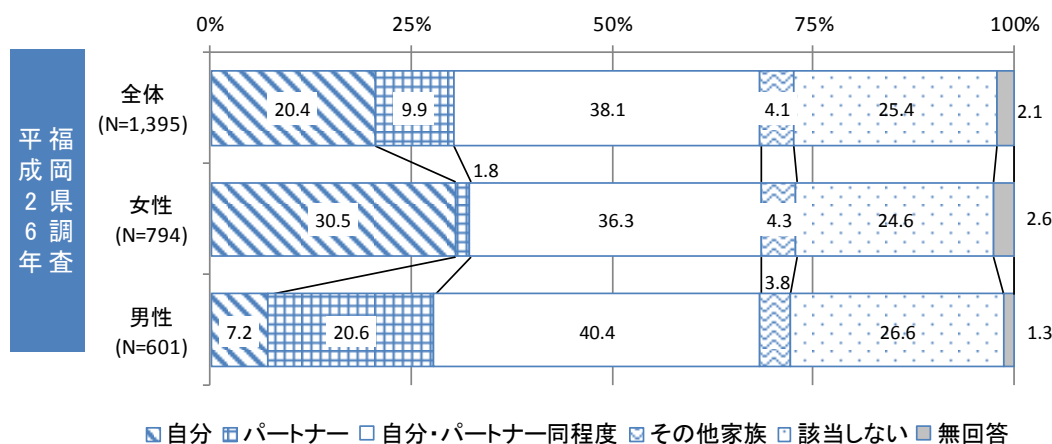
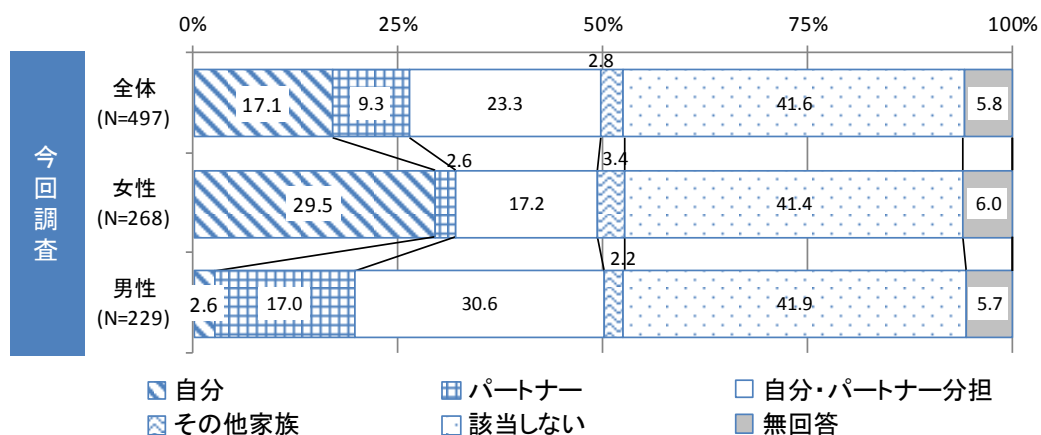
年代別でみると、男女とも年代にかかわらず「自分・パートナー分担」の割合が最も高いが、40代の女性では「自分」の割合が比較的高くなっている。年代が高くなるにつれ、「その他家族」の割合も高くなっている。

表Ⅱ- 2-7 子どもの教育方針・進路目標の決定[全体、年代別]

	標本数	自分	パートナー	自分・パートナー分担	その他家族	該当しない	無回答	
全体	497	62	52	252	21	83	27	
	100.0	12.5	10.5	50.7	4.2	16.7	5.4	
年代	女性:20代	6	0.0	0.0	83.3	0.0	16.7	0.0
	女性:30代	35	22.9	0.0	54.3	0.0	20.0	2.9
	女性:40代	39	33.3	2.6	48.7	0.0	12.8	2.6
	女性:50代	56	19.6	7.1	58.9	1.8	10.7	1.8
	女性:60代	83	16.9	9.6	49.4	3.6	15.7	4.8
	女性:70代以上	49	10.2	8.2	36.7	6.1	26.5	12.2
	男性:20代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	男性:30代	13	0.0	23.1	38.5	0.0	38.5	0.0
	男性:40代	32	3.1	21.9	59.4	6.3	9.4	0.0
	男性:50代	37	2.7	16.2	64.9	2.7	10.8	2.7
男性:60代	74	5.4	16.2	54.1	2.7	20.3	1.4	
男性:70代以上	72	6.9	9.7	38.9	12.5	15.3	16.7	

## ⑦ 高齢者などの介護

図Ⅱ-2-8 高齢者の介護[全体、性別] (県調査比較)



「高齢者などの介護」については「自分・パートナー分担」が女性 17.2%、男性 30.6%となっているが、女性は「自分」が 29.5%、男性では「パートナー」が 17.0%と女性が担う場合も多い。また「該当しない」は 4 割を超えている。

県調査と比較すると、男女ともに今回調査では「自分・パートナー分担」の割合が 10 ポイント以上下回っており、該当しない人を除くとその差はさらに大きくなる。また、「自分・パートナー分担」についての性別による認識の差も大きい。

年代別にみると、男女ともに 50 代で「該当しない」の割合が他の年代よりも低く、介護を担っている世代であることがうかがえる。

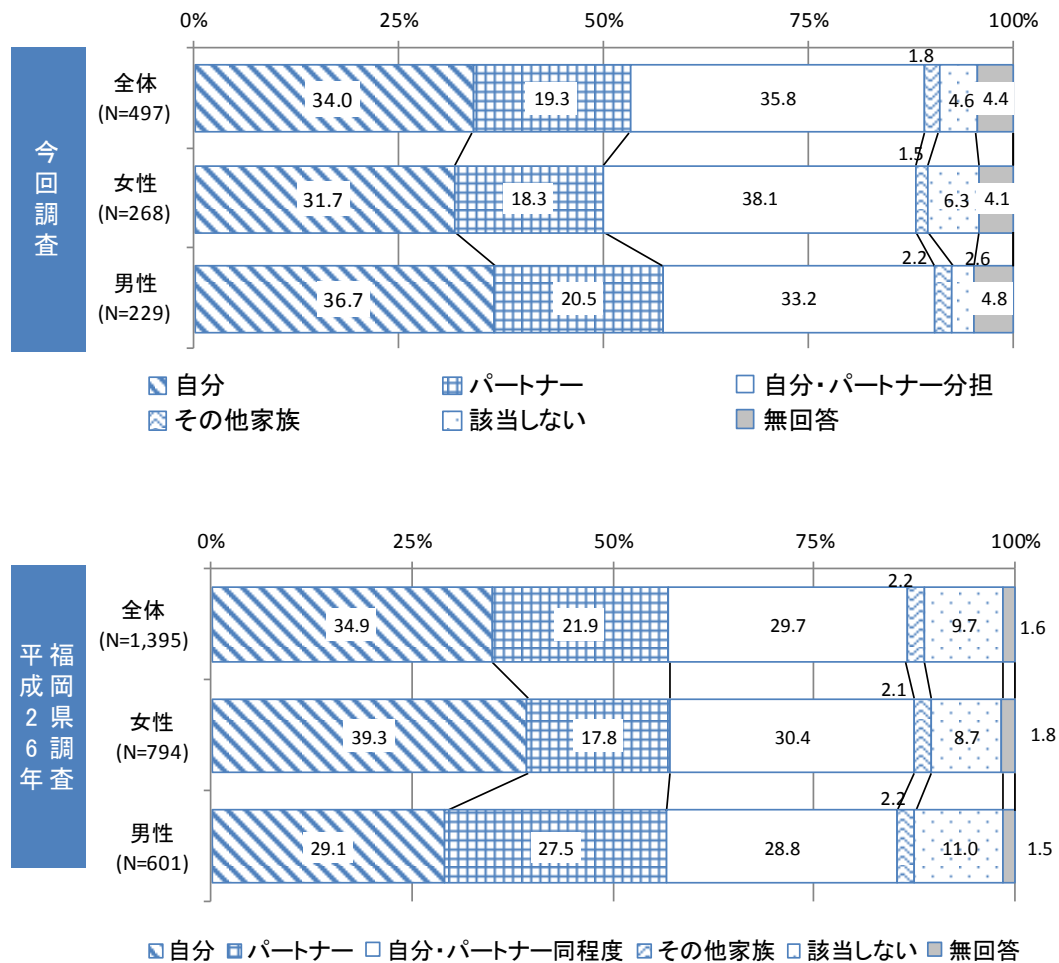
性別役割分担意識別で該当しない人を除いてみると、女性では性別役割分担に反対の人ほど「パートナー」「自分・パートナー分担」が高くなる傾向がみられる。

表Ⅱ- 2-8 高齢者の介護[全体、年代別、性別役割分担意識別]

		標本数	自分	パートナー	自分・パートナー	その他家族	該当しない	無回答
全体		497	85	46	116	14	207	29
		100.0	17.1	9.3	23.3	2.8	41.6	5.8
年代	女性:20代	6	0.0	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0
	女性:30代	35	22.9	0.0	8.6	2.9	62.9	2.9
	女性:40代	39	25.6	2.6	15.4	0.0	53.8	2.6
	女性:50代	56	33.9	3.6	30.4	3.6	26.8	1.8
	女性:60代	83	33.7	2.4	19.3	3.6	36.1	4.8
	女性:70代以上	49	28.6	4.1	8.2	4.1	36.7	18.4
	男性:20代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	男性:30代	13	0.0	15.4	23.1	7.7	53.8	0.0
	男性:40代	32	0.0	12.5	15.6	3.1	68.8	0.0
	男性:50代	37	0.0	16.2	54.1	2.7	24.3	2.7
男性:60代	74	4.1	21.6	31.1	1.4	41.9	0.0	
男性:70代以上	72	4.2	15.3	26.4	1.4	36.1	16.7	
性別役割分担意識別	女性:賛成	25	32.0	0.0	12.0	0.0	48.0	8.0
	女性:どちらかといえば賛成	110	29.1	1.8	19.1	6.4	38.2	5.5
	女性:どちらかといえば反対	80	30.0	2.5	13.8	0.0	48.8	5.0
	女性:反対	45	28.9	4.4	24.4	4.4	35.6	2.2
	男性:賛成	31	3.2	12.9	32.3	6.5	45.2	0.0
	男性:どちらかといえば賛成	113	1.8	19.5	27.4	0.9	46.0	4.4
	男性:どちらかといえば反対	40	5.0	7.5	42.5	2.5	40.0	2.5
	男性:反対	35	2.9	25.7	31.4	2.9	37.1	0.0
無回答	18	11.1	11.1	5.6	0.0	16.7	55.6	

⑧ 自治会・町内会などの会合への参加

図Ⅱ- 2-9 自治会・町内会等への会合への参加[全体、性別] (県調査比較)



「自治会・町内会などへの会合への参加」については、女性は「自分・パートナー分担」(38.1%)が約4割と最も高く、男性は「自分」(36.7%)と「自分・パートナー分担」(33.2%)が同程度となっている。

県調査と比較すると、男性の「自分」の割合は、今回調査が7.6ポイント上回っており、一方、「パートナー」の割合は7ポイント下回っている。古賀市では、福岡県内より男性が参加していることがうかがえる。

年代別でみると、女性の40代、50代では「自分」が約4割となっている。一方、男性では、30代・40代・70代以上で「自分」が4割を超えている。女性の30代以下の年齢層で「該当しない」が約2割から3割と高く、年齢の低い層では地域活動への参加が少ないこともわかる。

表Ⅱ-2-9 自治会・町内会などの会合への参加[全体、年代別]

	標本数	自分	パートナー	自分・パートナー分担	その他家族	該当しない	無回答	
全体	497	169	96	178	9	23	22	
	100.0	34.0	19.3	35.8	1.8	4.6	4.4	
年代	女性:20代	6	0.0	0.0	50.0	16.7	33.3	0.0
	女性:30代	35	31.4	2.9	42.9	2.9	17.1	2.9
	女性:40代	39	41.0	5.1	41.0	2.6	7.7	2.6
	女性:50代	56	42.9	23.2	30.4	0.0	1.8	1.8
	女性:60代	83	27.7	24.1	39.8	0.0	2.4	6.0
	女性:70代以上	49	22.4	26.5	36.7	2.0	6.1	6.1
	男性:20代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	男性:30代	13	46.2	0.0	38.5	7.7	7.7	0.0
	男性:40代	32	43.8	12.5	40.6	0.0	3.1	0.0
	男性:50代	37	21.6	32.4	37.8	0.0	5.4	2.7
	男性:60代	74	31.1	29.7	36.5	0.0	2.7	0.0
	男性:70代以上	72	45.8	12.5	22.2	5.6	0.0	13.9

### (3) 子どものしつけや教育についての考え方

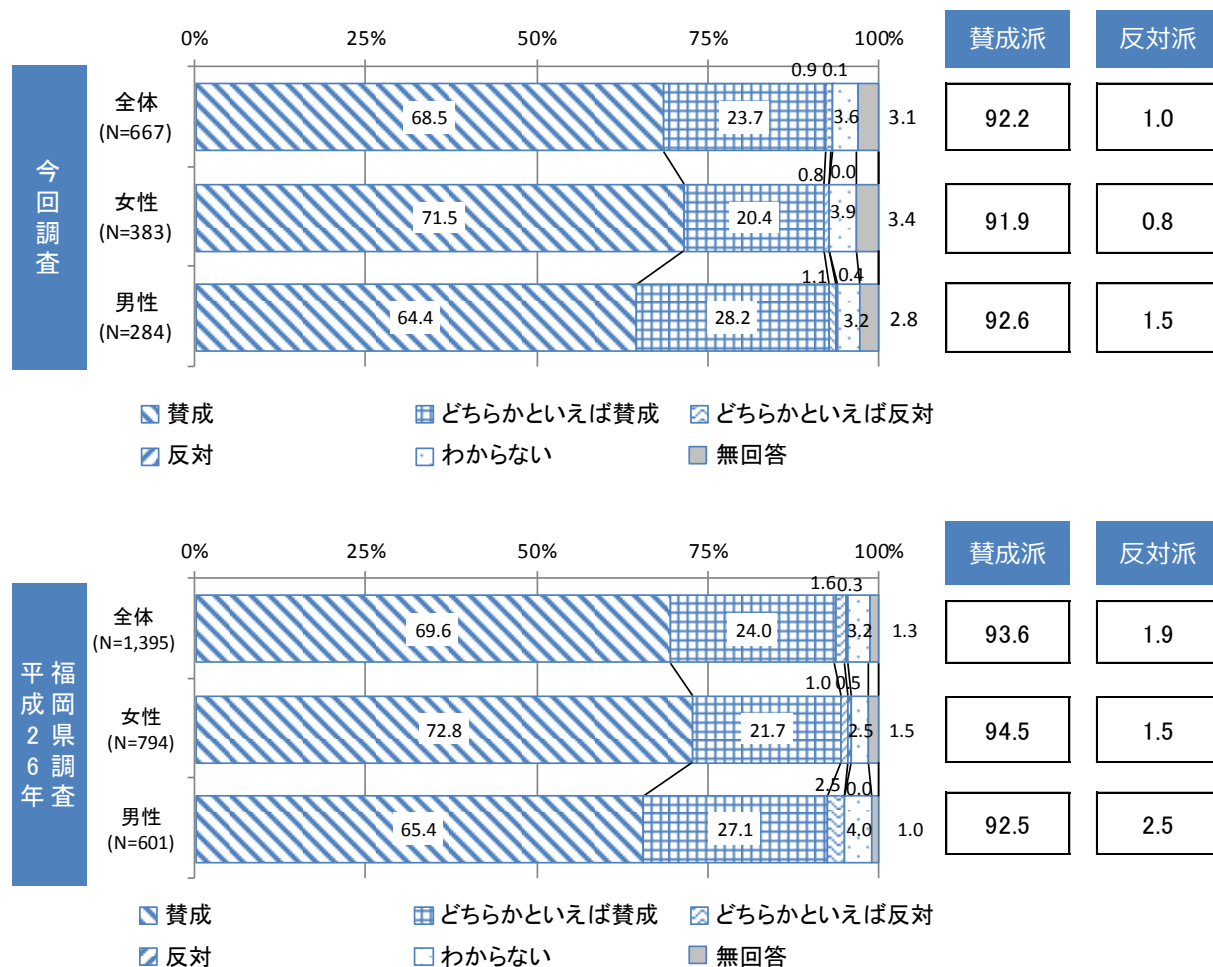
【問4】あなたは、子どもの教育について、どのような考え方をお持ちですか。

(ア)～(ウ)のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

(○印はそれぞれ1つ)

#### ① 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

図Ⅱ-2-10 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう教育が必要[全体、性別] (県調査比較)



「女の子も男の子と同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」について、「賛成」が68.5%、「どちらかといえば賛成」が23.7%と合計した『賛成派』は92.2%と、『反対派』（「反対」(0.1%)と「どちらかといえば反対」(0.9%)の合計)の1.0%を大きく上回っている。

性別で見ると、男女とも『賛成派』は9割を超えているが、その内訳をみると「賛成」は女性が71.5%に対し、男性は64.4%と女性の方が積極的に賛成している。

既未婚別でみると、女性の未婚者で『賛成派』が8割台にとどまり、積極的な「賛成」も62.0%と女性の中では低くなっている。

年代別でみると、男女とも70代以上で『賛成派』が9割に達していないが、男性の60代でも88.5%と8割台にとどまり、積極的な「賛成」は20代の男性が57.1%と最も低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に賛成しない人ほど積極的な「賛成」の割合が高くなっており、性別役割分担に「反対」の人で8割を超えている。

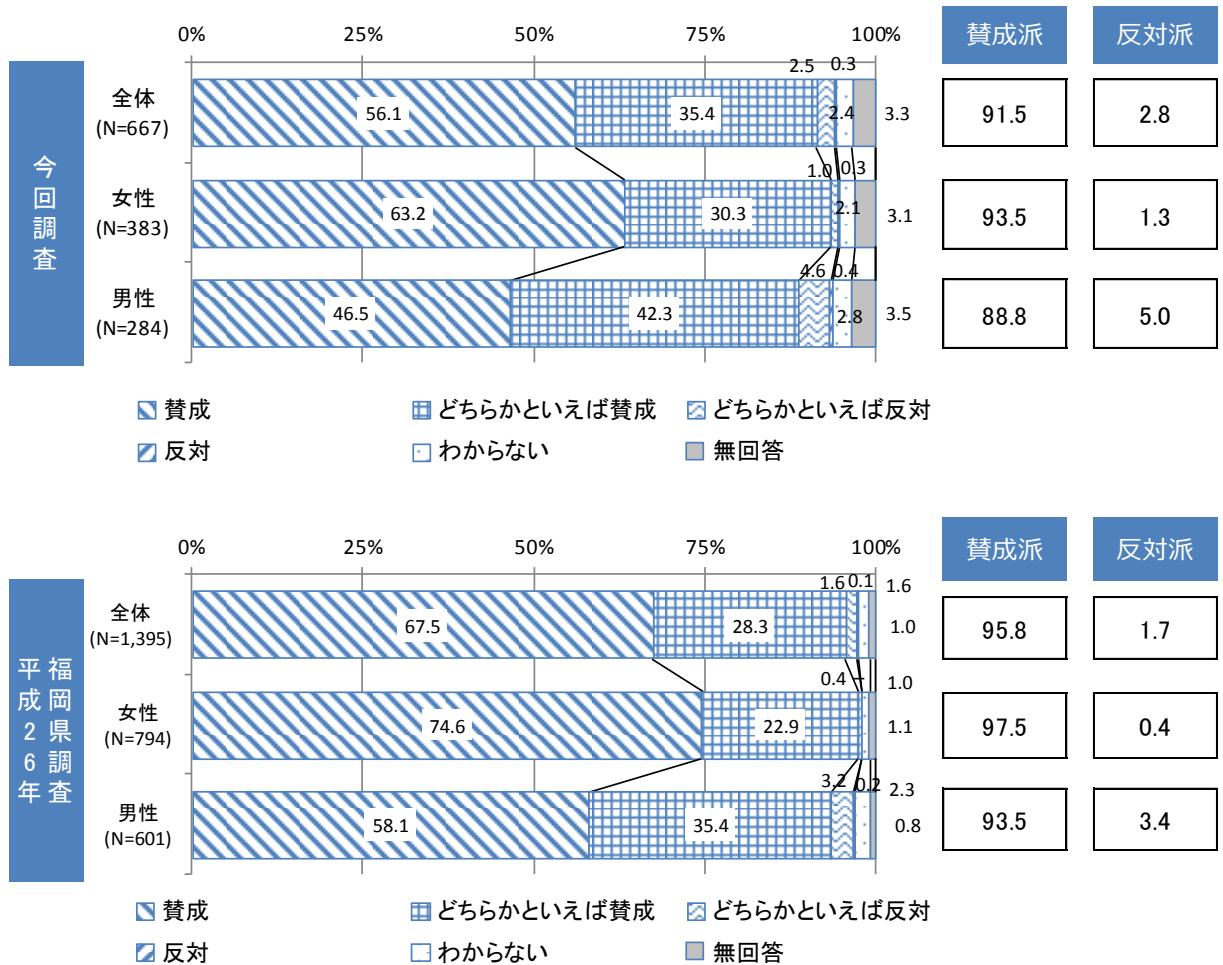
表Ⅱ-2-10 女の子も男の子と同等に経済的に自立できるような教育が必要

[全体、既未婚別、年代別、性別役割分担意識別]

	標本数	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答	賛成派	反対派	
全体	667	457	158	6	1	24	21	615	7	
	100.0	68.5	23.7	0.9	0.1	3.6	3.1	92.2	1.0	
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	73.5	20.5	0.7	0.0	2.6	2.6	94.0	0.7
	女性:離・死別	60	73.3	16.7	1.7	0.0	1.7	6.7	90.0	1.7
	女性:未婚	50	62.0	24.0	0.0	0.0	12.0	2.0	86.0	0.0
	男性:パートナーがいる	229	65.9	27.1	0.9	0.4	3.1	2.6	93.0	1.3
	男性:離・死別	14	71.4	21.4	7.1	0.0	0.0	0.0	92.9	7.1
	男性:未婚	32	56.3	37.5	0.0	0.0	3.1	3.1	93.8	0.0
	無回答	14	42.9	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3	71.4	0.0
年代別	女性:20代	27	70.4	22.2	0.0	0.0	3.7	3.7	92.6	0.0
	女性:30代	43	74.4	16.3	0.0	0.0	9.3	0.0	90.7	0.0
	女性:40代	56	78.6	12.5	1.8	0.0	7.1	0.0	91.1	1.8
	女性:50代	71	73.2	23.9	0.0	0.0	1.4	1.4	97.2	0.0
	女性:60代	99	70.7	22.2	0.0	0.0	2.0	5.1	92.9	0.0
	女性:70代以上	87	65.5	21.8	2.3	0.0	3.4	6.9	87.4	2.3
	男性:20代	14	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	男性:30代	26	65.4	30.8	0.0	0.0	3.8	0.0	96.2	0.0
	男性:40代	37	70.3	27.0	0.0	0.0	2.7	0.0	97.3	0.0
	男性:50代	46	69.6	28.3	0.0	0.0	0.0	2.2	97.8	0.0
	男性:60代	78	60.3	28.2	3.8	1.3	6.4	0.0	88.5	5.1
男性:70代以上	83	63.9	25.3	0.0	0.0	2.4	8.4	89.2	0.0	
性別役割分担意識別	女性:賛成	35	51.4	31.4	2.9	0.0	8.6	5.7	82.9	2.9
	女性:どちらかといえば賛成	160	69.4	23.8	0.6	0.0	4.4	1.9	93.1	0.6
	女性:どちらかといえば反対	114	75.4	17.5	0.0	0.0	3.5	3.5	93.0	0.0
	女性:反対	64	87.5	9.4	1.6	0.0	1.6	0.0	96.9	1.6
	男性:賛成	36	52.8	38.9	2.8	0.0	5.6	0.0	91.7	2.8
	男性:どちらかといえば賛成	134	60.4	35.1	0.7	0.0	3.7	0.0	95.5	0.7
	男性:どちらかといえば反対	59	61.0	32.2	0.0	1.7	3.4	1.7	93.2	1.7
	男性:反対	43	95.3	0.0	2.3	0.0	0.0	2.3	95.3	2.3
無回答	22	40.9	13.6	0.0	0.0	0.0	45.5	54.5	0.0	

## ② 男の子にも炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる

図Ⅱ-2-11 男の子にも炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる[全体、性別] (県調査比較)



「男の子にも炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる」について、『賛成派』は91.5%と『反対派』の2.8%を大きく上回るなど、女の子の経済的自立と同様の結果となっている。

性別でみると、積極的な「賛成」では女性が63.2%に対し、男性は46.5%と16.7ポイントの差があり、『賛成派』も女性の方が4.7ポイント高くなっている。

県調査と比較すると、大きな特徴はみられないが、男女とも『賛成派』の割合は約4~5ポイント今回調査が低い。

既未婚別でみても、特徴的なところはみられない。

年代別でみると、女性は積極的な「賛成」は40代以下で7割を超えているが、男女とも70代以上で他の年代より低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、女の子の経済的自立と同様、男女とも賛成しない人ほど積極的な「賛成」の割合が高くなっており、男性の性別役割分担に反対の人は90.7%とかなり高くなっている。

表Ⅱ-2-11 男の子にも炊事・掃除・選択など生活に必要な技術を身につけさせる

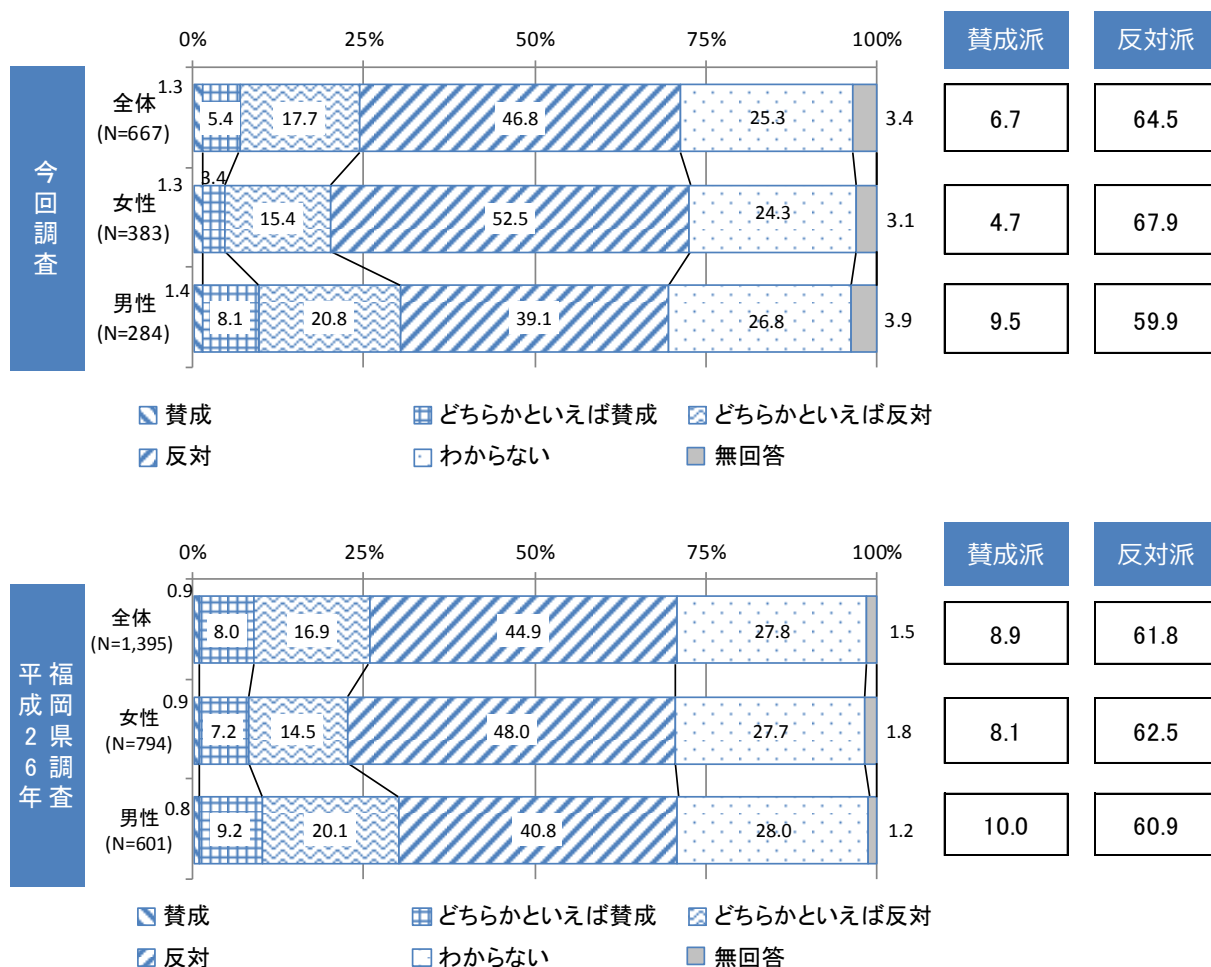
[全体、既未婚別、年代別、性別役割分担意識別]

		標本数	賛成	いどちらば賛成と	いどちらば反対と	反対	わからない	無回答	賛成派	反対派
全体		667	374	236	17	2	16	22	610	19
		100.0	56.1	35.4	2.5	0.3	2.4	3.3	91.5	2.8
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	64.6	31.0	1.1	0.4	0.7	2.2	95.5	1.5
	女性:離・死別	60	56.7	35.0	0.0	0.0	1.7	6.7	91.7	0.0
	女性:未婚	50	68.0	20.0	2.0	0.0	8.0	2.0	88.0	2.0
	男性:パートナーがいる	229	45.0	44.1	4.8	0.4	2.6	3.1	89.1	5.2
	男性:離・死別	14	42.9	35.7	14.3	0.0	7.1	0.0	78.6	14.3
	男性:未婚	32	62.5	34.4	0.0	0.0	0.0	3.1	96.9	0.0
無回答		14	28.6	35.7	0.0	0.0	14.3	21.4	64.3	0.0
年代	女性:20代	27	81.5	14.8	0.0	0.0	0.0	3.7	96.3	0.0
	女性:30代	43	74.4	20.9	2.3	0.0	2.3	0.0	95.3	2.3
	女性:40代	56	76.8	17.9	0.0	0.0	5.4	0.0	94.6	0.0
	女性:50代	71	69.0	28.2	1.4	0.0	0.0	1.4	97.2	1.4
	女性:60代	99	56.6	37.4	1.0	0.0	0.0	5.1	93.9	1.0
	女性:70代以上	87	46.0	41.4	1.1	1.1	4.6	5.7	87.4	2.3
	男性:20代	14	64.3	35.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	男性:30代	26	73.1	23.1	0.0	0.0	3.8	0.0	96.2	0.0
	男性:40代	37	56.8	40.5	0.0	0.0	2.7	0.0	97.3	0.0
	男性:50代	46	65.2	30.4	0.0	0.0	2.2	2.2	95.7	0.0
男性:60代	78	35.9	52.6	6.4	1.3	3.8	0.0	88.5	7.7	
男性:70代以上	83	30.1	47.0	9.6	0.0	2.4	10.8	77.1	9.6	
性別役割分担意識別	女性:賛成	35	40.0	42.9	5.7	0.0	5.7	5.7	82.9	5.7
	女性:どちらかといえば賛成	160	60.0	35.0	0.6	0.6	1.9	1.9	95.0	1.3
	女性:どちらかといえば反対	114	64.9	30.7	0.0	0.0	1.8	2.6	95.6	0.0
	女性:反対	64	84.4	12.5	1.6	0.0	1.6	0.0	96.9	1.6
	男性:賛成	36	27.8	47.2	13.9	2.8	5.6	2.8	75.0	16.7
	男性:どちらかといえば賛成	134	35.8	54.5	6.0	0.0	3.0	0.7	90.3	6.0
	男性:どちらかといえば反対	59	52.5	42.4	0.0	0.0	3.4	1.7	94.9	0.0
	男性:反対	43	90.7	7.0	0.0	0.0	0.0	2.3	97.7	0.0
無回答		22	36.4	18.2	0.0	0.0	0.0	45.5	54.5	0.0



### ③ 男の子は理科系、女の子は文科系にすすんだほうがよい

図Ⅱ- 2-12 男の子は理科系、女の子は文科系にすすんだほうがよい[全体、性別] (県調査比較)



「男の子は理科系、女の子は文科系にすすんだほうがよい」について「反対」が46.8%と最も高く、「どちらかといえば反対」の17.7%を合計した『反対派』は64.5%となっている。一方で「わからない」が25.3%と全体の4分の1を占めている。

性別でみると、強い「反対」は女性が52.5%、男性は39.1%と女性の方が13.4ポイント高くなっている。

県調査と比較すると、女性の『反対派』は今回調査が5.4ポイント上回り、『賛成派』は3.4ポイント下回っている。

既未婚別でみると、男性のパートナーと離・死別した人は『賛成派』が21.4%と高くなっている。

年齢別でみると、男女とも70代以上では『賛成派』が1割台と他の年代に比べて高く、『反対派』も5割台と低くなっている。また男性の40代でも『反対派』が5割台と前後の年代と比べても低いのが目立つ。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に賛成しない人ほど積極的な「反対」の割合が高く、男女とも性別役割分担に反対の人では強い「反対」が7割以上と高くなっている。

表II-2-12 男の子は理科系、女の子は文科系にすすんだほうがよい

[全体、既未婚別、年代別、性別役割分担意識別]

		標本数	賛成	い ど ち ら か と 賛 成	い ど ち ら か と 反 対	反 対	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 派	反 対 派
全体		667	9	36	118	312	169	23	45	430
		100.0	1.3	5.4	17.7	46.8	25.3	3.4	6.7	64.5
既 未 婚 別	女性:パートナーがいる	268	0.4	3.4	13.8	56.7	23.9	1.9	3.7	70.5
	女性:離・死別	60	6.7	5.0	18.3	40.0	21.7	8.3	11.7	58.3
	女性:未婚	50	0.0	2.0	18.0	48.0	30.0	2.0	2.0	66.0
	男性:パートナーがいる	229	1.7	8.3	21.0	38.4	27.1	3.5	10.0	59.4
	男性:離・死別	14	0.0	21.4	7.1	35.7	35.7	0.0	21.4	42.9
	男性:未婚	32	0.0	3.1	25.0	56.3	12.5	3.1	3.1	81.3
	無回答	14	0.0	0.0	28.6	7.1	42.9	21.4	0.0	35.7
年 代	女性:20代	27	0.0	0.0	14.8	55.6	25.9	3.7	0.0	70.4
	女性:30代	43	0.0	2.3	7.0	67.4	23.3	0.0	2.3	74.4
	女性:40代	56	0.0	1.8	16.1	57.1	25.0	0.0	1.8	73.2
	女性:50代	71	0.0	1.4	7.0	69.0	21.1	1.4	1.4	76.1
	女性:60代	99	3.0	3.0	16.2	48.5	25.3	4.0	6.1	64.6
	女性:70代以上	87	2.3	8.0	25.3	32.2	25.3	6.9	10.3	57.5
	男性:20代	14	0.0	0.0	21.4	57.1	21.4	0.0	0.0	78.6
	男性:30代	26	0.0	3.8	15.4	46.2	34.6	0.0	3.8	61.5
	男性:40代	37	2.7	2.7	18.9	35.1	40.5	0.0	5.4	54.1
	男性:50代	46	2.2	4.3	15.2	54.3	21.7	2.2	6.5	69.6
	男性:60代	78	0.0	9.0	23.1	39.7	28.2	0.0	9.0	62.8
男性:70代以上	83	2.4	14.5	24.1	26.5	20.5	12.0	16.9	50.6	
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:賛成	35	2.9	2.9	14.3	37.1	37.1	5.7	5.7	51.4
	女性:どちらかといえば賛成	160	1.3	5.0	22.5	44.4	25.6	1.3	6.3	66.9
	女性:どちらかといえば反対	114	1.8	1.8	11.4	56.1	25.4	3.5	3.5	67.5
	女性:反対	64	0.0	3.1	6.3	76.6	14.1	0.0	3.1	82.8
	男性:賛成	36	2.8	11.1	19.4	27.8	33.3	5.6	13.9	47.2
	男性:どちらかといえば賛成	134	2.2	11.2	23.1	32.8	29.9	0.7	13.4	56.0
	男性:どちらかといえば反対	59	0.0	5.1	30.5	40.7	22.0	1.7	5.1	71.2
男性:反対	43	0.0	0.0	7.0	74.4	16.3	2.3	0.0	81.4	
無回答	22	0.0	4.5	4.5	22.7	22.7	45.5	4.5	27.3	

### 3. 育児や介護について

#### (1) 男性が育児休業・介護休業を取得することについて

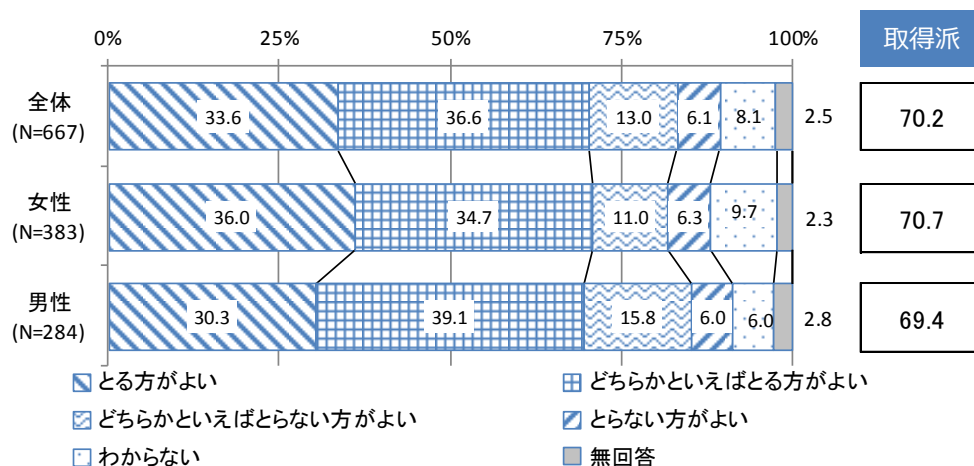
【問5】あなたは、男性が育児休業・介護休業をとることについて、どのように考えますか。

それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

(○印はそれぞれ1つ)

#### ① 男性の育児休業

図Ⅱ- 3-1 男性の育児休業[全体、性別]



男性が育児休業を取得することについて、「どちらかといえばとる方がよい」が36.6%と最も高い。次いで「とる方がよい」が33.6%であり、これらを合計した『取得派』は70.2%と7割を超えて高い。男性が育児休業を取得することについては肯定的にとらえられている。

性別で見ると、女性は「とる方がよい」が36.0%と最も高く、男性は30.3%と5.7ポイント低くなっている。

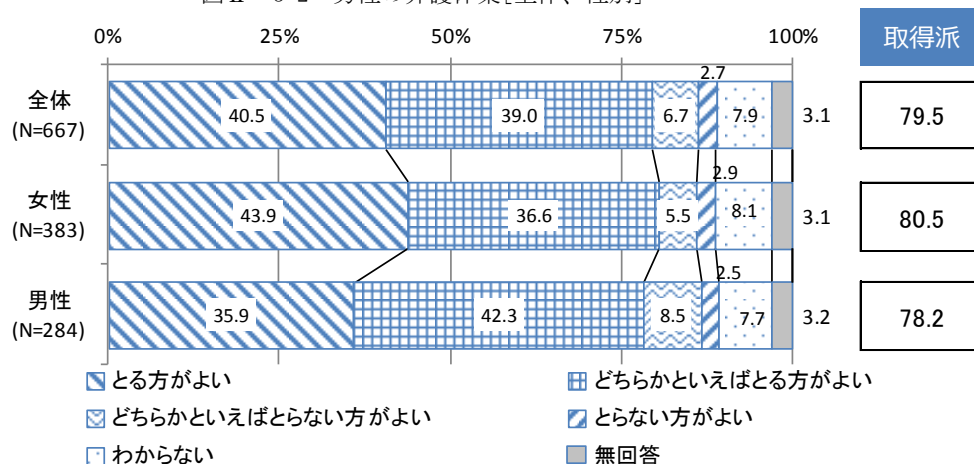
年代別で見ると、男女とも年齢が低い層で「とる方がよい」の割合が高い傾向にあり、特に女性の20代では59.3%と最も高い。男性の20代では「とる方がよい」と「どちらかといえばとる方がよい」が42.9%で同率となっている。

表Ⅱ- 3-1 男性の育児休業[全体、年代別]

	標本数	とる方がよい	どちらかといえばとらない方がよい	どちらかといえばとる方がよい	とらない方がよい	わからない	無回答	取得派	
全体	667	224	244	87	41	54	17	468	
	100.0	33.6	36.6	13.0	6.1	8.1	2.5	70.2	
年代	女性:20代	27	59.3	25.9	0.0	3.7	7.4	3.7	85.2
	女性:30代	43	48.8	23.3	11.6	7.0	7.0	2.3	72.1
	女性:40代	56	41.1	33.9	7.1	7.1	10.7	0.0	75.0
	女性:50代	71	32.4	38.0	15.5	7.0	5.6	1.4	70.4
	女性:60代	99	30.3	40.4	7.1	6.1	13.1	3.0	70.7
	女性:70代以上	87	28.7	34.5	17.2	5.7	10.3	3.4	63.2
	男性:20代	14	42.9	42.9	0.0	7.1	7.1	0.0	85.7
	男性:30代	26	46.2	38.5	11.5	0.0	3.8	0.0	84.6
	男性:40代	37	35.1	35.1	18.9	2.7	8.1	0.0	70.3
	男性:50代	46	34.8	34.8	19.6	6.5	2.2	2.2	69.6
男性:60代	78	28.2	39.7	16.7	7.7	7.7	0.0	67.9	
男性:70代以上	83	20.5	42.2	15.7	7.2	6.0	8.4	62.7	

## ② 男性の介護休業

図Ⅱ- 3-2 男性の介護休業[全体、性別]



男性が介護休業を取得することについて、「とる方がよい」が40.5%と最も高い。次いで「どちらかといえばとる方がよい」が39.0%であり、これらを合計した『取得派』は79.5%であり、約8割と高い。男性が介護休業を取得することについては肯定的にとらえられており、育児休業よりも上回っている。

性別でみると、女性は積極的な取得の「とる方がよい」が43.9%と4割を超えているが、男性は35.9%と8ポイント下回っている。男性では「どちらかといえばとる方がよい」が42.3%と消極的な取得の方が高くなっている。

年代別でみると、女性は年齢が低くなるほど『取得派』の割合が高くなっており、特に女性の40代より低い年代では、積極的な取得の「とる方がよい」が6割前後となっている。男性は、40代で積極的な取得の「とる方がよい」が48.6%と男性の他の年代よりも高い割合となっている。

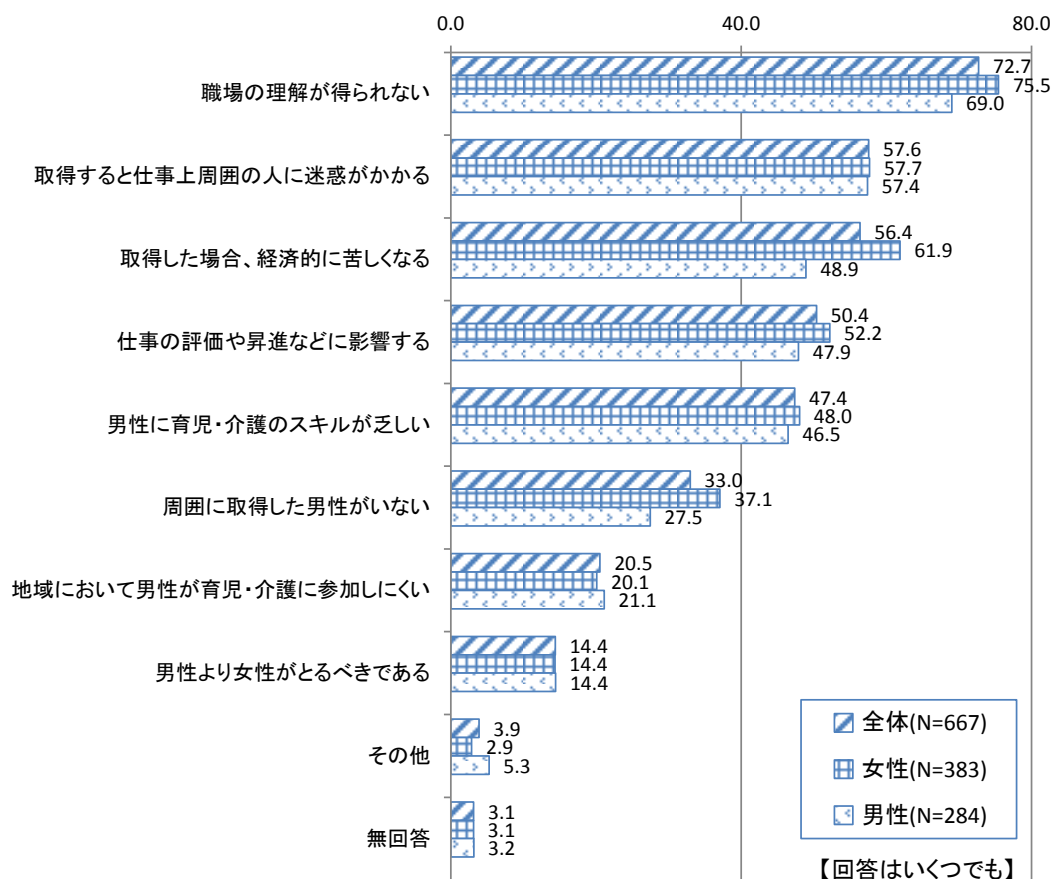
表Ⅱ- 3-2 男子の介護休業[全体、年代別]

	標本数	とる方がよい	どちらかといえばとる方がよい	どちらかといえばとらない方がよい	とらない方がよい	わからない	無回答	取得派	
全体	667	270	260	45	18	53	21	530	
	100.0	40.5	39.0	6.7	2.7	7.9	3.1	79.5	
年代	女性:20代	27	63.0	22.2	0.0	3.7	7.4	3.7	85.2
	女性:30代	43	58.1	25.6	4.7	2.3	7.0	2.3	83.7
	女性:40代	56	58.9	26.8	3.6	3.6	7.1	0.0	85.7
	女性:50代	71	43.7	38.0	9.9	2.8	4.2	1.4	81.7
	女性:60代	99	34.3	45.5	5.1	1.0	10.1	4.0	79.8
	女性:70代以上	87	32.2	41.4	5.7	4.6	10.3	5.7	73.6
	男性:20代	14	35.7	50.0	0.0	7.1	7.1	0.0	85.7
	男性:30代	26	38.5	50.0	7.7	0.0	3.8	0.0	88.5
	男性:40代	37	48.6	27.0	10.8	2.7	10.8	0.0	75.7
	男性:50代	46	43.5	41.3	4.3	2.2	6.5	2.2	84.8
	男性:60代	78	35.9	43.6	11.5	1.3	7.7	0.0	79.5
	男性:70代以上	83	25.3	44.6	8.4	3.6	8.4	9.6	69.9

## (2) 男性の育児休業、介護休業取得率が低い理由

【問6】男性の育児休業、介護休業の取得率は低い状況にありますが、それはなぜだと思いますか。（○印はいくつでも）

図Ⅱ- 3-3 男性の育児・介護休業取得率が低い理由[全体、性別]



男性の育児休業・介護休業の取得率が低い理由は、「職場の理解が得られない」が72.7%と最も高く、次いで「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかる」が57.6%で上位2位となっている。以下、「取得した場合、経済的に苦しくなる」（56.4%）、「仕事の評価や昇進などに影響する」（50.4%）、「男性に育児・介護スキル（経験や技術）が乏しい」（47.4%）、「周囲に取得した男性がいない」（33.0%）などが続いている。

性別で見ると、男女ともに「職場の理解が得られない」が第1位の理由となっている。また、女性では「取得した場合、経済的に苦しくなる」が男性よりも13ポイント高く、「周囲に取得した男性がいない」も男性よりも9.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、「職場の理解が得られない」は女性では年齢が低い層での割合が高く、男性では40代が83.8%と最も高い割合となっている。また、女性の30代・40代と男性の40代では「取得した場合、経済的に苦しくなる」と女性の20代では「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかる」が7割台と比較的高い割合となっている。

職業別でみると、正社員・正職員では男女ともに「職場の理解が得られない」が最も高く、女性の自営・会社経営・会社役員では「職場の理解が得られない」と「男性に育児・介護スキルが乏しい」が同率の69.2%で最も高いが、男性の自営・会社経営・会社役員では「取得した場合、経済的に苦しくなる」(67.6%)が最も高くなっている。

表Ⅱ-3-3 男性の育児・介護休業取得率が低い理由 [全体、年代別、職業別]

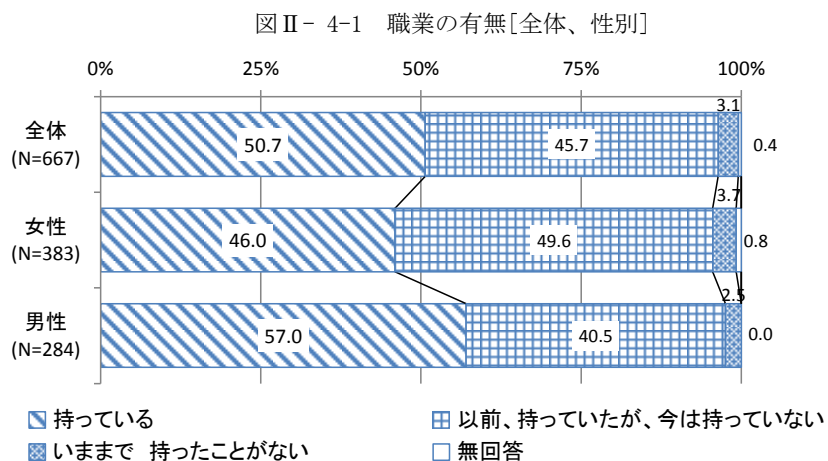
	標本数	職場の理解が得られない	取得した場合、経済的に苦しくなる	仕事の評価や昇進などに影響する	男性より女性がとるべきである	地域において男性が育児・介護に参加しにくい	男性に育児・介護のスキルが乏しい	周囲に取得した男性がいない	取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかる	その他	無回答	
全体	667	485	376	336	96	137	316	220	384	26	189	
	100.0	72.7	56.4	50.4	14.4	20.5	47.4	33.0	57.6	3.9	28.3	
年代	女性:20代	27	88.9	63.0	59.3	11.1	37.0	44.4	51.9	74.1	0.0	33.3
	女性:30代	43	81.4	76.7	46.5	16.3	16.3	65.1	55.8	60.5	9.3	0.0
	女性:40代	56	80.4	71.4	50.0	17.9	19.6	42.9	51.8	60.7	1.8	0.0
	女性:50代	71	74.6	66.2	59.2	9.9	18.3	50.7	40.8	62.0	4.2	12.7
	女性:60代	99	79.8	60.6	48.5	10.1	22.2	48.5	25.3	53.5	0.0	45.5
	女性:70代以上	87	60.9	46.0	52.9	20.7	16.1	41.4	24.1	50.6	3.4	51.7
	男性:20代	14	71.4	57.1	57.1	0.0	14.3	28.6	35.7	57.1	7.1	0.0
	男性:30代	26	73.1	61.5	50.0	0.0	42.3	38.5	34.6	65.4	11.5	0.0
	男性:40代	37	83.8	70.3	56.8	16.2	8.1	32.4	37.8	67.6	5.4	0.0
	男性:50代	46	60.9	63.0	52.2	19.6	28.3	50.0	34.8	60.9	4.3	19.6
	男性:60代	78	73.1	42.3	53.8	14.1	20.5	47.4	26.9	65.4	6.4	0.0
	男性:70代以上	83	61.4	32.5	33.7	18.1	18.1	55.4	15.7	41.0	2.4	86.7
職業別	女性:自営・会社経営・会社役員	26	69.2	61.5	61.5	7.7	3.8	69.2	23.1	65.4	0.0	0.0
	女性:家族従業者	6	66.7	50.0	50.0	0.0	0.0	33.3	16.7	66.7	0.0	0.0
	女性:正社員・正職員	48	85.4	72.9	47.9	22.9	37.5	60.4	58.3	62.5	8.3	0.0
	女性:常勤パートタイマー	67	79.1	71.6	52.2	10.4	17.9	44.8	40.3	56.7	4.5	1.5
	女性:契約社員・派遣社員	11	81.8	54.5	54.5	0.0	45.5	36.4	63.6	54.5	0.0	0.0
	女性:臨時、アルバイト	12	83.3	33.3	33.3	8.3	8.3	41.7	16.7	58.3	0.0	0.0
	女性:内職	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性:その他	6	83.3	83.3	83.3	0.0	16.7	66.7	16.7	33.3	16.7	0.0
	男性:自営・会社経営・会社役員	34	58.8	67.6	41.2	17.6	32.4	61.8	14.7	47.1	2.9	2.9
	男性:家族従業者	4	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	75.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	男性:正社員・正職員	84	73.8	60.7	54.8	11.9	21.4	42.9	42.9	61.9	4.8	0.0
	男性:常勤パートタイマー	14	85.7	57.1	57.1	21.4	57.1	57.1	50.0	57.1	7.1	0.0
	男性:契約社員・派遣社員	11	100.0	54.5	54.5	9.1	27.3	27.3	54.5	100.0	9.1	0.0
	男性:臨時、アルバイト	10	60.0	50.0	50.0	20.0	0.0	20.0	10.0	40.0	0.0	0.0
	男性:内職	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:その他	5	60.0	20.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0	60.0	0.0	20.0

## 4. 職業について

### (1) 職業や立場

#### ① 職業の有無

【問7】あなたは、現在職業を持っていますか。（○印は1つ）

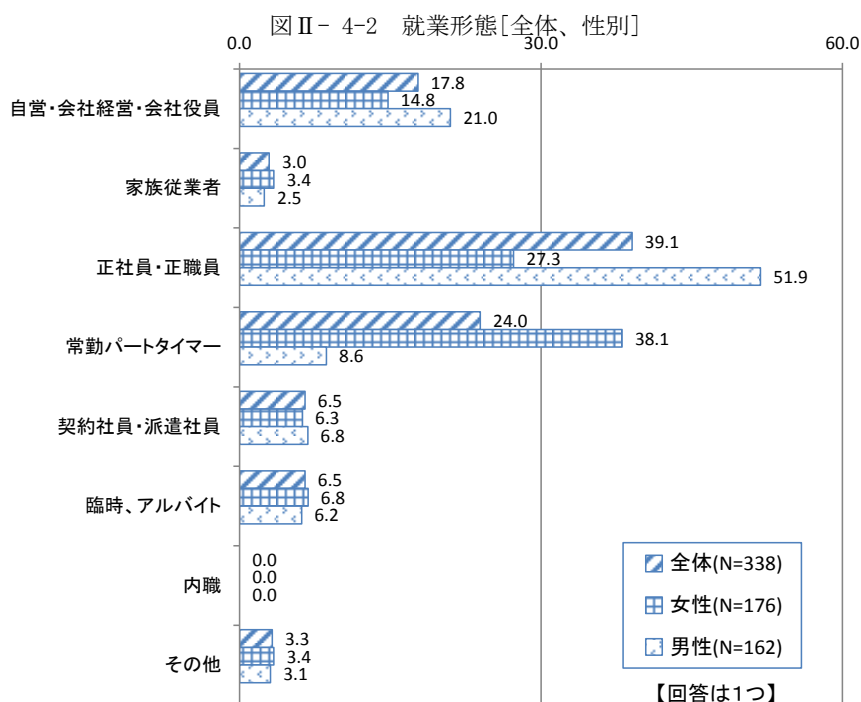


現在の職業は、女性は「以前、職業を持っていたが、今は持っていない」が49.6%で最も高く、男性は「持っている」が57.0%で最も高い。

#### ② 就業形態

【副問1】問7で、「1. 持っている」と答えた方におたずねします。

就業形態は次のどれに該当しますか。（○印は1つ）



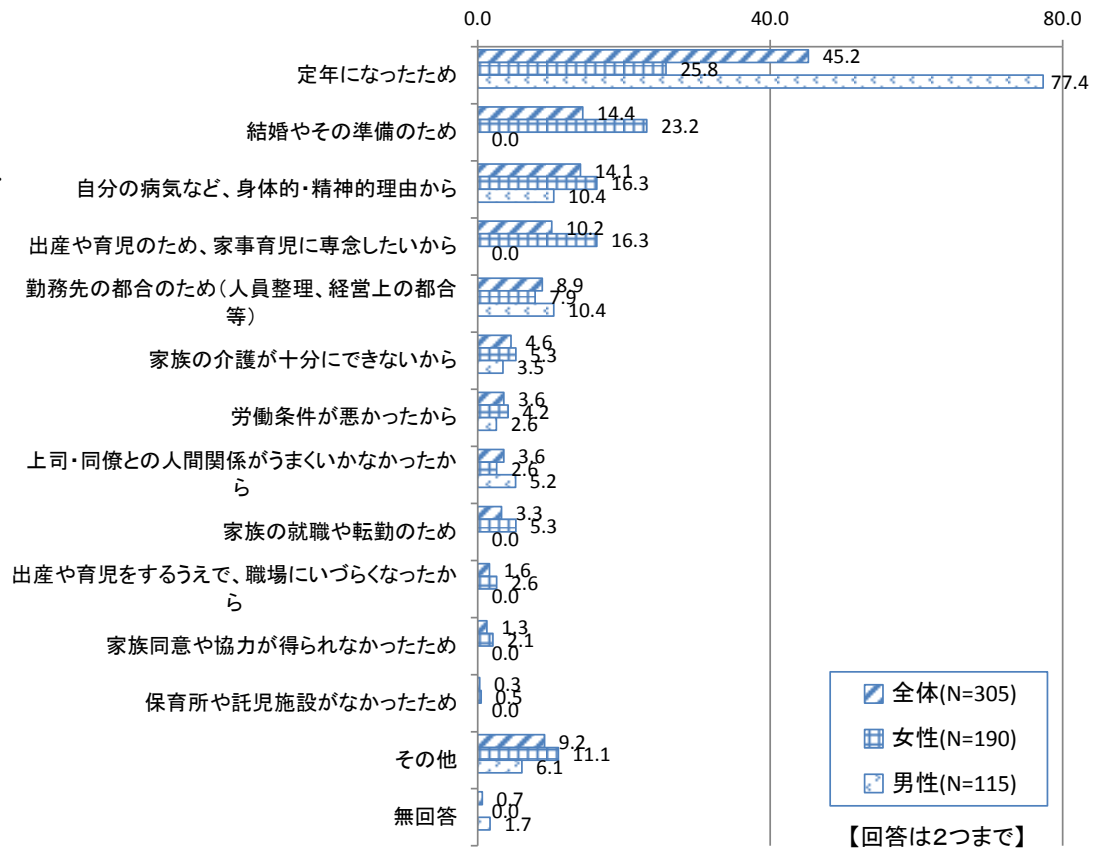
現在の就業形態は、「常勤パートタイマー」は女性が38.1%と圧倒的に高い。一方、男性は「正社員・正職員」で24.6ポイント、「自営・会社経営・会社役員」で6.2ポイント女性を上回っており、就業形態における男女の方よりは大きい。

### ③ 仕事を辞めた理由

【副問2】問7で、「2. 以前、職業を持っていたが、今は持っていない」と答えた方におたずねします。

あなたが仕事を辞めた直接のきっかけは何でしたか。（○印は2つまで）

図Ⅱ- 4-3 仕事を辞めた理由[全体、性別]



仕事を辞めた直接のきっかけは、男女とも「定年になったため」（45.2%）が最も多く、女性 25.8%、男性 77.4%で男性の方が多。全体で2位の「結婚やその準備のため」（14.4%）は、女性 23.2%、男性 0.0%と男女の差が大きく、女性の3位「出産や育児のため、家事育児に専念したいから」は、男性 0.0%でやはり差が大きい。

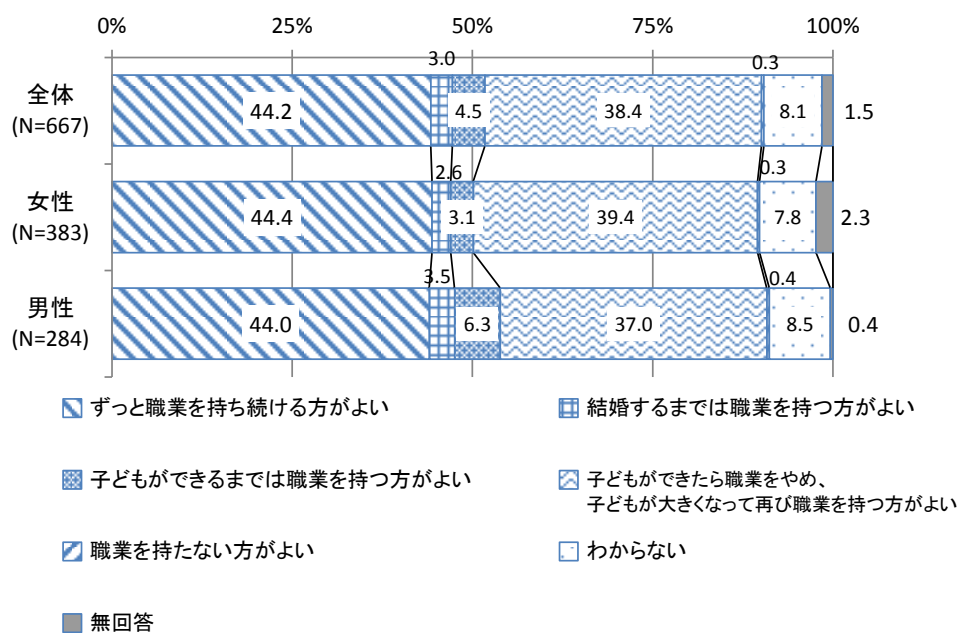


## (2) 女性が職業を持つことについての考え方

【問8】あなたは、女性が「職業」を持つことについてどのように思いますか。

(○印は1つ)

図Ⅱ-4-4 女性が職業を持つことについての考え方[全体、性別]



女性職業を持つことについての考え方は「ずっと職業を持ち続ける方がよい」が44.2%と4割を超えている。次いで「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなって再び職業を持つ方がよい」が38.4%となっている。これは子育て期に就労を中断する働き方であり、年齢別労働力率のグラフにするとその曲線がMに見えることから「女性のM字型就労」と呼ばれている。一方、「子どもができるまでは職業を持つ方がよい」(4.5%)、「結婚するまでは職業を持つ方がよい」(3.0%)の2つは専業主婦を志向する項目だが回答は少ない。

性別でみると、男女とも「ずっと職業を持ち続ける方がよい」が4割を超えている。女性は子育て期に就労を中断する働き方の「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなって再び職業を持つ方がよい」の割合が男性よりもやや上回り、男性は専業主婦を志向する割合が女性よりもやや上回っている。

既未婚別でみると、「ずっと職業を持ち続ける方がよい」は男女とも未婚の方が配偶者（パートナー）のいる場合より高いが、子育て期に就労を中断する働き方は配偶者（パートナー）がいる場合の方が未婚者より高く、特に男性で顕著となっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも賛成の人では子育て期に就労を中断する働き方の割合が5割を超えて高く、反対の人では「ずっと職業を持ち続ける方がよい」が6割を超えている。性別役割分担意識が強い人では、女性が職業を持つことを肯定しても、出産すれば子育ての方を優先するという考えを持っていることがわかる。

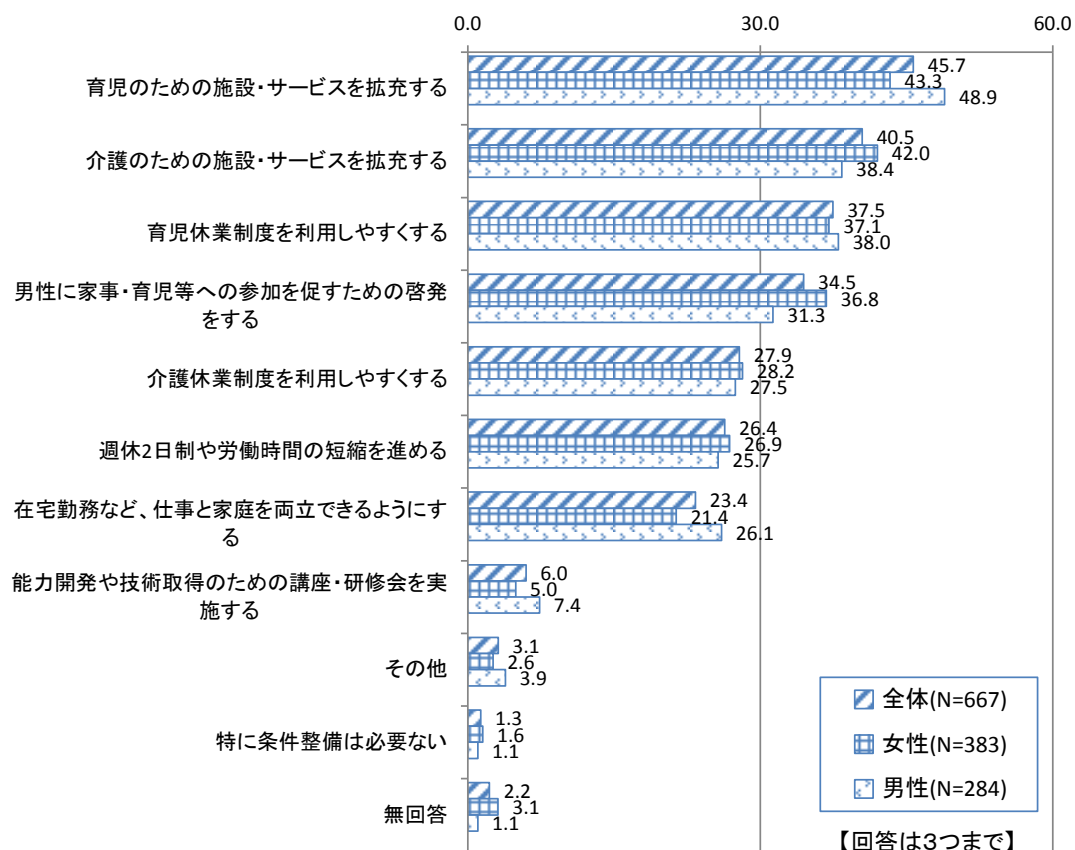
表Ⅱ-4-1 女性が職業を持つことについての考え方[全体、既未婚別、性別役割分担意識別]

	標本数	ずっと職業を持ち続ける方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができればよい	再び子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業を持つ方がよい	職業を持たない方がよい	わからない	無回答	
全体	667	295	20	30	256	2	54	10	
	100.0	44.2	3.0	4.5	38.4	0.3	8.1	1.5	
既未婚別	女性: パートナーがいる	268	42.5	1.9	4.1	41.4	0.4	7.8	1.9
	女性: 離・死別	60	48.3	1.7	0.0	41.7	0.0	6.7	1.7
	女性: 未婚	50	48.0	8.0	2.0	30.0	0.0	10.0	2.0
	男性: パートナーがいる	229	42.4	3.9	6.1	40.2	0.4	6.6	0.4
	男性: 離・死別	14	35.7	0.0	21.4	35.7	0.0	7.1	0.0
	男性: 未婚	32	59.4	0.0	3.1	18.8	0.0	18.8	0.0
	無回答	14	50.0	7.1	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3
性別役割分担意識別	女性: 賛成	35	25.7	5.7	0.0	51.4	2.9	5.7	8.6
	女性: どちらかといえば賛成	160	29.4	5.0	5.0	53.8	0.0	5.6	1.3
	女性: どちらかといえば反対	114	60.5	0.0	3.5	26.3	0.0	7.9	1.8
	女性: 反対	64	65.6	0.0	0.0	18.8	0.0	14.1	1.6
	男性: 賛成	36	19.4	8.3	16.7	52.8	0.0	2.8	0.0
	男性: どちらかといえば賛成	134	33.6	4.5	6.0	48.5	0.7	6.7	0.0
	男性: どちらかといえば反対	59	55.9	0.0	1.7	27.1	0.0	15.3	0.0
	男性: 反対	43	79.1	2.3	4.7	7.0	0.0	7.0	0.0
	無回答	22	40.9	0.0	4.5	31.8	0.0	13.6	9.1

### (3) ワーク・ライフ・バランスのための条件整備

【問9】あなたは、男女とも職業生活と家庭生活の調和のとれた生活をするためにはどのような条件整備が必要だと思いますか。（○印は3つまで）

図Ⅱ- 4-5 ワーク・ライフ・バランスのための条件整備[全体、性別]



男女とも職業生活お家庭生活の調和がとれた生活をするために必要な条件整備は「育児のための施設・サービスを拡充する」が45.7%と最も高く、次いで「介護のための施設・サービスを拡充する」（40.5%）、「育児休業制度を利用しやすくする」（37.5%）「男性に家事・育児等への参加を促すための啓発をする」（34.5%）などが3割台が続いている。

性別でみると、女性では「男性に家事・育児等への参加を促すための啓発をする」が5.5ポイント男性を上回っているが、一方「育児のための施設・サービスを拡充する」は男性が5.6ポイント女性を上回っている。

年代別でみると、男女とも40代より低い年齢層では「育児休業制度を利用しやすくする」の割合が最も高く、20代・30代と40代男性では、50%を超えている。一方、50代より高い年齢の男性は「育児のための施設・サービスを拡充する」の割合が最も高く、女性は「介護のための施設・サービスを拡充する」の割合が最も高くなっている。

職業別でみると、男女とも自営・会社経営・会社役員と女性の常勤パートタイマーは「育児のための施設・サービスを拡充する」の割合が最も高く、また、男女とも正社員・正職員は「育児休業制度を利用しやすくする」の割合が最も高い。

表II-4-2 ワーク・ライフ・バランスのための条件整備[全体、年代別、職業別]

	標本数	加男性を促すための啓発等への参	育児のための施設・サービス	育児休業制度を利用しやすくする	介護のための施設・サービス	介護休業制度を利用しやすくする	週休2日制や労働時間の短縮を進める	在宅勤務など、仕事を家庭に両立できるようにする	能力開発や技術取得のための講座・研修会を実施するため	その他	特に条件整備は必要ない	無回答	
全体	667 100.0	230 34.5	305 45.7	250 37.5	270 40.5	186 27.9	176 26.4	156 23.4	40 6.0	21 3.1	9 1.3	15 2.2	
年代	女性:20代	27	40.7	59.3	59.3	18.5	14.8	59.3	14.8	0.0	3.7	0.0	3.7
	女性:30代	43	34.9	44.2	51.2	25.6	20.9	58.1	20.9	4.7	2.3	0.0	0.0
	女性:40代	56	30.4	39.3	46.4	37.5	32.1	30.4	21.4	7.1	5.4	1.8	0.0
	女性:50代	71	42.3	42.3	28.2	56.3	32.4	21.1	23.9	0.0	4.2	0.0	2.8
	女性:60代	99	40.4	44.4	34.3	45.5	27.3	19.2	23.2	9.1	1.0	1.0	2.0
	女性:70代以上	87	32.2	40.2	27.6	44.8	31.0	12.6	19.5	4.6	1.1	4.6	8.0
	男性:20代	14	28.6	21.4	71.4	7.1	42.9	35.7	28.6	7.1	7.1	7.1	0.0
	男性:30代	26	42.3	42.3	57.7	34.6	26.9	38.5	11.5	7.7	0.0	3.8	0.0
	男性:40代	37	27.0	43.2	54.1	32.4	32.4	40.5	32.4	5.4	8.1	0.0	0.0
	男性:50代	46	21.7	54.3	28.3	39.1	23.9	32.6	30.4	6.5	6.5	2.2	0.0
	男性:60代	78	29.5	60.3	35.9	43.6	24.4	19.2	35.9	1.3	2.6	0.0	0.0
	男性:70代以上	83	37.3	44.6	26.5	42.2	27.7	15.7	15.7	14.5	2.4	0.0	3.6
職業別	女性:自営・会社経営・会社役員	26	30.8	46.2	30.8	30.8	19.2	19.2	26.9	11.5	7.7	3.8	0.0
	女性:家族従業者	6	33.3	33.3	50.0	16.7	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性:正社員・正職員	48	45.8	39.6	52.1	35.4	29.2	43.8	12.5	2.1	0.0	2.1	0.0
	女性:常勤パートタイマー	67	37.3	49.3	43.3	40.3	32.8	25.4	19.4	1.5	6.0	1.5	1.5
	女性:契約社員・派遣社員	11	45.5	45.5	45.5	54.5	27.3	36.4	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性:臨時、アルバイト	12	16.7	41.7	50.0	33.3	25.0	33.3	25.0	0.0	8.3	0.0	0.0
	女性:内職	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:その他	6	33.3	50.0	33.3	66.7	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:自営・会社経営・会社役員	34	32.4	41.2	20.6	35.3	20.6	29.4	32.4	11.8	5.9	2.9	0.0
	男性:家族従業者	4	25.0	50.0	25.0	75.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:正社員・正職員	84	26.2	48.8	48.8	35.7	31.0	31.0	32.1	7.1	6.0	1.2	0.0
	男性:常勤パートタイマー	14	28.6	42.9	57.1	28.6	28.6	35.7	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0
	男性:契約社員・派遣社員	11	27.3	45.5	45.5	54.5	45.5	36.4	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:臨時、アルバイト	10	40.0	30.0	70.0	20.0	30.0	30.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:内職	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:その他	5	0.0	80.0	40.0	40.0	20.0	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0

## 5. 社会活動について

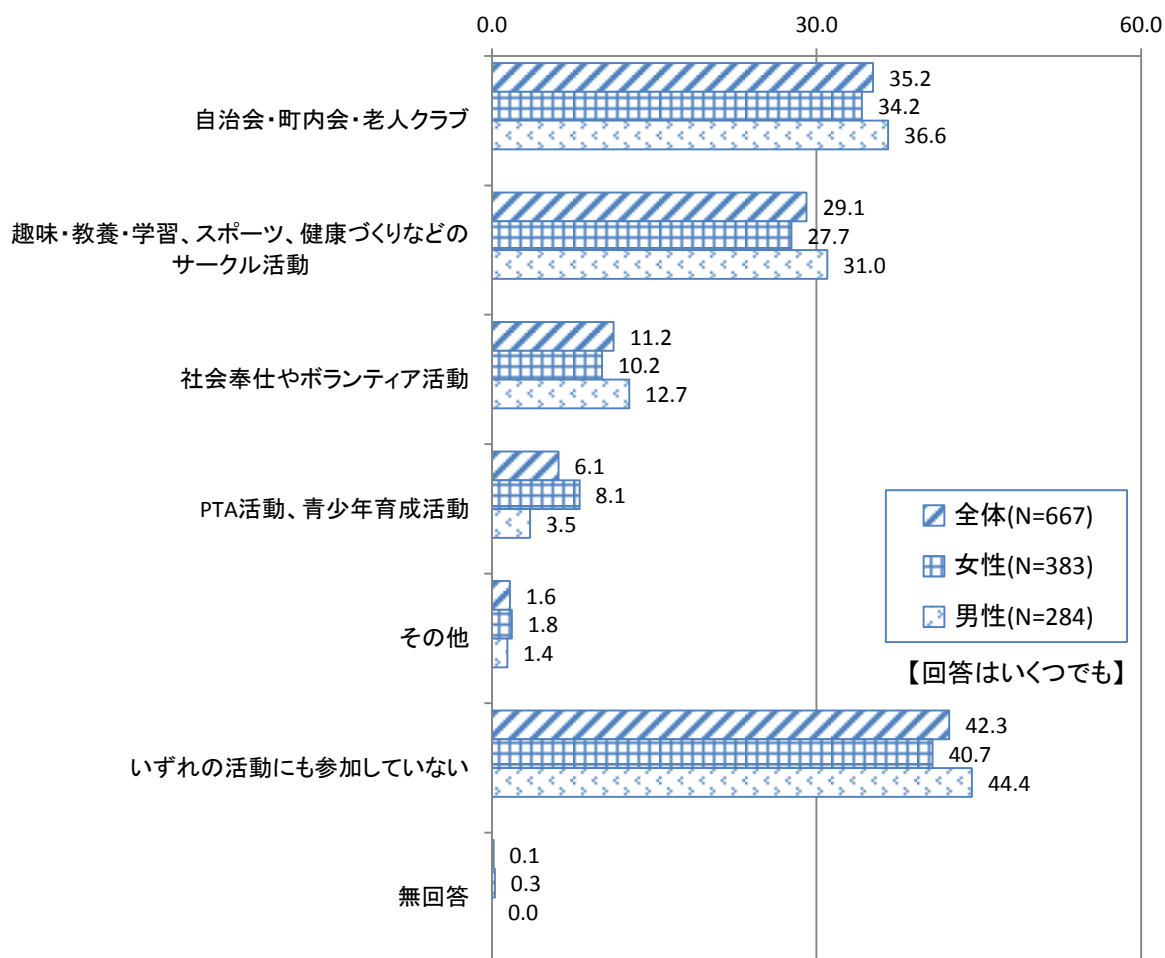
### (1) 社会活動における実践活動

#### ① 社会活動への参加状況

【問10】あなたは地域社会において、今どのような活動に参加していますか。

(○印はいくつでも)

図Ⅱ-5-1 社会活動への参加状況[全体、性別]



現在、地域活動に参加している人は全体で57.7%である。参加している活動で最も多いのは「自治会・町内会・老人クラブ」が35.2%、次いで「趣味・教養・学習、スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」が29.1%、「社会奉仕やボランティア活動（児童文庫、子育て、福祉、環境、国際交流・協力など）」が11.2%となっている。「いずれの活動にも参加していない」は42.3%である。

性別で見ると、女性の参加率は59.0%、男性の参加率は55.6%で、大きな違いはない。

年代別でみると、「いずれの活動にも参加していない」は男女とも年齢層が低い層での割合が高く、社会活動に参加しているのは高齢者層が多い。「自治会・町内会・老人クラブ」は女性の50代、男性の70代以上で高い。「趣味・教養・学習、スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」が男女とも60代以上で3割を超えて高くなっている。40代女性で「PTA活動、青少年育成活動」（30.4%）の参加率が比較的高く、子どもを通じての活動と思われる。

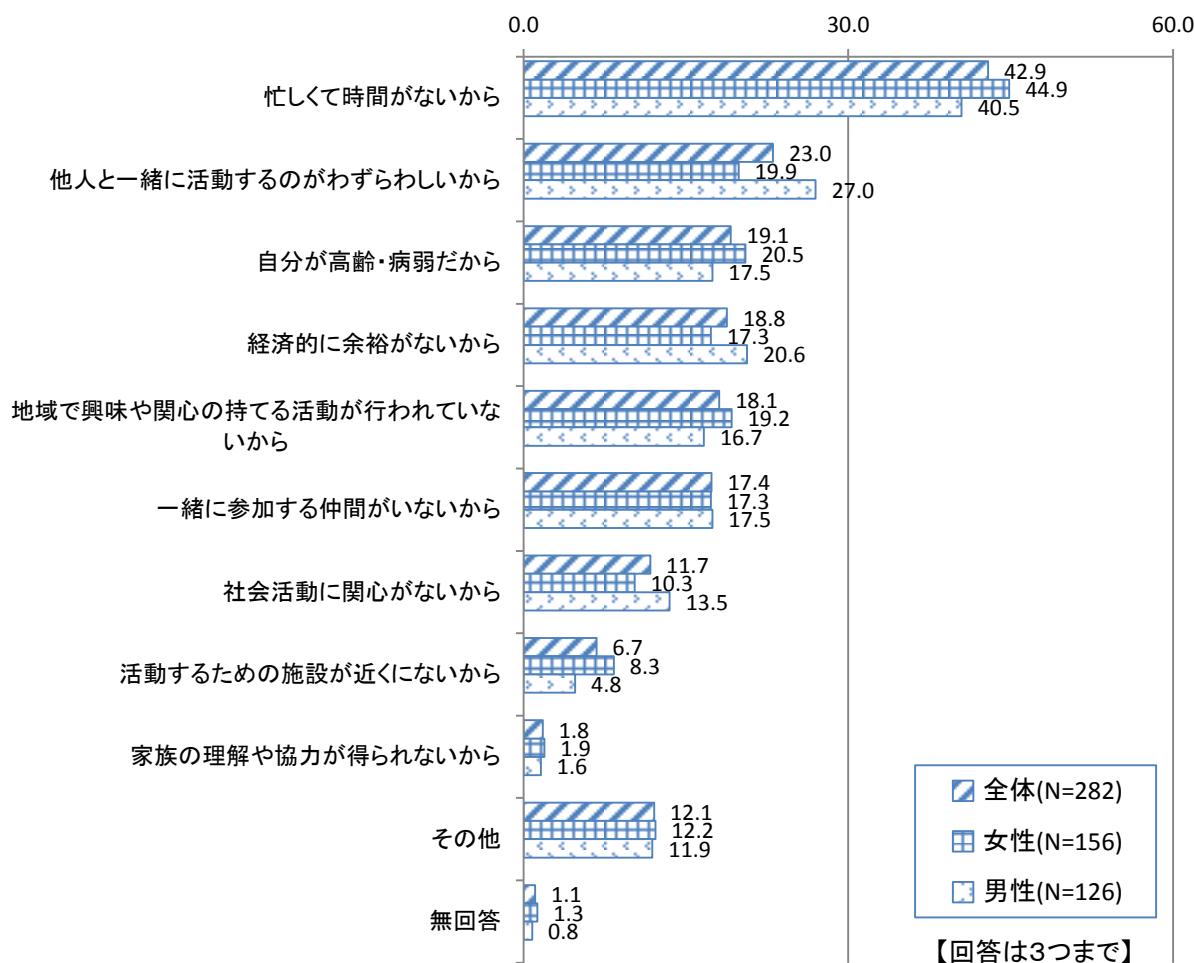
表Ⅱ-5-1 社会活動への参加状況[全体、年代別]

	標本数	自治会・町内会・老人クラブ	趣味・教養・学習、スポーツ、健康づくりなどのサークル活動	PTA活動、青少年育成活動	社会奉仕やボランティア活動	その他	いずれの活動にも参加していない	無回答	参加率	
全体	667	235	194	41	75	11	282	1	385	
	100.0	35.2	29.1	6.1	11.2	1.6	42.3	0.1	57.7	
年代	女性:20代	27	14.8	11.1	0.0	0.0	77.8	0.0	22.2	
	女性:30代	43	32.6	11.6	20.9	0.0	44.2	0.0	55.8	
	女性:40代	56	35.7	17.9	30.4	12.5	1.8	37.5	0.0	62.5
	女性:50代	71	45.1	26.8	5.6	18.3	0.0	32.4	0.0	67.6
	女性:60代	99	32.3	40.4	1.0	10.1	3.0	39.4	1.0	60.6
	女性:70代以上	87	33.3	33.3	0.0	10.3	2.3	37.9	0.0	62.1
	男性:20代	14	21.4	21.4	0.0	14.3	0.0	64.3	0.0	35.7
	男性:30代	26	30.8	19.2	3.8	7.7	0.0	50.0	0.0	50.0
	男性:40代	37	37.8	27.0	10.8	5.4	0.0	48.6	0.0	51.4
	男性:50代	46	34.8	26.1	4.3	10.9	0.0	43.5	0.0	56.5
男性:60代	78	32.1	32.1	2.6	14.1	3.8	46.2	0.0	53.8	
男性:70代以上	83	45.8	39.8	1.2	16.9	1.2	36.1	0.0	63.9	

## ② 社会活動に参加していない理由

【副問1】問10で、「6. いずれの活動にも参加していない」と答えた方におたずねします。あなたが、活動に参加していないのはどのような理由からですか。  
(○印は3つまで)

図Ⅱ-5-2 社会活動に参加していない理由[全体、性別]



社会活動に参加していない理由は「忙しくて時間がないから」が42.9%と最も高い。以下、「他人と一緒に活動するのがわずらわしいから」(23.0%)、「自分が高齢・病弱だから」(19.1%)、「経済的に余裕がないから」(18.8%)などが2割前後で続いている。

性別で見ると、女性は「忙しくて時間がないから」が男性よりも4.4ポイント高い。一方、男性は「他人と一緒に活動するのがわずらわしいから」が女性よりも7.1ポイント高い。

年代別でみると、「忙しくて時間がないから」は男女とも50代以下の年代での割合が高いが、特に女性の30代で78.9%、男性の20代で77.8%と高いのが目立つ。女性の40代では「他人と一緒に活動するのがわずらわしいから」(33.3%)が最も高く、男性の30代(30.8%)、40代(33.3%)、60代(41.7%)でも高い割合となっている。「一緒に参加する仲間がいないから」は男女とも20代で3割を超えている。「経済的に余裕がないから」は女性の30代(31.6%)と男性の50代(45.0%)で高くなっている。

職業の有無別にみると、職業を持っている人は「忙しくて時間がないから」の割合が高く、男女とも6割を超えている。また、以前職業を持っていたが、今は持っていない人は「自分が高齢・病弱だから」の割合が最も高い。

表Ⅱ-5-2 社会活動に参加していない理由[全体、年代別]

	標本数	に活動するための施設が近くにないから	社会活動に関心がないから	地域で興味や関心を持っていないから	忙しくて時間がないから	自分が高齢・病弱だから	経済的に余裕がないから	家族の理解や協力が得られないから	一緒に参加する仲間がいないから	他人と一緒に活動するのがわずらわしいから	その他	無回答	
全体	282	19	33	51	121	54	53	5	49	65	34	3	
	100.0	6.7	11.7	18.1	42.9	19.1	18.8	1.8	17.4	23.0	12.1	1.1	
年代	女性:20代	21	14.3	23.8	23.8	47.6	0.0	4.8	0.0	38.1	9.5	9.5	4.8
	女性:30代	19	10.5	10.5	26.3	78.9	0.0	31.6	0.0	15.8	10.5	5.3	0.0
	女性:40代	21	4.8	19.0	23.8	28.6	19.0	23.8	4.8	19.0	33.3	14.3	0.0
	女性:50代	23	4.3	4.3	21.7	65.2	0.0	21.7	0.0	13.0	26.1	17.4	0.0
	女性:60代	39	12.8	10.3	23.1	41.0	25.6	15.4	2.6	15.4	20.5	10.3	2.6
	女性:70代以上	33	3.0	0.0	3.0	24.2	54.5	12.1	3.0	9.1	18.2	15.2	0.0
	男性:20代	9	0.0	11.1	33.3	77.8	0.0	22.2	0.0	33.3	22.2	0.0	0.0
	男性:30代	13	0.0	7.7	23.1	53.8	0.0	7.7	0.0	15.4	30.8	7.7	0.0
	男性:40代	18	5.6	0.0	38.9	61.1	0.0	22.2	0.0	16.7	33.3	22.2	0.0
	男性:50代	20	5.0	20.0	15.0	50.0	5.0	45.0	0.0	5.0	25.0	20.0	0.0
男性:60代	36	8.3	22.2	11.1	33.3	5.6	16.7	5.6	25.0	41.7	13.9	0.0	
男性:70代以上	30	3.3	10.0	3.3	13.3	63.3	13.3	0.0	13.3	6.7	3.3	3.3	
職業の有無	女性:職業を持っている	77	9.1	11.7	26.0	64.9	6.5	23.4	1.3	19.5	15.6	7.8	0.0
	女性:以前持っていたが、今は持っていない	71	7.0	9.9	12.7	22.5	35.2	11.3	1.4	14.1	23.9	15.5	2.8
	女性:今まで持ったことがない	7	14.3	0.0	14.3	57.1	28.6	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0
	男性:職業を持っている	74	4.1	10.8	18.9	60.8	4.1	17.6	1.4	12.2	32.4	13.5	1.4
	男性:以前持っていたが、今は持っていない	48	6.3	16.7	12.5	8.3	37.5	25.0	2.1	20.8	18.8	10.4	0.0
男性:今まで持ったことがない	4	0.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	
無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

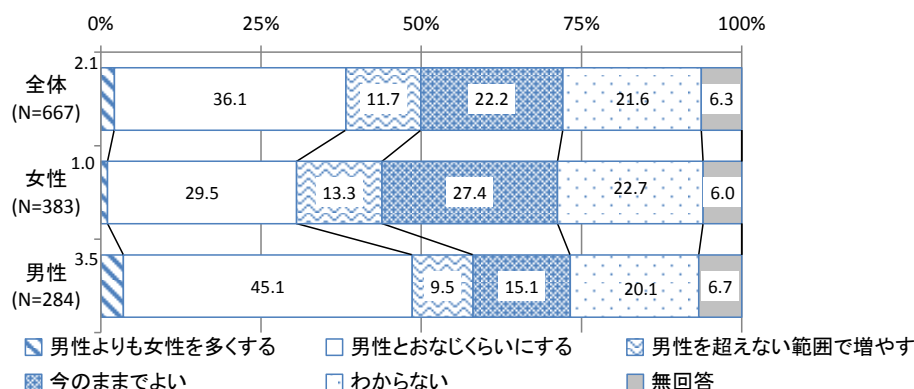


## (2) 女性の役職登用について

【問11】あなたは、次にあげるような役職に、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。(ア)～(ク)のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。(○印はそれぞれ1つ)

### ① 自治会長

図II-5-3 自治会長への女性の登用[全体、性別]



7つの役職について、女性の登用はどの程度が望ましいかを尋ねた。

自治会長への女性の登用について、「男性とおなじくらいにする」が36.1%と最も高い。「今のままでよい」は22.2%で、全ての役職と比べて最も割合が高かった。

性別でみると、男性は「男性とおなじくらいにする」(45.1%)が女性(29.5%)よりも15.6ポイント高い。一方、女性は「今のままでよい」(27.4%)が男性(15.1%)よりも12.3ポイント上回っている。女性の方が女性の登用に消極的であることがうかがえる。

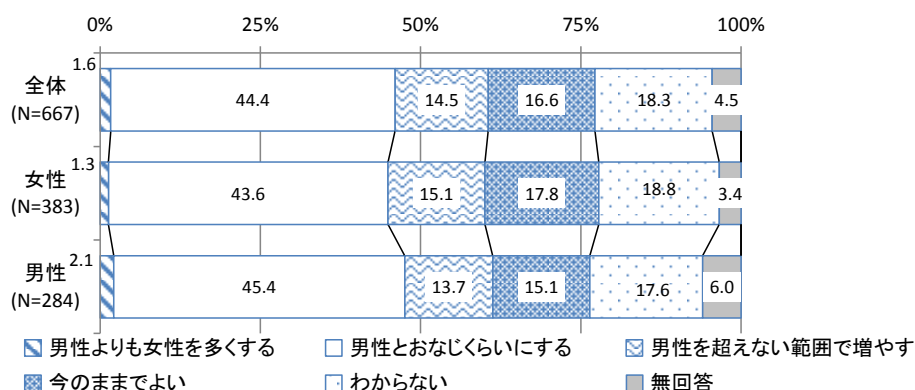
年代別でみると、女性は年齢が低くなるにつれ「男性とおなじくらいにする」が増加し、「今のままでよい」が減少する傾向にある。

表II-5-3 自治会長への女性の登用[全体、年代別]

		標本数	男性よりも女性を多くする	男性とおなじくらいにする	男性を超えない範囲で増やす	今のままでよい	わからない	無回答
全体		667	14	241	78	148	144	42
		100.0	2.1	36.1	11.7	22.2	21.6	6.3
年代	女性:20代	27	3.7	40.7	11.1	11.1	33.3	0.0
	女性:30代	43	2.3	32.6	18.6	18.6	27.9	0.0
	女性:40代	56	0.0	33.9	12.5	23.2	28.6	1.8
	女性:50代	71	1.4	33.8	14.1	29.6	19.7	1.4
	女性:60代	99	0.0	23.2	11.1	38.4	22.2	5.1
	女性:70代以上	87	1.1	25.3	13.8	25.3	16.1	18.4
	男性:20代	14	0.0	57.1	0.0	14.3	28.6	0.0
	男性:30代	26	0.0	50.0	3.8	26.9	15.4	3.8
	男性:40代	37	5.4	43.2	8.1	18.9	24.3	0.0
	男性:50代	46	4.3	54.3	6.5	8.7	23.9	2.2
男性:60代	78	1.3	48.7	14.1	9.0	21.8	5.1	
男性:70代以上	83	6.0	33.7	10.8	19.3	14.5	15.7	

## ② 市議会議員

図 II- 5-4 市議会議員への女性の登用[全体、性別]



市議会議員への女性の登用について、「男性とおなじくらいにする」が44.4%と最も高い。「男性を超えない範囲で増やす」（14.5%）が他の役職と比べると比較的高い。性別でも、特徴的なところはみられない。

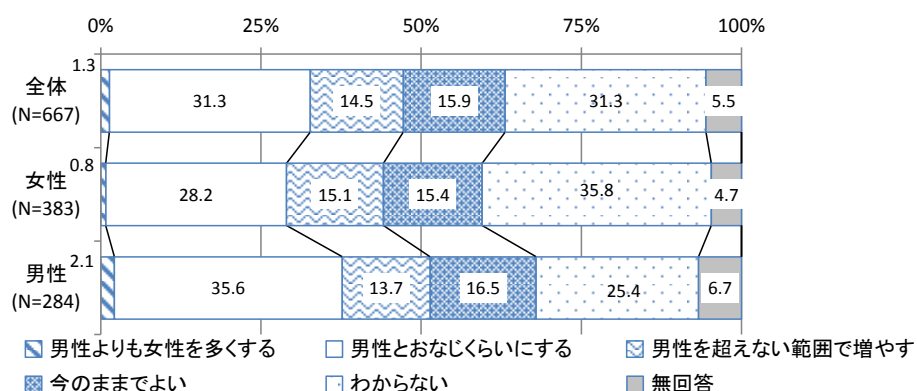
年代別でみると、男性は60代より若い年齢層で、「男性とおなじくらいにする」が5割を超えている。女性は30代と40代で5割を超えている。

表 II- 5-4 市議会議員への女性の登用[全体、年代別]

		標本数	男性よりも女性を多くする	男性とおなじくらいにする	男性を超えない範囲で増やす	今のままでよい	わからない	無回答
全体		667	11	296	97	111	122	30
		100.0	1.6	44.4	14.5	16.6	18.3	4.5
年代	女性:20代	27	3.7	37.0	14.8	11.1	33.3	0.0
	女性:30代	43	0.0	60.5	9.3	14.0	16.3	0.0
	女性:40代	56	0.0	50.0	10.7	19.6	17.9	1.8
	女性:50代	71	0.0	49.3	16.9	21.1	11.3	1.4
	女性:60代	99	2.0	38.4	14.1	21.2	23.2	1.0
	女性:70代以上	87	2.3	34.5	20.7	13.8	17.2	11.5
	男性:20代	14	0.0	57.1	0.0	21.4	21.4	0.0
	男性:30代	26	0.0	53.8	11.5	19.2	11.5	3.8
	男性:40代	37	5.4	51.4	13.5	13.5	16.2	0.0
	男性:50代	46	4.3	52.2	6.5	10.9	23.9	2.2
男性:60代	78	0.0	55.1	7.7	14.1	19.2	3.8	
男性:70代以上	83	2.4	25.3	26.5	16.9	14.5	14.5	

### ③ 農業委員

図Ⅱ-5-5 農業委員への女性の登用[全体、性別]



農業委員への女性の登用について、「男性とおなじくらいにする」と「わからない」が31.3%と同率となっている。全ての役職の中で唯一「わからない」が3割を超えており、実態が把握しにくい様子が見られる。

性別で見ると、男性は「男性とおなじくらいにする」が35.6%で最も高く、女性よりも7.4ポイント上回っている。女性は「わからない」が35.8%で最も高く、男性よりも10.4ポイント上回っている。

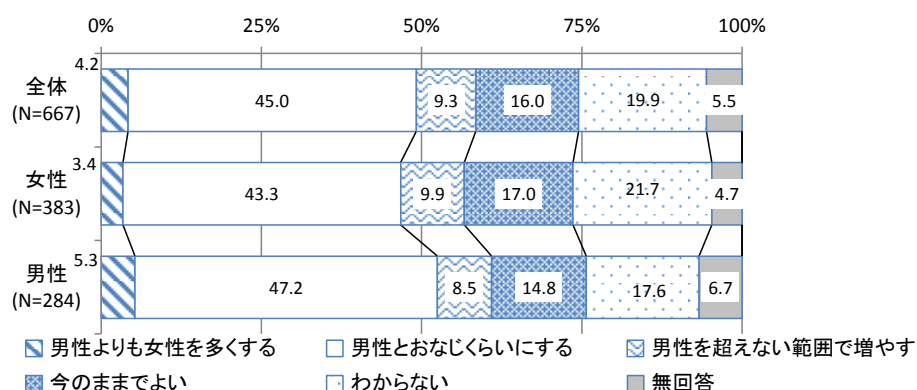
年代別で見ると、「男性とおなじくらいにする」は20代の男性で5割となっている。

表Ⅱ-5-5 農業委員への女性の登用[全体、年代別]

	標本数	男性よりも女性を多くする	男性とおなじくらいにする	男性を超えない範囲で増やす	今のままでよい	わからない	無回答	
全体	667	9	209	97	106	209	37	
	100.0	1.3	31.3	14.5	15.9	31.3	5.5	
年代	女性:20代	27	3.7	29.6	14.8	11.1	40.7	0.0
	女性:30代	43	0.0	41.9	16.3	7.0	34.9	0.0
	女性:40代	56	0.0	41.1	8.9	16.1	32.1	1.8
	女性:50代	71	0.0	33.8	16.9	14.1	32.4	2.8
	女性:60代	99	2.0	18.2	17.2	18.2	42.4	2.0
	女性:70代以上	87	0.0	19.5	14.9	18.4	32.2	14.9
	男性:20代	14	0.0	50.0	0.0	14.3	35.7	0.0
	男性:30代	26	0.0	42.3	11.5	23.1	19.2	3.8
	男性:40代	37	5.4	43.2	13.5	16.2	21.6	0.0
	男性:50代	46	2.2	41.3	10.9	10.9	32.6	2.2
	男性:60代	78	0.0	41.0	12.8	15.4	26.9	3.8
男性:70代以上	83	3.6	19.3	19.3	19.3	21.7	16.9	

#### ④ 教育委員

図Ⅱ- 5-6 教育委員への女性の登用[全体、性別]



教育委員への女性の登用について、「男性とおなじくらいにする」が45.0%と最も割合が高い。

性別でみても、特徴的なところはみられない。

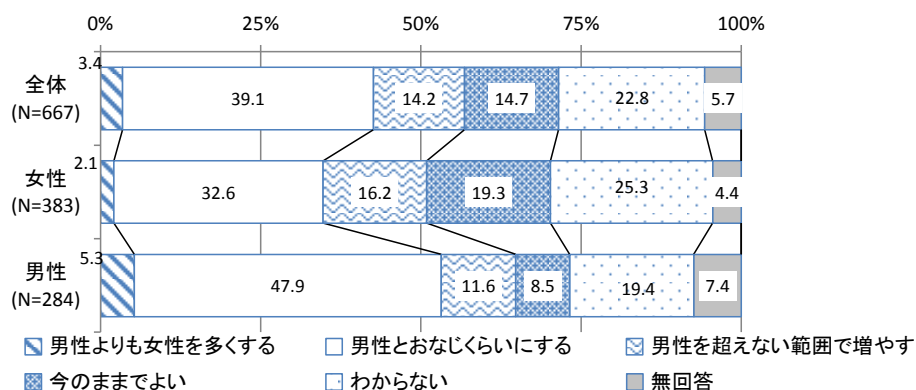
年代別でみると、「男性とおなじくらいにする」は30代から50代の女性と、50代以下の男性で5割を超えている。

表Ⅱ- 5-6 教育委員への女性の登用[全体、性別]

		標本数	男性よりも女性を多くする	男性とおなじくらいにする	男性を超えない範囲で増やす	今のままでよい	わからない	無回答
全体		667	28	300	62	107	133	37
		100.0	4.2	45.0	9.3	16.0	19.9	5.5
年代	女性:20代	27	7.4	33.3	7.4	18.5	33.3	0.0
	女性:30代	43	2.3	53.5	9.3	20.9	11.6	2.3
	女性:40代	56	7.1	51.8	1.8	17.9	19.6	1.8
	女性:50代	71	2.8	56.3	8.5	14.1	16.9	1.4
	女性:60代	99	2.0	36.4	12.1	16.2	31.3	2.0
	女性:70代以上	87	2.3	33.3	14.9	17.2	17.2	14.9
	男性:20代	14	7.1	57.1	0.0	14.3	21.4	0.0
	男性:30代	26	0.0	53.8	3.8	23.1	15.4	3.8
	男性:40代	37	5.4	54.1	8.1	21.6	10.8	0.0
	男性:50代	46	4.3	50.0	10.9	6.5	26.1	2.2
男性:60代	78	5.1	48.7	5.1	16.7	20.5	3.8	
男性:70代以上	83	7.2	37.3	13.3	12.0	13.3	16.9	

## ⑤ 小・中学校 PTA 会長

図Ⅱ- 5-7 小・中学校 PTA 会長への女性の登用[全体、性別]



小・中学校 PTA 会長への女性の登用について、「男性とおなじくらいにする」が 39.1%と最も割合が高い。

性別でみると、男性の「男性とおなじくらいにする」が 47.9%と女性 (32.6%) よりも 15.3ポイント上回っている。女性の「今のままでよい」が 19.3%と男性 (8.5%) よりも 10.8ポイント上回っている。女性の方が消極的であることがうかがえる。

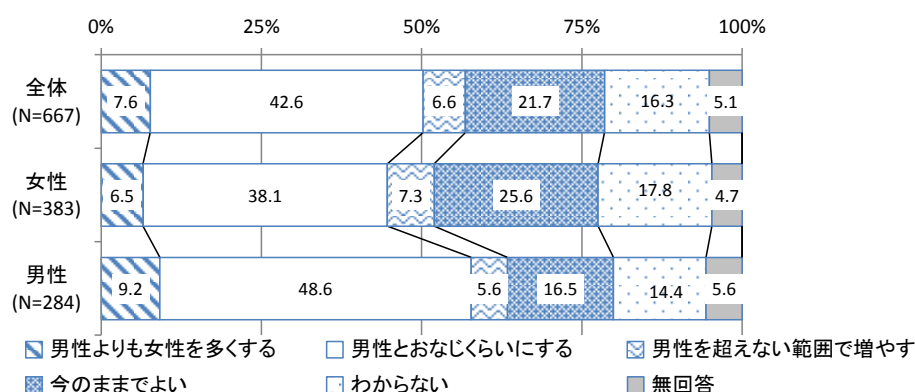
年代別でみると、「男性とおなじくらいにする」は 60 代以下の男性で 5 割前後となっている。

表Ⅱ- 5-7 小・中学校 PTA 会長への女性の登用[全体、年代別]

		標本数	男性よりも女性を多くする	男性とおなじくらいにする	男性を超えない範囲で増やす	今のままでよい	わからない	無回答
全体		667	23	261	95	98	152	38
		100.0	3.4	39.1	14.2	14.7	22.8	5.7
年代	女性:20代	27	7.4	33.3	11.1	11.1	37.0	0.0
	女性:30代	43	0.0	44.2	20.9	16.3	18.6	0.0
	女性:40代	56	0.0	42.9	5.4	28.6	21.4	1.8
	女性:50代	71	1.4	35.2	18.3	18.3	23.9	2.8
	女性:60代	99	3.0	27.3	15.2	20.2	32.3	2.0
	女性:70代以上	87	2.3	24.1	21.8	17.2	20.7	13.8
	男性:20代	14	7.1	50.0	7.1	14.3	21.4	0.0
	男性:30代	26	0.0	53.8	7.7	19.2	15.4	3.8
	男性:40代	37	8.1	48.6	16.2	8.1	18.9	0.0
	男性:50代	46	4.3	58.7	8.7	6.5	19.6	2.2
男性:60代	78	5.1	52.6	11.5	2.6	24.4	3.8	
男性:70代以上	83	6.0	34.9	13.3	10.8	15.7	19.3	

## ⑥ 民生委員・児童委員

図Ⅱ- 5-8 民生委員・児童委員への女性の登用[全体、性別]



民生委員・児童委員への女性の登用について、「男性とおなじくらいにする」が42.6%と最も割合が高い。「男性よりも女性を多くする」(7.6%)が他の役職よりも高く、女性の登用が望まれている。

性別でみると、男性の「男性とおなじくらいにする」が48.6%と女性(38.1%)よりも10.5ポイント上回っている。

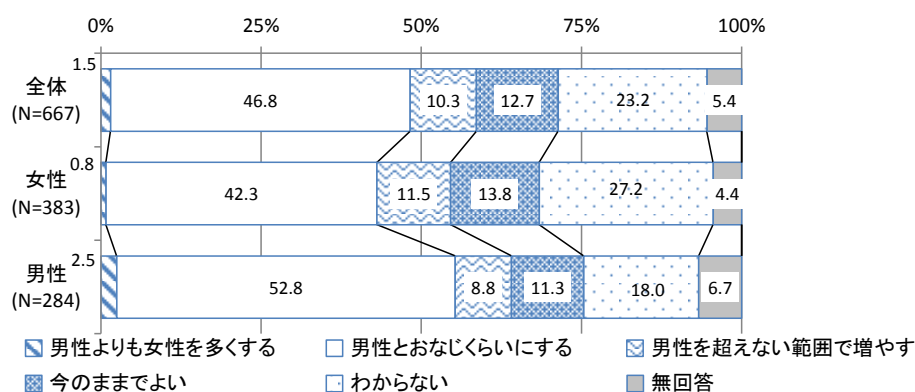
年代別でみると、男性の40代で「男性よりも女性を多くする」が2割近くとなっている。

表Ⅱ- 5-8 民生委員・児童委員への女性の登用[全体、年代別]

		標本数	男性よりも女性を多くする	男性とおなじくらいにする	男性を超えない範囲で増やす	今のままでよい	わからない	無回答
全体		667	51	284	44	145	109	34
		100.0	7.6	42.6	6.6	21.7	16.3	5.1
年代	女性:20代	27	3.7	25.9	7.4	29.6	33.3	0.0
	女性:30代	43	4.7	46.5	9.3	18.6	20.9	0.0
	女性:40代	56	12.5	44.6	1.8	25.0	14.3	1.8
	女性:50代	71	7.0	45.1	4.2	29.6	11.3	2.8
	女性:60代	99	6.1	29.3	11.1	29.3	21.2	3.0
	女性:70代以上	87	4.6	37.9	8.0	20.7	14.9	13.8
	男性:20代	14	0.0	50.0	7.1	14.3	28.6	0.0
	男性:30代	26	3.8	46.2	0.0	38.5	7.7	3.8
	男性:40代	37	18.9	45.9	2.7	21.6	10.8	0.0
	男性:50代	46	6.5	50.0	8.7	15.2	17.4	2.2
男性:60代	78	6.4	52.6	3.8	15.4	19.2	2.6	
男性:70代以上	83	12.0	45.8	8.4	9.6	9.6	14.5	

## ⑦ 選挙管理委員

図Ⅱ- 5-9 選挙管理委員への女性の登用[全体、性別]



選挙管理委員への女性の登用について、「男性とおなじくらいにする」が46.8%と最も割合が高く、他の役職の中で最も高い。

性別でみると、男性の「男性とおなじくらいにする」が52.8%と女性(42.3%)よりも10.5ポイント上回っている。

年代別でみると、「男性とおなじくらいにする」は60代以下の男性と30代から50代の女性で5割以上となっている。

表Ⅱ- 5-9 選挙管理委員への女性の登用[全体、年代別]

		標本数	男性よりも女性を多くする	男性とおなじくらいにする	男性を超えない範囲で増やす	今のままでよい	わからない	無回答
全体		667	10	312	69	85	155	36
		100.0	1.5	46.8	10.3	12.7	23.2	5.4
年代	女性:20代	27	3.7	40.7	7.4	11.1	37.0	0.0
	女性:30代	43	0.0	51.2	11.6	11.6	25.6	0.0
	女性:40代	56	0.0	53.6	8.9	12.5	23.2	1.8
	女性:50代	71	0.0	50.7	8.5	15.5	22.5	2.8
	女性:60代	99	1.0	35.4	13.1	14.1	34.3	2.0
	女性:70代以上	87	1.1	32.2	14.9	14.9	23.0	13.8
	男性:20代	14	0.0	64.3	7.1	14.3	14.3	0.0
	男性:30代	26	0.0	53.8	19.2	15.4	7.7	3.8
	男性:40代	37	2.7	56.8	2.7	10.8	27.0	0.0
	男性:50代	46	4.3	56.5	15.2	6.5	15.2	2.2
男性:60代	78	1.3	61.5	7.7	3.8	21.8	3.8	
男性:70代以上	83	3.6	38.6	6.0	19.3	15.7	16.9	

### (3) 地域の役職への就任の依頼について

#### ① 地域の役職に推薦された場合の対応

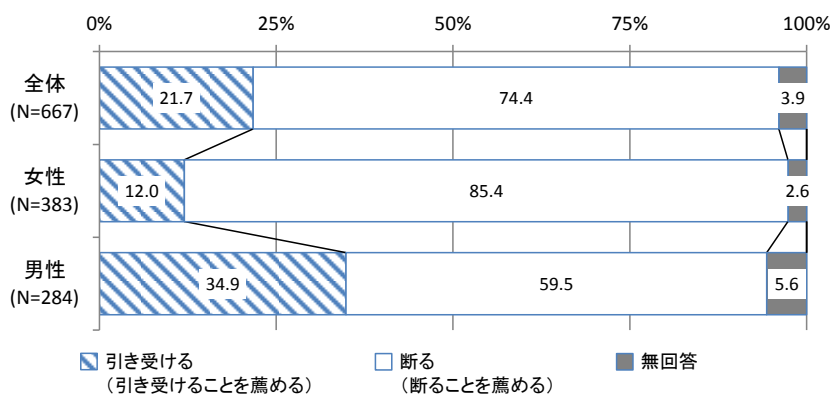
【問12】自治会長や区長、PTA会長などの地域の役職についておたずねします。

【女性の方に】あなたが推薦されたらどうしますか。

【男性の方に】配偶者などの身近な女性が推薦されたらどうしますか。

(○印は1つ)

図Ⅱ-5-10 地域の役職に推薦された場合の対応[全体、性別]



地域の役職へ推薦された場合の対応については、「断る (断ることを薦める)」(74.4%)が「引き受ける (引き受けることを薦める)」(21.7%)の割合を大きく上回っている。

性別でみると、女性は「引き受ける」(12.0%)の割合が男性の「引き受けることを薦める」(34.9%)よりもかなり低くなっている。

年代別でみると、男性の20代が「引き受けることを薦める」(64.3%)が「断ることを薦める」(28.6%)を上回っているが、それ以外の世代では男女とも「断る (断ることを薦める)」の割合が高く、男性の30代と40代では他の年代よりも高くなっている。

表Ⅱ-5-10 地域の役職に推薦された場合の対応[全体、年代別]

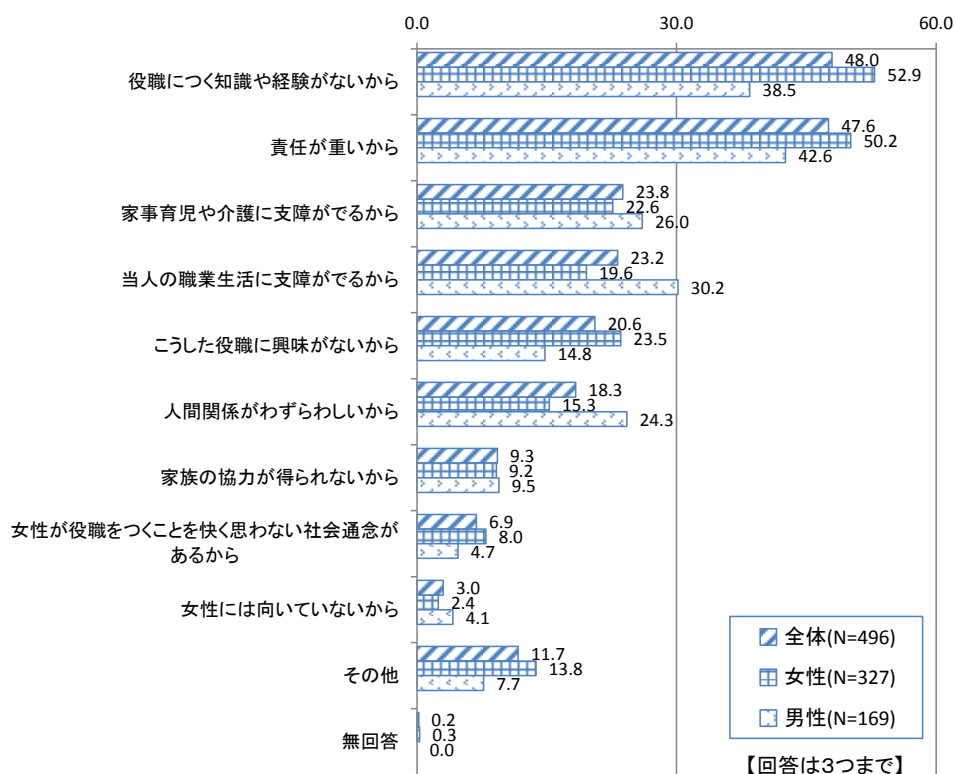
		標本数	(引き受けることを薦める)	(断ることを薦める)	無回答
全体		667	145	496	26
		100.0	21.7	74.4	3.9
年代	女性:20代	27	22.2	77.8	0.0
	女性:30代	43	16.3	83.7	0.0
	女性:40代	56	17.9	80.4	1.8
	女性:50代	71	12.7	85.9	1.4
	女性:60代	99	3.0	93.9	3.0
	女性:70代以上	87	12.6	81.6	5.7
	男性:20代	14	64.3	28.6	7.1
	男性:30代	26	23.1	73.1	3.8
	男性:40代	37	29.7	70.3	0.0
	男性:50代	46	41.3	54.3	4.3
	男性:60代	78	34.6	61.5	3.8
男性:70代以上	83	32.5	56.6	10.8	



## ② 断る理由

【副問1】問12で、「2. 断る（断ることをすすめる）」と答えた方におたずねします。  
その理由は何ですか。（○印は3つまで）

図Ⅱ-5-11 地域の役職へ推薦を断る理由[全体、性別]



地域の役職への推薦を断る理由として「役職につく知識や経験がないから」（48.0%）、「責任が重いから」（47.6%）などが4割を超えて上位にあげられ、次いで「家事育児や介護に支障がでるから」（23.8%）、「当人の職業生活に支障がでるから」（23.2%）、「こうした役職に興味がないから」（20.6%）が2割台となっている。

性別でみると、女性は「役職につく知識や経験がないから」（52.9%）や「責任が重いから」（50.2%）などが5割を超えて男性よりも高く、男性は「当人の職業生活に支障がでるから」（30.2%）、「家事育児や介護に支障がでるから」（26.0%）などが女性よりも高くなっている。また、全体の割合は低い「女性が役職をつくことを快く思わない社会通念があるから」は女性が8.0%と男性の4.7%を3.3ポイント上回り、一方「女性には向いてないから」は男性が4.1%と女性の2.4%を1.7ポイント上回っている。

年代別でみると、「家事育児や介護に支障がでるから」は男女とも30代・40代で高い割合となっており、子どもに手のかかる年代では課題となっている。「女性には向いてないから」は、男女とも20代・30代では0%だが、40代以降は年齢が高くなるにつれ、割合も高い傾向がみられる。

表Ⅱ-5-11 地域の役職へ推薦を断る理由[全体、年代別]

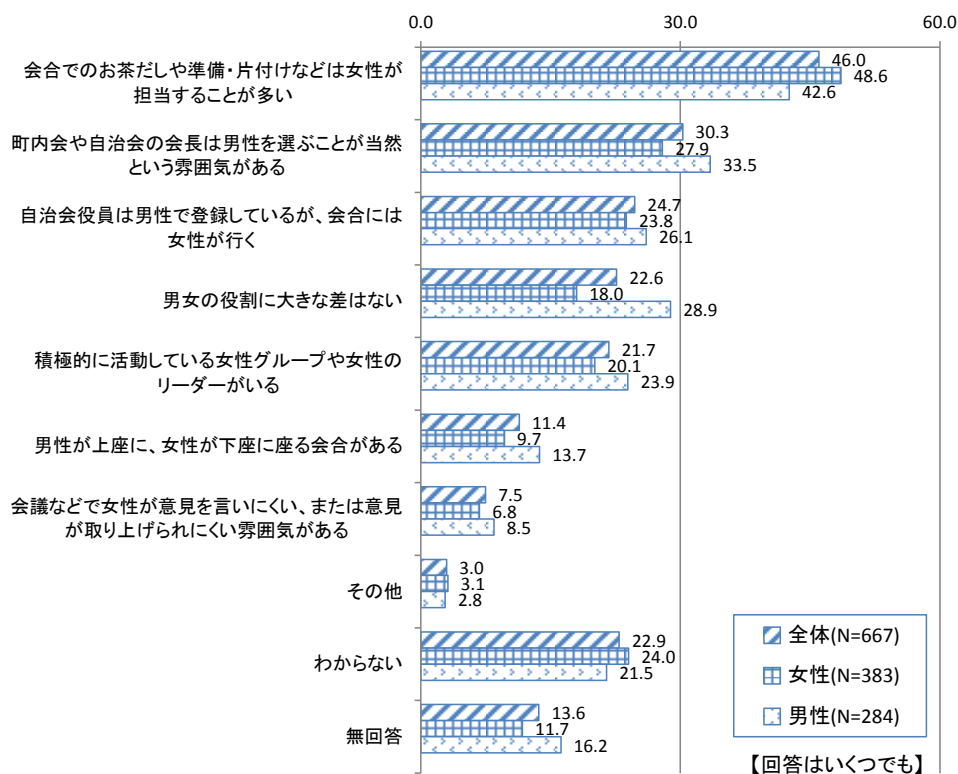
		標本数	ないから 家族の協力が得られ	会通念が あるから	女性 が役職を つくるこ	責任が 重いから	役職に ついては 知識や経	女性に は向いて ない	障が でるから	障が でるから	家事育 児や介 護に支	人間 関係が わづら	がな いから	その 他	無回 答
全体		496	46	34	236	238	15	115	118	91	102	58	1		
		100.0	9.3	6.9	47.6	48.0	3.0	23.2	23.8	18.3	20.6	11.7	0.2		
年代	女性:20代	21	0.0	0.0	61.9	57.1	0.0	42.9	28.6	19.0	42.9	4.8	0.0		
	女性:30代	36	19.4	5.6	55.6	36.1	0.0	22.2	52.8	19.4	33.3	5.6	0.0		
	女性:40代	45	8.9	6.7	53.3	44.4	2.2	28.9	35.6	15.6	22.2	15.6	0.0		
	女性:50代	61	9.8	13.1	42.6	47.5	3.3	27.9	21.3	16.4	21.3	13.1	0.0		
	女性:60代	93	9.7	8.6	58.1	67.7	2.2	15.1	14.0	14.0	22.6	9.7	0.0		
	女性:70代以上	71	5.6	7.0	38.0	50.7	4.2	4.2	9.9	12.7	16.9	25.4	1.4		
	男性:20代	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0		
	男性:30代	19	5.3	5.3	31.6	21.1	0.0	36.8	42.1	15.8	10.5	10.5	0.0		
	男性:40代	26	7.7	3.8	61.5	23.1	3.8	46.2	53.8	11.5	15.4	7.7	0.0		
	男性:50代	25	8.0	8.0	52.0	48.0	4.0	40.0	32.0	24.0	8.0	8.0	0.0		
	男性:60代	48	6.3	6.3	35.4	47.9	4.2	25.0	14.6	41.7	16.7	4.2	0.0		
男性:70代以上	47	14.9	2.1	42.6	42.6	6.4	12.8	8.5	17.0	19.1	10.6	0.0			

#### (4) 地域（自治会）の現状

【問 1 3】あなたが住んでいる地域において、以下のようなことがありますか。

(○印はいくつでも)

図Ⅱ- 5-12 地域（自治会）の現状[全体、性別]



住んでいる地域（自治会）などの現状として「会合でのお茶だしや準備・片付けなどは女性が担当することが多い」が46.0%と最も高く、次いで「町内会や自治会の会長には男性を選ぶことが当然という雰囲気がある」が30.3%となっている。

性別でみると、「男女の役割に大きな差はない」が女性は18.0%だが、男性は28.9%と10.9ポイント差があり、男女での認識に差があることがうかがえる。

年代別でみると、「会合でのお茶だしや準備・片付けなどは女性が担当することが多い」は女性の30代以上、男性の40代と70代以上で4割を超えている。「男女の役割に大きな差はない」は男女とも70代以上で他の世代よりも割合が高く、特に男性は4割を超えている。男女とも「わからない」が20代では5割を超え最も高いが、地域活動の参加率が4割にも満たないため当然ともいえる。

校区別で見ると、全校区で「会合でのお茶だしや準備・片付けなどは女性が担当することが多い」が比較的高く、小野校区と青柳校区では「町内会や自治会の会長には男性を選ぶことが当然という雰囲気がある」も比較的高くなっている。

表Ⅱ-5-12 地域（自治会）の現状[全体、年代別、校区別]

	標本数	気が選ぶことがある	町内会や自治会が当然という雰囲気	にいくまは女性意見を取り上げられたい	会議などで女性意見を取り上げられたい	とが多い	付合などのお茶だしや準備・片付け	座合が上座に、女性が下座に座る	男女の役割に大きな差はない	るループや女性のリーダーがいない	積極的な活動している女性が登録して	自治会役員は男性で登録している	その他	わからない	無回答
全体	667 100.0	202 30.3	50 7.5	307 46.0	76 11.4	151 22.6	145 21.7	165 24.7	20 3.0	153 22.9	14 2.1				
年代	女性:20代	27	7.4	0.0	29.6	3.7	0.0	11.1	7.4	0.0	63.0	0.0			
	女性:30代	43	23.3	14.0	44.2	9.3	14.0	11.6	25.6	2.3	37.2	0.0			
	女性:40代	56	25.0	3.6	50.0	5.4	14.3	23.2	12.5	1.8	30.4	0.0			
	女性:50代	71	25.4	5.6	45.1	5.6	16.9	21.1	25.4	5.6	18.3	2.8			
	女性:60代	99	34.3	7.1	59.6	12.1	17.2	24.2	31.3	3.0	16.2	2.0			
	女性:70代以上	87	33.3	8.0	46.0	14.9	29.9	19.5	25.3	3.4	14.9	3.4			
	男性:20代	14	28.6	7.1	35.7	14.3	14.3	14.3	21.4	0.0	50.0	7.1			
	男性:30代	26	26.9	7.7	38.5	7.7	11.5	7.7	19.2	0.0	34.6	0.0			
	男性:40代	37	37.8	8.1	45.9	10.8	21.6	21.6	18.9	5.4	21.6	0.0			
	男性:50代	46	21.7	8.7	37.0	15.2	21.7	23.9	26.1	4.3	32.6	0.0			
男性:60代	78	37.2	12.8	37.2	10.3	30.8	19.2	28.2	2.6	19.2	5.1				
男性:70代以上	83	37.3	4.8	51.8	19.3	42.2	36.1	30.1	2.4	8.4	2.4				
校区別	小野校区	60	51.7	13.3	48.3	16.7	15.0	16.7	16.7	3.3	18.3	0.0			
	青柳校区	63	47.6	11.1	54.0	20.6	27.0	19.0	36.5	3.2	11.1	0.0			
	古賀東校区	98	33.7	4.1	51.0	15.3	25.5	20.4	20.4	4.1	18.4	4.1			
	古賀西校区	97	28.9	8.2	43.3	11.3	24.7	19.6	30.9	2.1	28.9	1.0			
	花鶴校区	91	19.8	8.8	42.9	8.8	22.0	29.7	20.9	3.3	25.3	1.1			
	千鳥校区	53	22.6	7.5	49.1	7.5	28.3	35.8	28.3	3.8	17.0	1.9			
	花見校区	109	20.2	8.3	46.8	10.1	14.7	19.3	22.0	1.8	28.4	3.7			
	舞の里校区	84	29.8	2.4	35.7	2.4	28.6	17.9	26.2	2.4	27.4	2.4			
	不明	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0			
	無回答	10	30.0	0.0	60.0	20.0	10.0	20.0	20.0	10.0	20.0	0.0			

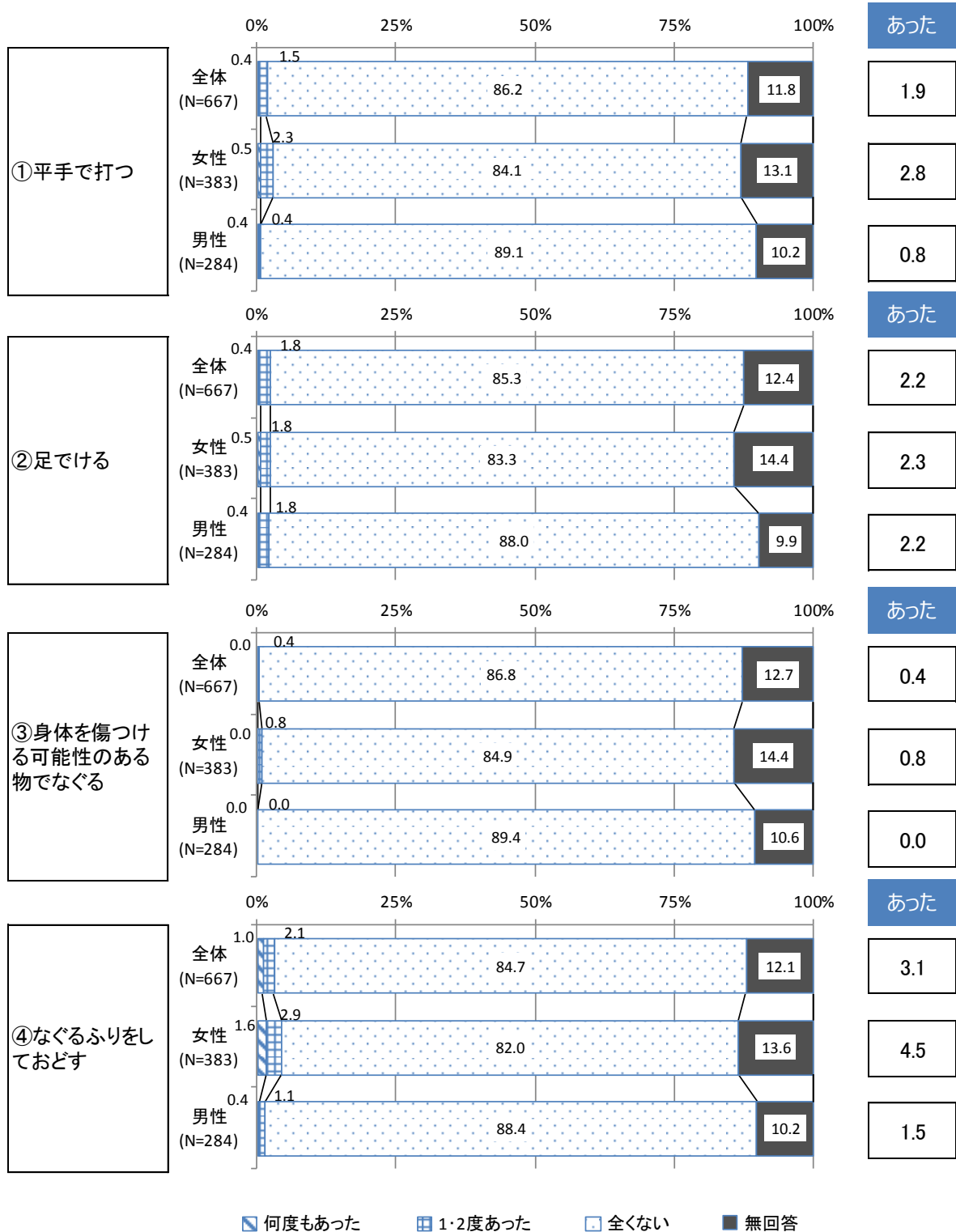
## 6. 配偶者等からの暴力について

### (1) DV（配偶者や交際相手からの暴力）の経験

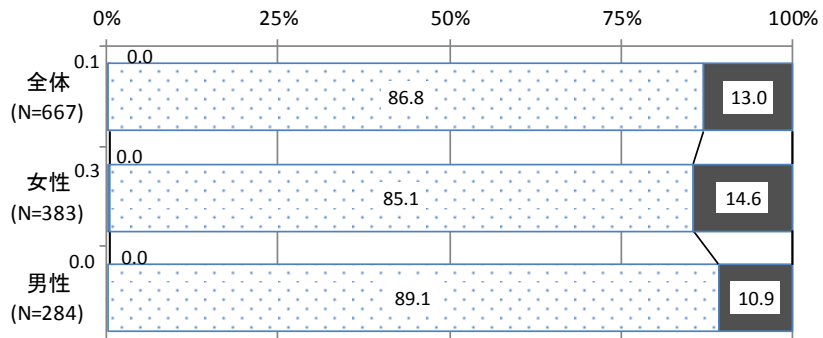
【問14】あなたは、ここ3年くらいの間にあなたの配偶者や恋人関係、または恋人関係にあった人から次のようなことをされたことがありますか。

(ア)～(シ)のそれぞれについてあてはまる番号に○を付け、以下の副問にお答えください。(○印はそれぞれ1つずつ)

図II-6-1 DVの経験[全体、性別]



⑤刃物をつきつけておどす



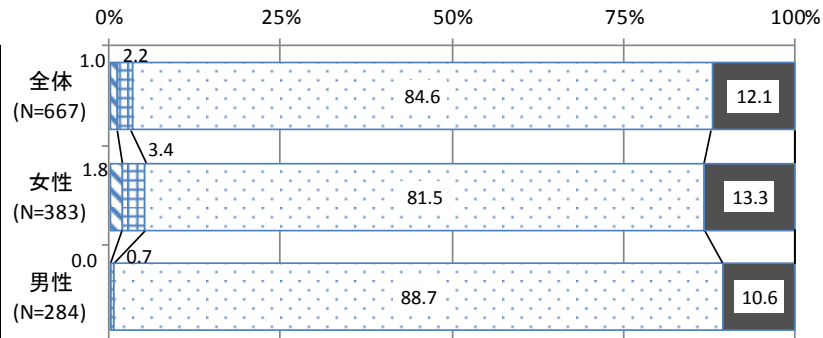
あつた

0.1

0.3

0.0

⑥いやがっているのに性的な行為を強要する



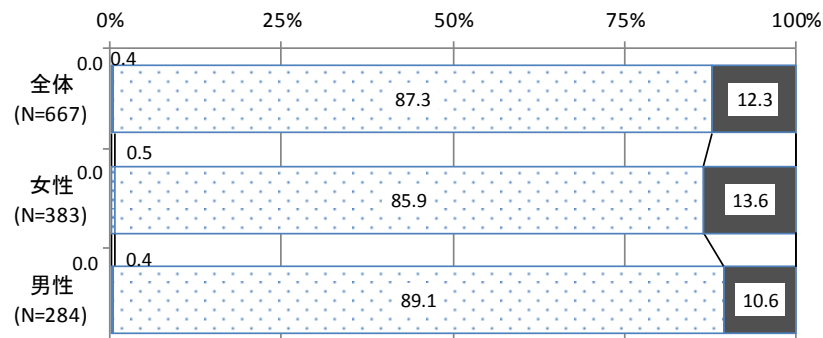
あつた

3.2

5.2

0.7

⑦見たくないのにアダルトサイトやポルノ雑誌を見せる



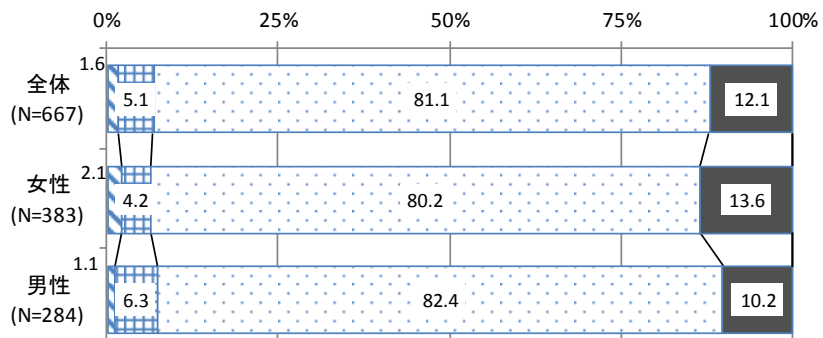
あつた

0.4

0.5

0.4

⑧何を言っても無視し続ける



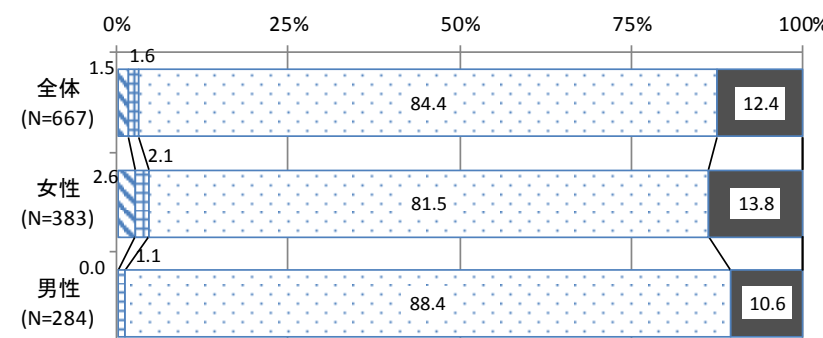
あつた

6.7

6.3

7.4

⑨必要な生活費を渡さない



あつた

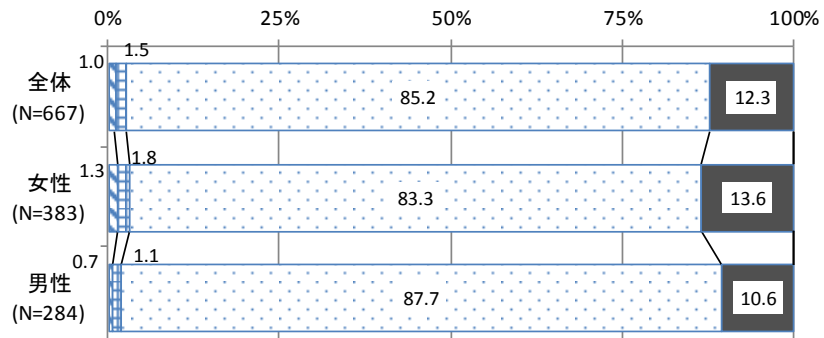
3.1

4.7

1.1

■ 何度もあつた ■ 1・2度あつた □ 全くない ■ 無回答

⑩交友関係や電話・メールなどを細かく監視する



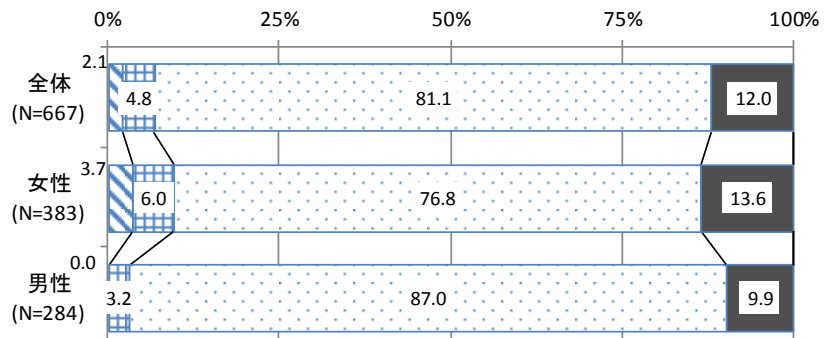
あつた

2.5

3.1

1.8

⑪「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う



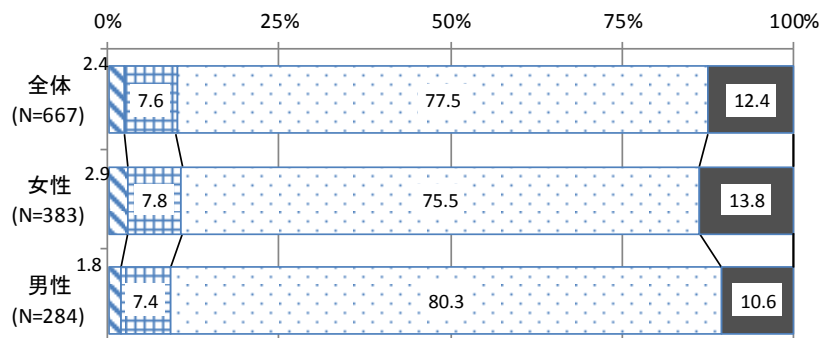
あつた

6.9

9.7

3.2

⑫子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする



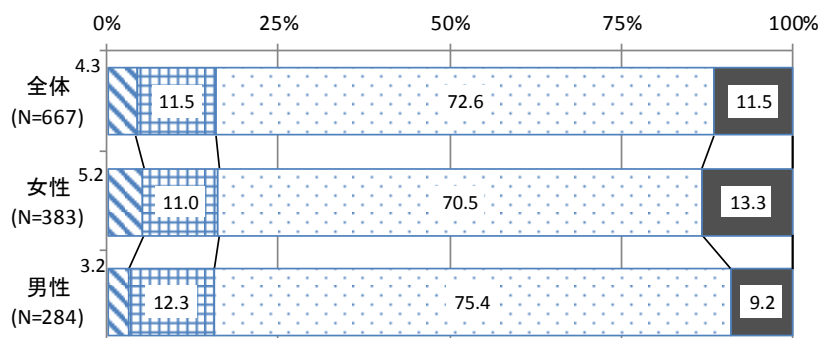
あつた

10.0

10.7

9.2

⑬大声でどなる



あつた

15.8

16.2

15.5

■ 何度もあった ■ 1・2度あった ■ 全くない ■ 無回答

13項目の行為について、配偶者や交際相手の間で経験があるかたずねた。「大声でどなる」は「何度もあった」が4.3%、「1・2度あった」が11.5%でこれらを合計した被害経験が『あつた』人は15.8%で最も高い。次いで「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」が10.0%と精神的暴力の割合が高い。

性別でみると、「『誰のおかげで生活できるんだ』とか『甲斐性なし』と言う」は女性が9.7%と1割近く、男性の3.2%を6.5ポイント上回っている。「何を言っても無視し続ける」は男性が7.4%で女性の6.3%を上回っている。

未既婚別にみると、離・死別の女性は身体的暴力があったと回答している割合が高い。また、男女共にパートナーがいる人が⑩子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする精神的暴力があったと1割以上が答えている。

年代別にみると、40代～60代女性が⑪「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う精神的暴力があったと1割以上が回答している。

表Ⅱ-6-1 DVの経験[全体、既未婚別、年代別]

【①平手で打つ】

		標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた
全体		667	3	10	575	79	13
		100.0	0.4	1.5	86.2	11.8	1.9
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	0.4	1.9	92.9	4.9	2.2
	女性:離・死別	60	1.7	5.0	50.0	43.3	6.7
	女性:未婚	50	0.0	2.0	80.0	18.0	2.0
	男性:パートナーがいる	229	0.4	0.4	94.3	4.8	0.9
	男性:離・死別	14	0.0	0.0	78.6	21.4	0.0
	男性:未婚	32	0.0	0.0	68.8	31.3	0.0
	無回答	14	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
年代	女性:20代	27	0.0	3.7	92.6	3.7	3.7
	女性:30代	43	0.0	2.3	95.3	2.3	2.3
	女性:40代	56	0.0	3.6	83.9	12.5	3.6
	女性:50代	71	1.4	4.2	85.9	8.5	5.6
	女性:60代	99	0.0	1.0	86.9	12.1	1.0
	女性:70代以上	87	1.1	1.1	71.3	26.4	2.3
	男性:20代	14	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	0.0	0.0	88.5	11.5	0.0
	男性:40代	37	2.7	0.0	97.3	0.0	2.7
	男性:50代	46	0.0	0.0	93.5	6.5	0.0
	男性:60代	78	0.0	1.3	96.2	2.6	1.3
	男性:70代以上	83	0.0	0.0	81.9	18.1	0.0

【②足でける】

		標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた
全体		667	3	12	569	83	15
		100.0	0.4	1.8	85.3	12.4	2.2
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	0.4	1.9	92.2	5.6	2.2
	女性:離・死別	60	1.7	1.7	48.3	48.3	3.3
	女性:未婚	50	0.0	2.0	80.0	18.0	2.0
	男性:パートナーがいる	229	0.4	1.7	93.4	4.4	2.2
	男性:離・死別	14	0.0	0.0	78.6	21.4	0.0
	男性:未婚	32	0.0	3.1	65.6	31.3	3.1
	無回答	14	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
年代	女性:20代	27	0.0	3.7	92.6	3.7	3.7
	女性:30代	43	2.3	2.3	93.0	2.3	4.7
	女性:40代	56	1.8	1.8	83.9	12.5	3.6
	女性:50代	71	0.0	4.2	85.9	9.9	4.2
	女性:60代	99	0.0	1.0	86.9	12.1	1.0
	女性:70代以上	87	0.0	0.0	69.0	31.0	0.0
	男性:20代	14	0.0	7.1	50.0	42.9	7.1
	男性:30代	26	0.0	7.7	80.8	11.5	7.7
	男性:40代	37	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性:50代	46	0.0	2.2	91.3	6.5	2.2
	男性:60代	78	1.3	1.3	96.2	1.3	2.6
	男性:70代以上	83	0.0	0.0	81.9	18.1	0.0

【③身体を傷つける可能性のある物でなぐる】

		標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた
全体		667	-	3	579	85	3
		100.0	-	0.4	86.8	12.7	0.4
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	-	0.7	93.7	5.6	0.7
	女性:離・死別	60	-	0.0	51.7	48.3	0.0
	女性:未婚	50	-	2.0	80.0	18.0	2.0
	男性:パートナーがいる	229	-	0.0	94.8	5.2	0.0
	男性:離・死別	14	-	0.0	78.6	21.4	0.0
	男性:未婚	32	-	0.0	68.8	31.3	0.0
	無回答	9	-	0.0	77.8	77.8	0.0
年代	女性:20代	27	-	3.7	92.6	3.7	3.7
	女性:30代	43	-	2.3	95.3	2.3	2.3
	女性:40代	56	-	0.0	87.5	12.5	0.0
	女性:50代	71	-	0.0	90.1	9.9	0.0
	女性:60代	99	-	1.0	86.9	12.1	1.0
	女性:70代以上	87	-	0.0	69.0	31.0	0.0
	男性:20代	14	-	0.0	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	-	0.0	88.5	11.5	0.0
	男性:40代	37	-	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性:50代	46	-	0.0	93.5	6.5	0.0
	男性:60代	78	-	0.0	96.2	3.8	0.0
	男性:70代以上	83	-	0.0	81.9	18.1	0.0

【④なぐるふりをしておどす】

		標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた
全体		667	7	14	565	81	21
		100.0	1.0	2.1	84.7	12.1	3.1
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	1.5	2.6	90.7	5.2	4.1
	女性:離・死別	60	3.3	5.0	46.7	45.0	8.3
	女性:未婚	50	0.0	2.0	80.0	18.0	2.0
	男性:パートナーがいる	229	0.4	0.9	93.9	4.8	1.3
	男性:離・死別	14	0.0	0.0	78.6	21.4	0.0
	男性:未婚	32	0.0	3.1	65.6	31.3	3.1
	無回答	14	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
年代	女性:20代	27	0.0	3.7	92.6	3.7	3.7
	女性:30代	43	2.3	4.7	90.7	2.3	7.0
	女性:40代	56	3.6	3.6	80.4	12.5	7.1
	女性:50代	71	2.8	2.8	85.9	8.5	5.6
	女性:60代	99	1.0	2.0	85.9	11.1	3.0
	女性:70代以上	87	0.0	2.3	67.8	29.9	2.3
	男性:20代	14	0.0	7.1	50.0	42.9	7.1
	男性:30代	26	0.0	0.0	88.5	11.5	0.0
	男性:40代	37	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性:50代	46	0.0	0.0	93.5	6.5	0.0
	男性:60代	78	1.3	1.3	94.9	2.6	2.6
	男性:70代以上	83	0.0	1.2	80.7	18.1	1.2



【⑤刃物をつきつけておどす】

	標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた	
全体	667	1	-	579	87	1	
	100.0	0.1	-	86.8	13.0	0.1	
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	0.4	-	93.7	6.0	0.4
	女性:離・死別	60	0.0	-	51.7	48.3	0.0
	女性:未婚	50	0.0	-	82.0	18.0	0.0
	男性:パートナーがいる	229	0.0	-	94.3	5.7	0.0
	男性:離・死別	14	0.0	-	78.6	21.4	0.0
	男性:未婚	32	0.0	-	68.8	31.3	0.0
年代	無回答	9	0.0	-	77.8	77.8	0.0
	女性:20代	27	0.0	-	96.3	3.7	0.0
	女性:30代	43	0.0	-	97.7	2.3	0.0
	女性:40代	56	0.0	-	87.5	12.5	0.0
	女性:50代	71	0.0	-	90.1	9.9	0.0
	女性:60代	99	1.0	-	86.9	12.1	1.0
	女性:70代以上	87	0.0	-	67.8	32.2	0.0
	男性:20代	14	0.0	-	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	0.0	-	88.5	11.5	0.0
	男性:40代	37	0.0	-	100.0	0.0	0.0
	男性:50代	46	0.0	-	93.5	6.5	0.0
	男性:60代	78	0.0	-	94.9	5.1	0.0
	男性:70代以上	83	0.0	-	81.9	18.1	0.0

【⑥いやがっているのに性的な行為を強要する】

	標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた	
全体	667	7	15	564	81	22	
	100.0	1.0	2.2	84.6	12.1	3.3	
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	1.9	3.4	89.6	5.2	5.2
	女性:離・死別	60	3.3	3.3	50.0	43.3	6.7
	女性:未婚	50	0.0	4.0	78.0	18.0	4.0
	男性:パートナーがいる	229	0.0	0.9	93.9	5.2	0.9
	男性:離・死別	14	0.0	0.0	78.6	21.4	0.0
	男性:未婚	32	0.0	0.0	68.8	31.3	0.0
年代	無回答	14	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	女性:20代	27	0.0	7.4	88.9	3.7	7.4
	女性:30代	43	2.3	0.0	95.3	2.3	2.3
	女性:40代	56	1.8	3.6	82.1	12.5	5.4
	女性:50代	71	0.0	5.6	85.9	8.5	5.6
	女性:60代	99	4.0	4.0	80.8	11.1	8.1
	女性:70代以上	87	1.1	1.1	69.0	28.7	2.3
	男性:20代	14	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	0.0	0.0	88.5	11.5	0.0
	男性:40代	37	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	男性:50代	46	0.0	0.0	93.5	6.5	0.0
	男性:60代	78	0.0	0.0	96.2	3.8	0.0
	男性:70代以上	83	0.0	2.4	79.5	18.1	2.4

【⑦見たくないのにアダルトサイトやポルノ雑誌を見せる】

	標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた	
全体	667	-	3	582	82	3	
	100.0	-	0.4	87.3	12.3	0.4	
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	-	0.4	94.4	5.2	0.4
	女性:離・死別	60	-	0.0	55.0	45.0	0.0
	女性:未婚	50	-	2.0	80.0	18.0	2.0
	男性:パートナーがいる	229	-	0.0	94.8	5.2	0.0
	男性:離・死別	14	-	7.1	71.4	21.4	7.1
	男性:未婚	32	-	0.0	68.8	31.3	0.0
年代	無回答	9	-	0.0	77.8	77.8	0.0
	女性:20代	27	-	3.7	92.6	3.7	3.7
	女性:30代	43	-	0.0	97.7	2.3	0.0
	女性:40代	56	-	0.0	87.5	12.5	0.0
	女性:50代	71	-	0.0	91.5	8.5	0.0
	女性:60代	99	-	1.0	87.9	11.1	1.0
	女性:70代以上	87	-	0.0	70.1	29.9	0.0
	男性:20代	14	-	0.0	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	-	0.0	88.5	11.5	0.0
	男性:40代	37	-	2.7	97.3	0.0	2.7
	男性:50代	46	-	0.0	93.5	6.5	0.0
	男性:60代	78	-	0.0	96.2	3.8	0.0
	男性:70代以上	83	-	0.0	81.9	18.1	0.0

【⑧何を言っても無視し続ける】

	標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた	
全体	667	11	34	541	81	45	
	100.0	1.6	5.1	81.1	12.1	6.7	
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	2.6	0.7	9.0	0.4	2.6
	女性:離・死別	60	1.7	1.7	65.0	1.7	1.7
	女性:未婚	50	0.0	2.0	90.0	14.0	0.0
	男性:パートナーがいる	229	1.3	7.4	86.5	4.8	1.3
	男性:離・死別	14	0.0	7.1	71.4	21.4	0.0
	男性:未婚	32	0.0	0.0	68.8	31.3	0.0
年代	無回答	14	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	女性:20代	27	0.0	7.4	88.9	3.7	0.0
	女性:30代	43	4.7	2.3	90.7	2.3	4.7
	女性:40代	56	5.4	1.8	80.4	12.5	5.4
	女性:50代	71	1.4	7.0	83.1	8.5	1.4
	女性:60代	99	2.0	6.1	80.8	11.1	2.0
	女性:70代以上	87	0.0	1.1	69.0	29.9	0.0
	男性:20代	14	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	0.0	3.8	84.6	11.5	0.0
	男性:40代	37	2.7	5.4	91.9	0.0	2.7
	男性:50代	46	0.0	2.2	91.3	6.5	0.0
	男性:60代	78	1.3	11.5	84.6	2.6	1.3
	男性:70代以上	83	1.2	6.0	74.7	18.1	1.2

【⑨必要な生活費を渡さない】

	標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた	
全体	667	10	11	563	83	21	
	100.0	1.5	1.6	84.4	12.4	3.1	
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	2.6	1.9	89.9	5.6	4.5
	女性:離・死別	60	5.0	3.3	46.7	45.0	8.3
	女性:未婚	50	0.0	2.0	80.0	18.0	2.0
	男性:パートナーがいる	229	0.0	0.4	94.3	5.2	0.4
	男性:離・死別	14	0.0	7.1	71.4	21.4	7.1
	男性:未婚	32	0.0	0.0	68.8	31.3	0.0
年代	無回答	14	0.0	7.1	42.9	50.0	7.1
	女性:20代	27	0.0	3.7	92.6	3.7	3.7
	女性:30代	43	2.3	2.3	93.0	2.3	4.7
	女性:40代	56	3.6	0.0	83.9	12.5	3.6
	女性:50代	71	2.8	2.8	85.9	8.5	5.6
	女性:60代	99	5.1	1.0	82.8	11.1	6.1
	女性:70代以上	87	0.0	3.4	65.5	31.0	3.4
	男性:20代	14	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	0.0	0.0	88.5	11.5	0.0
	男性:40代	37	0.0	2.7	97.3	0.0	2.7
	男性:50代	46	0.0	0.0	93.5	6.5	0.0
	男性:60代	78	0.0	1.3	94.9	3.8	1.3
	男性:70代以上	83	0.0	1.2	80.7	18.1	1.2

【⑩交友関係や電話・メールなどを細かく監視する】

	標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた	
全体	667	7	10	568	82	17	
	100.0	1.0	1.5	85.2	12.3	2.5	
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	0.7	2.2	91.8	5.2	3.0
	女性:離・死別	60	1.7	0.0	53.3	45.0	1.7
	女性:未婚	50	4.0	2.0	76.0	18.0	6.0
	男性:パートナーがいる	229	0.9	1.3	92.6	5.2	2.2
	男性:離・死別	14	0.0	0.0	78.6	21.4	0.0
	男性:未婚	32	0.0	0.0	68.8	31.3	0.0
年代	無回答	14	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	女性:20代	27	3.7	3.7	88.9	3.7	7.4
	女性:30代	43	2.3	7.0	88.4	2.3	9.3
	女性:40代	56	0.0	0.0	87.5	12.5	0.0
	女性:50代	71	0.0	0.0	91.5	8.5	0.0
	女性:60代	99	3.0	1.0	84.8	11.1	4.0
	女性:70代以上	87	0.0	2.3	67.8	29.9	2.3
	男性:20代	14	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	0.0	3.8	84.6	11.5	3.8
	男性:40代	37	5.4	0.0	94.6	0.0	5.4
	男性:50代	46	0.0	2.2	91.3	6.5	2.2
	男性:60代	78	0.0	1.3	94.9	3.8	1.3
	男性:70代以上	83	0.0	0.0	81.9	18.1	0.0

【⑩「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う】 【⑪子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする】

		標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた
全体		667	14	32	541	80	46
		100.0	2.1	4.8	81.1	12.0	6.9
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	4.5	7.1	83.2	5.2	11.6
	女性:離・死別	60	3.3	5.0	46.7	45.0	8.3
	女性:未婚	50	0.0	2.0	80.0	18.0	2.0
	男性:パートナーがいる	229	0.0	3.9	91.7	4.4	3.9
	男性:離・死別	14	0.0	0.0	78.6	21.4	0.0
	男性:未婚	32	0.0	0.0	68.8	31.3	0.0
無回答		14	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
年代	女性:20代	27	0.0	7.4	88.9	3.7	7.4
	女性:30代	43	7.0	2.3	88.4	2.3	9.3
	女性:40代	56	5.4	7.1	75.0	12.5	12.5
	女性:50代	71	2.8	9.9	80.3	7.0	12.7
	女性:60代	99	5.1	6.1	77.8	11.1	11.1
	女性:70代以上	87	1.1	3.4	64.4	31.0	4.6
	男性:20代	14	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	0.0	0.0	88.5	11.5	0.0
	男性:40代	37	0.0	2.7	97.3	0.0	2.7
	男性:50代	46	0.0	0.0	93.5	6.5	0.0
	男性:60代	78	0.0	6.4	92.3	1.3	6.4
	男性:70代以上	83	0.0	3.6	78.3	18.1	3.6

		標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた
全体		667	16	51	517	83	67
		100.0	2.4	7.6	77.5	12.4	10.0
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	3.4	9.3	81.7	5.6	12.7
	女性:離・死別	60	1.7	5.0	48.3	45.0	6.7
	女性:未婚	50	2.0	4.0	76.0	18.0	6.0
	男性:パートナーがいる	229	1.7	8.3	84.7	5.2	10.0
	男性:離・死別	14	0.0	7.1	71.4	21.4	7.1
	男性:未婚	32	3.1	3.1	62.5	31.3	6.3
無回答		14	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
年代	女性:20代	27	3.7	7.4	85.2	3.7	11.1
	女性:30代	43	4.7	9.3	83.7	2.3	14.0
	女性:40代	56	3.6	8.9	75.0	12.5	12.5
	女性:50代	71	4.2	7.0	78.9	9.9	11.3
	女性:60代	99	3.0	9.1	76.8	11.1	12.1
	女性:70代以上	87	0.0	5.7	64.4	29.9	5.7
	男性:20代	14	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	3.8	7.7	76.9	11.5	11.5
	男性:40代	37	5.4	10.8	83.8	0.0	16.2
	男性:50代	46	2.2	2.2	89.1	6.5	4.3
	男性:60代	78	1.3	10.3	84.6	3.8	11.5
	男性:70代以上	83	0.0	7.2	74.7	18.1	7.2

【⑬大声でどなる】

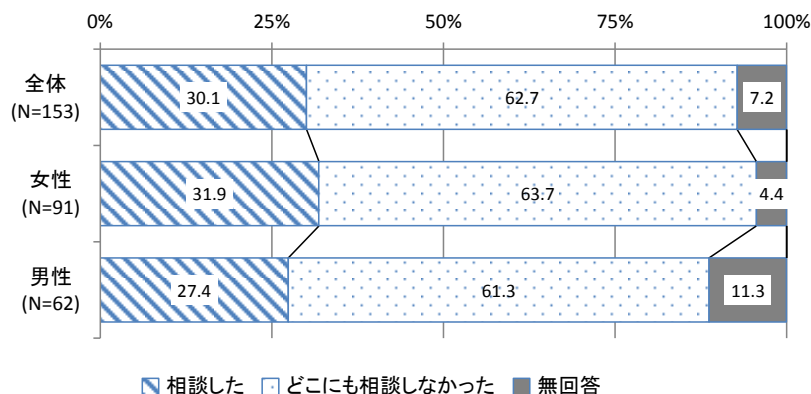
		標本数	あつたも	あつた 1・2度	全くない	無回答	あつた
全体		667	29	77	484	77	106
		100.0	4.3	11.5	72.6	11.5	15.9
既未婚別	女性:パートナーがいる	268	6.0	12.7	76.5	4.9	18.7
	女性:離・死別	60	5.0	8.3	41.7	45.0	13.3
	女性:未婚	50	2.0	6.0	74.0	18.0	8.0
	男性:パートナーがいる	229	3.9	12.7	79.5	3.9	16.6
	男性:離・死別	14	0.0	14.3	64.3	21.4	14.3
	男性:未婚	32	0.0	6.3	62.5	31.3	6.3
無回答		14	0.0	14.3	42.9	42.9	14.3
年代	女性:20代	27	3.7	14.8	77.8	3.7	18.5
	女性:30代	43	2.3	7.0	88.4	2.3	9.3
	女性:40代	56	5.4	16.1	66.1	12.5	21.4
	女性:50代	71	11.3	9.9	71.8	7.0	21.1
	女性:60代	99	5.1	13.1	70.7	11.1	18.2
	女性:70代以上	87	2.3	6.9	60.9	29.9	9.2
	男性:20代	14	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0
	男性:30代	26	3.8	7.7	76.9	11.5	11.5
	男性:40代	37	5.4	18.9	75.7	0.0	24.3
	男性:50代	46	2.2	4.3	87.0	6.5	6.5
	男性:60代	78	2.6	15.4	80.8	1.3	17.9
	男性:70代以上	83	3.6	14.5	66.3	15.7	18.1

## (2) DV（配偶者や交際相手からの暴力）の相談について

【副問1】いずれかの項目で「1. 何度もあった」「2. 1・2度あった」とお答えされた方におたずねします。どこに相談しましたか。（○印はいくつでも）

### ① DV（配偶者や交際相手からの暴力）の相談の有無

図Ⅱ-6-2 DV(配偶者や交際相手からの暴力)の相談の有無[全体、性別]



ここ3年くらいの間に13項目のDV（配偶者や交際相手からの暴力）のいずれかを一度でも受けたことのある人（153人）に、そのことについて誰かに相談したことがあるかどうか尋ねたところ、「相談した」は30.1%、「どこにも相談しなかった」が62.7%と相談した人の方が32.6ポイント少ない結果となった。

性別でみると、女性で「相談した」（31.9%）は男性で「相談した」（27.4%）より4.5ポイント高い。

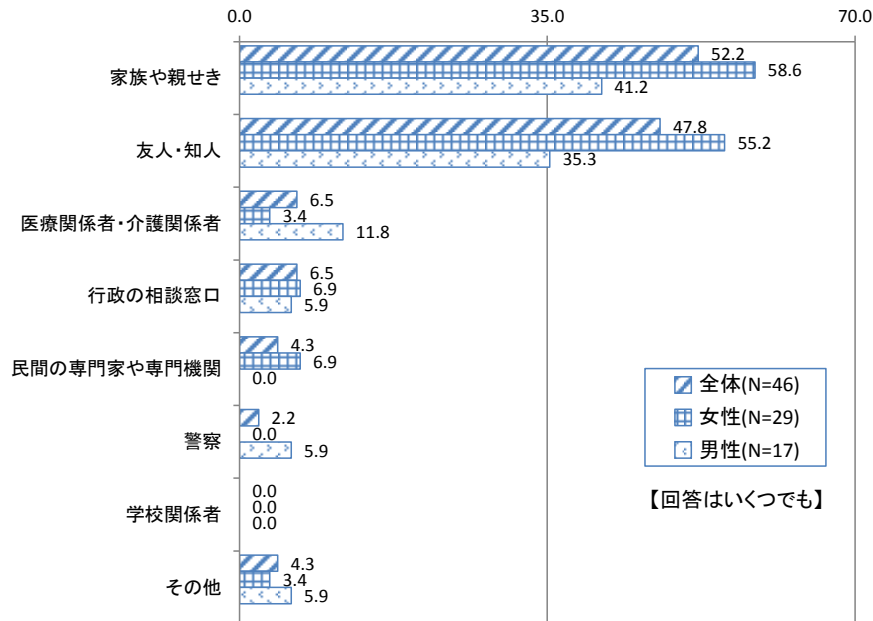
既未婚別でみると、女性では離・死別者や未婚者では、パートナーがいる人よりも「相談した」が低くなっている。

表Ⅱ-6-2 DV(配偶者や交際相手からの暴力)の相談の有無[全体、既未婚別]

		標本数	相談した	どこにも相談しなかった	無回答
全体		153	46	96	11
		100.0	30.1	62.7	7.2
既未婚別	女性:パートナーがいる	74	33.8	60.8	5.4
	女性:離・死別	9	22.2	77.8	0.0
	女性:未婚	8	25.0	75.0	0.0
	男性:パートナーがいる	55	25.5	63.6	10.9
	男性:離・死別	2	50.0	50.0	0.0
	男性:未婚	3	33.3	66.7	0.0
	無回答	2	50.0	0.0	50.0

## ② DV（配偶者や交際相手からの暴力）の相談先

図Ⅱ- 6-3 DV(配偶者や交際相手からの暴力)の相談先[全体、性別]



ここ3年くらいの間に13項目のDV（配偶者や交際相手からの暴力）のいずれかを一度でも受けたことのある人（153人）に、その相談先をたずねたところ、「家族や親せき」（52.2%）と「友人・知人」（47.8%）がそれぞれ約5割と高くなっている。以下、「医療関係者（医師・看護師など）介護関係者（ケアマネージャー・ホームヘルパー）」と「行政の相談窓口（そうだん5・かすや地区女性ホットライン・市役所窓口）」が6.5%、「民間の専門家や専門機関（弁護士・カウンセラー・NPO法人・民間シェルター）」が4.3%、「警察（110番、ミズ・リリーフ・ライン（警察の犯罪被害者相談電話）」が2.2%となっている。

性別で見ると、女性では「家族や親せき」「友人・知人」の割合が男性よりも約17～20ポイント高く、男性は「医療関係者・介護関係者」と「警察」への相談が女性よりも約6～8ポイント高くなっている。

表Ⅱ- 6-3 DV(配偶者や交際相手からの暴力)の相談先[全体、既未婚別、年代別]

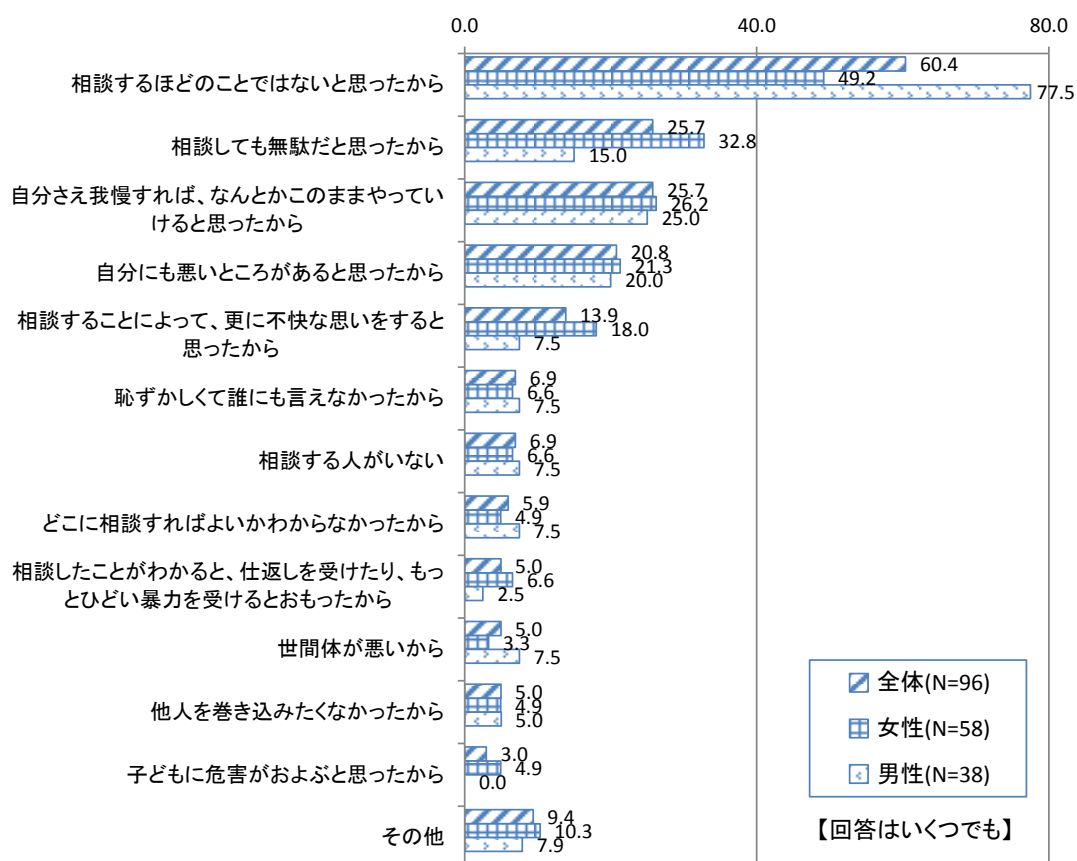
	標本数	家族や親せき	友人・知人	医療関係者・介護関係者	学校関係者	行政の相談窓口	民間の専門家や専門機関	警察	その他	
全体	46	24	22	3	0	3	2	1	2	
	100.0	52.2	47.8	6.5	0.0	6.5	4.3	2.2	4.3	
既未婚別	女性:パートナーがいる	25	64.0	52.0	4.0	0.0	8.0	8.0	0.0	4.0
	女性:離・死別	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性:未婚	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:パートナーがいる	14	42.9	35.7	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1
	男性:離・死別	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:未婚	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
年代	女性:20代	4	50.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性:30代	6	50.0	66.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	女性:40代	5	80.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性:50代	5	100.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性:60代	9	33.3	44.4	11.1	0.0	22.2	11.1	0.0	11.1
	女性:70代以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:20代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:30代	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:40代	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性:50代	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:60代	5	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
男性:70代以上	7	28.6	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	

### (3) DV（配偶者や交際相手からの暴力）を相談しなかった理由

【副問2】副問1で「9. 相談しなかった」に○をつけた方におたずねします。

どこにも相談しなかったのはなぜですか。（○印はいくつでも）

図Ⅱ-6-4 DV（配偶者や交際相手からの暴力）を相談しなかった理由[全体、性別]



ここ3年くらいの間に13項目のDV（配偶者や交際相手からの暴力）のいずれかを一度でも受けたことのある人のうち相談をしなかった人（96人）にその理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が60.4%で最も高い、次いで「相談しても無駄だと思ったから」と「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が25.7%となっている。

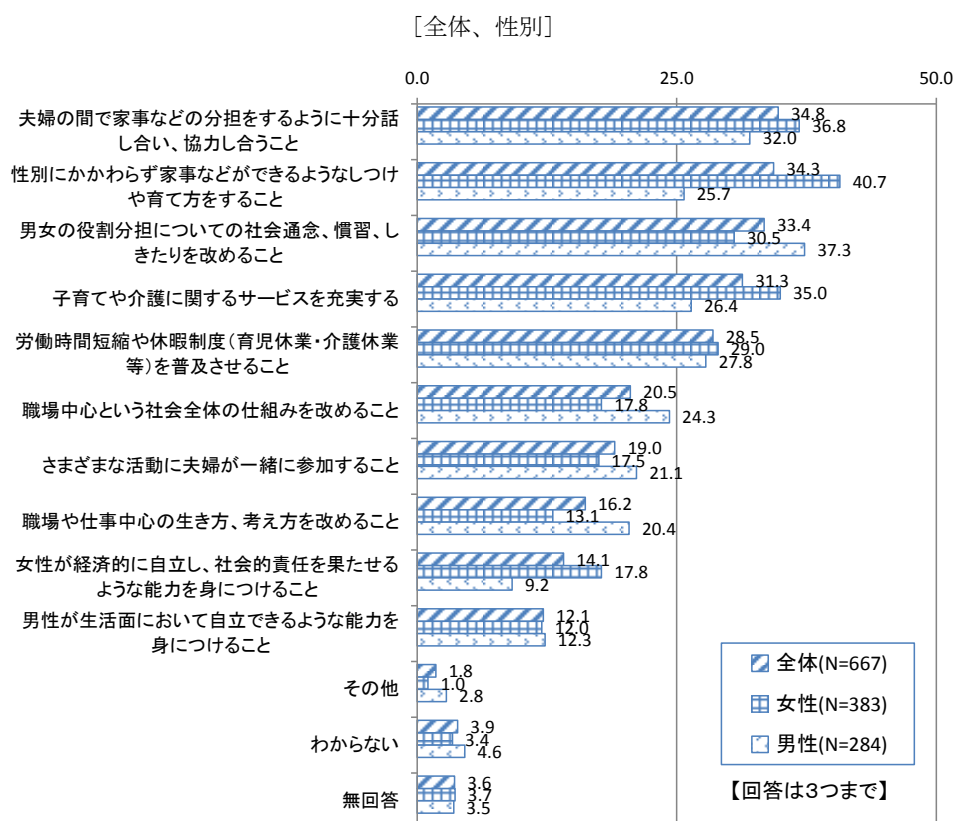
性別でみると、女性では「相談しても無駄だと思ったから」が男性よりも17.8ポイント高く、その他「相談することによって、更に不快な思いをすと思ったから」「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けるとおもったから」などが男性よりも約4~11ポイント高くなっている。一方、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が28.3ポイント女性よりも高くなっている。

## 7. 男女共同参画社会の実現について

### (1) 男女が家庭生活や地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

【問15】 今後、男女がともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印は3つまで）

図Ⅱ-7-1 男女が家庭生活や地域活動に積極的に参加していくために必要なこと



男女がともに家事、子育てや教育、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこととして、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合い、協力し合うこと」(34.8%)、「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること」(34.3%)、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(33.4%)などが3割台で上位にあげられている。

性別でみると、女性で「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること」が男性よりも15ポイント高く、「子育てや介護に関するサービスを充実する」と「女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること」が8.6ポイント高くなっている。一方、男性では「職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること」が7.4ポイント高く、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」「職場中心という社会全体の仕組みを改めること」が女性よりも約7ポイント高くなっている。

年代別でみると、女性では20代では「労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休業等）を普及させること」が63.0%と高くなっている。30代では「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること」が5割を超えている。

職業の有無別にみると、職業を持っている女性では、「性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること」が43.8%と高い。今は職業を持っていない女性では、「子育てや介護に関するサービスを充実する」が41.1%と最も高く、男性では、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が43.5%と最も高くなっている。

表Ⅱ-7-1 男女が家庭生活や地域活動に積極的に参加していくために必要なこと[全体、年代別、職業の有無別]

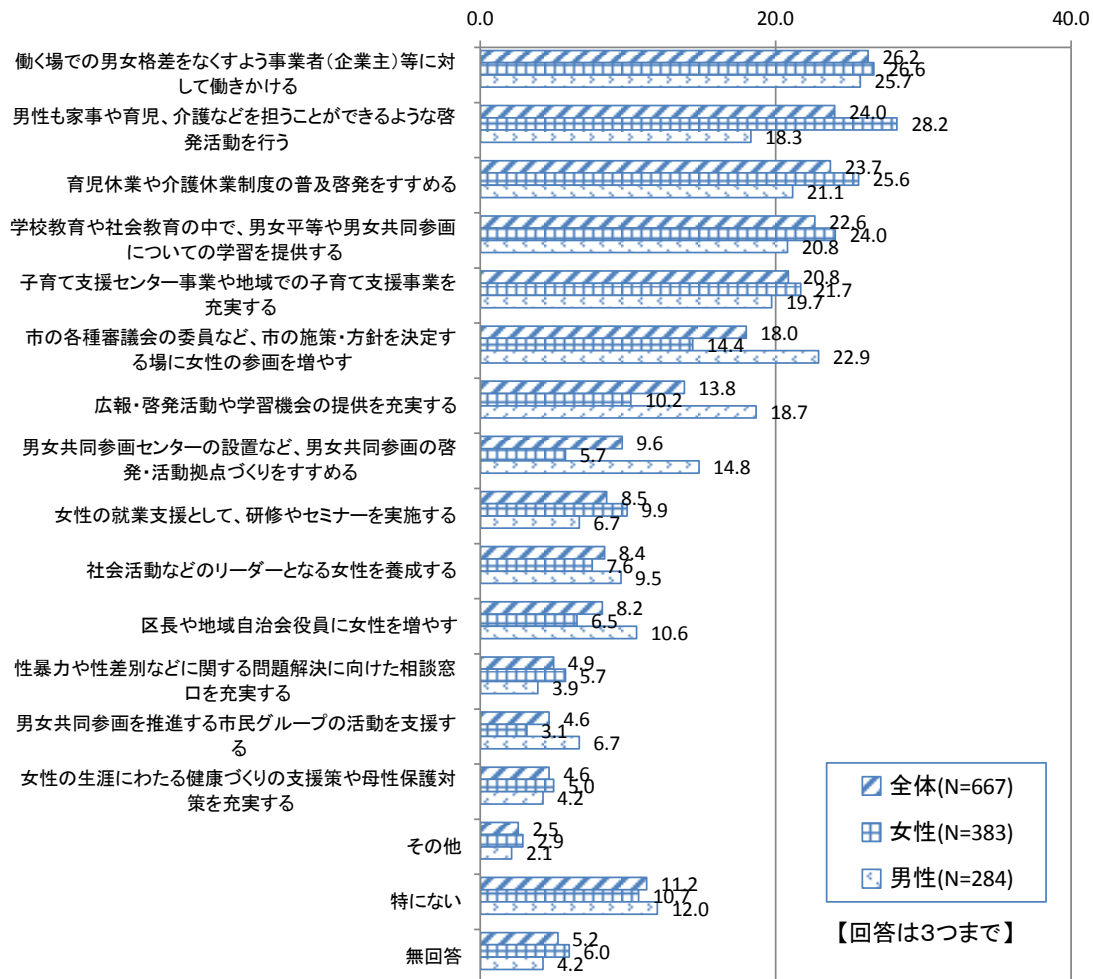
	標本数	男女の役割分担、しきたりを改めること	職場中心という社会全体の仕組みを改めること	子育てや介護に関するサービスを充実する	労働時間短縮や休暇制度（育児休業・介護休業等）を普及させること	性別にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること	夫婦の間で家事などの分担を、十分に話し合い、協力し合うこと	女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること	男性が生活面において自立できるような能力を身につけること	職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること	さまざまな活動に夫婦が一緒に参加すること	その他	わからない	無回答	
全体	667	223	137	209	190	229	232	94	81	108	127	12	26	24	
	100.0	33.4	20.5	31.3	28.5	34.3	34.8	14.1	12.1	16.2	19.0	1.8	3.9	3.6	
年代	女性:20代	27	29.6	14.8	37.0	63.0	22.2	37.0	7.4	3.7	22.2	7.4	0.0	11.1	0.0
	女性:30代	43	32.6	27.9	20.9	39.5	53.5	37.2	14.0	11.6	18.6	20.9	0.0	0.0	0.0
	女性:40代	56	35.7	30.4	33.9	26.8	39.3	25.0	23.2	14.3	19.6	16.1	1.8	5.4	0.0
	女性:50代	71	31.0	16.9	38.0	26.8	43.7	38.0	19.7	9.9	12.7	19.7	1.4	2.8	1.4
	女性:60代	99	27.3	13.1	34.3	26.3	42.4	40.4	18.2	17.2	12.1	19.2	1.0	3.0	3.0
	女性:70代以上	87	29.9	11.5	40.2	19.5	36.8	39.1	17.2	9.2	4.6	16.1	1.1	2.3	11.5
	男性:20代	14	35.7	14.3	28.6	42.9	42.9	35.7	0.0	7.1	35.7	21.4	0.0	0.0	7.1
	男性:30代	26	23.1	30.8	26.9	30.8	26.9	38.5	15.4	3.8	26.9	23.1	0.0	7.7	0.0
	男性:40代	37	43.2	35.1	18.9	37.8	24.3	29.7	5.4	2.7	29.7	18.9	2.7	5.4	0.0
	男性:50代	46	32.6	19.6	26.1	39.1	34.8	26.1	8.7	17.4	10.9	21.7	2.2	8.7	2.2
男性:60代	78	42.3	25.6	28.2	23.1	23.1	34.6	10.3	7.7	23.1	16.7	2.6	5.1	2.6	
男性:70代以上	83	37.3	20.5	27.7	18.1	20.5	31.3	9.6	21.7	14.5	25.3	4.8	1.2	7.2	
職業の有無	女性:職業を持っている	176	30.7	19.9	29.5	33.0	43.8	34.7	17.6	11.9	17.6	20.5	1.1	3.4	1.1
	女性:今は職業を持っていない	190	28.9	17.4	41.1	24.7	38.9	37.4	17.9	11.6	10.0	15.8	1.1	3.7	5.3
	女性:今まで職業を持ったことがない	14	42.9	0.0	21.4	28.6	35.7	57.1	21.4	21.4	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1
	男性:職業を持っている	162	33.3	25.3	27.8	32.7	30.2	32.7	9.3	11.7	22.8	23.5	1.2	4.9	1.2
	男性:今は職業を持っていない	115	43.5	24.3	25.2	20.0	19.1	30.4	8.7	13.0	15.7	16.5	5.2	4.3	7.0
	男性:今まで職業を持ったことがない	7	28.6	0.0	14.3	42.9	28.6	42.9	14.3	14.3	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0
無回答	3	66.7	0.0	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	



## (2) 「男女共同参画社会」を実現するために古賀市に期待すること

【問16】あなたが、「男女共同参画社会づくり」に向けて古賀市に期待することはどんなことですか（○印は3つまで）

図Ⅱ-7-2 「男女共同参画社会」を実現するために古賀市に期待すること[全体、性別]



「男女共同参画社会」を実現するために古賀市に期待することについて、「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）等に対して働きかける」（26.2%）、「男性も家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」（24.0%）、「育児休業や介護休業制度の普及啓発をすすめる」（23.7%）、「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を提供する」（22.6%）、「子育て支援センター事業や地域での子育て支援事業を充実する」（20.8%）が上位5位となっている。

性別でみると、女性は「男性も家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」（28.2%）が第1位であるが、男性では第7位で割合も男性の方が9.9ポイント低くなっている。次いで、第2位の「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）等に対して働きかける」（26.6%）は男性では25.7%で第1位となっている。一方、男性は「市の各種審議会の委員など、市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす」（22.9%）



が第2位であるが、女性では第6位で割合も女性の方が8.5ポイント低いなど、順位に違いがみられる。

年代別でみると、男女とも20代で「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）等に対して働きかける」「子育て支援センター事業や地域での子育て支援事業を充実する」などの割合が高くなっている。女性の30代と60代では「男性も家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」が3割を超えている。男性の20代と30代では「育児休業や介護休業制度の普及啓発をすすめる」の割合が最も高い。男性の60代と70代以上では「市の各種審議会の委員など、市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす」の割合が最も高い。

職業の有無別でみると、職業を持っている男女とも「育児休業や介護休業制度の普及啓発をすすめる」「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）等に対して働きかける」の割合が高くなっている。職業の有無にかかわらず、女性は「男性も家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」の割合が高い。

表Ⅱ-7-2 「男女共同参画社会」を実現するために古賀市に期待すること

[全体、年代別、職業の有無別]

	標本数	広報・啓発活動や学習機会の提供を充実する	市の各種審議会の委員など、市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす	区長や地域自治会役員に女性を増やす	学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習を提供する	働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）等に対して働きかける	育児休業や介護休業制度の普及啓発をすすめる	男性も家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う	男女共同参画を推進する市民グループの活動を支援する	女性の生涯にわたる健康づくりの支援策や母性保護対策を充実する	女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する	問題解決に向けた相談窓口を充実する	社会活動などのリーダーとなる女性を養成する	子育て支援センター事業や地域での子育て支援事業を充実する	男女共同参画センターの設置など、男女共同参画の啓発・活動拠点づくりをすすめる	その他	特になし	無回答	
全体	667	92	120	55	151	175	158	160	31	31	57	33	56	139	64	17	75	35	
	100.0	13.8	18.0	8.2	22.6	26.2	23.7	24.0	4.6	4.6	8.5	4.9	8.4	20.8	9.6	2.5	11.2	5.2	
年代	女性:20代	27	11.1	14.8	14.8	7.4	37.0	25.9	14.8	7.4	22.2	25.9	7.4	37.0	0.0	7.4	7.4	0.0	
	女性:30代	43	4.7	16.3	4.7	23.3	39.5	25.6	30.2	0.0	7.0	16.3	2.3	20.9	2.3	7.0	11.6	2.3	
	女性:40代	56	8.9	10.7	1.8	26.8	26.8	28.6	26.8	0.0	3.6	17.9	3.6	5.4	23.2	0.0	3.6	12.5	1.8
	女性:50代	71	8.5	14.1	8.5	31.0	36.6	33.8	23.9	5.6	4.2	4.2	5.6	8.5	22.5	7.0	1.4	5.6	4.2
	女性:60代	99	8.1	14.1	5.1	25.3	18.2	25.3	35.4	3.0	4.0	7.1	4.0	7.1	21.2	3.0	1.0	13.1	7.1
	女性:70代以上	87	17.2	16.1	8.0	20.7	18.4	17.2	27.6	3.4	5.7	5.7	4.6	12.6	16.1	14.9	2.3	11.5	12.6
	男性:20代	14	7.1	0.0	7.1	7.1	35.7	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0	21.4	7.1
	男性:30代	26	19.2	15.4	3.8	26.9	23.1	42.3	26.9	0.0	3.8	3.8	11.5	0.0	15.4	11.5	3.8	19.2	0.0
	男性:40代	37	16.2	18.9	18.9	13.5	21.6	21.6	10.8	5.4	0.0	10.8	5.4	13.5	24.3	5.4	0.0	18.9	5.4
	男性:50代	46	10.9	17.4	8.7	21.7	32.6	13.0	23.9	4.3	6.5	10.9	2.2	13.0	21.7	8.7	4.3	10.9	0.0
男性:60代	78	17.9	29.5	6.4	20.5	29.5	17.9	14.1	5.1	5.1	7.7	5.1	10.3	21.8	20.5	3.8	11.5	2.6	
男性:70代以上	83	26.5	27.7	14.5	24.1	19.3	15.7	20.5	13.3	4.8	3.6	1.2	9.6	12.0	20.5	0.0	6.0	8.4	
職業の有無	女性:職業を持っている	176	7.4	13.1	7.4	22.2	29.0	29.5	26.1	2.3	6.3	10.2	6.8	7.4	22.2	3.4	4.0	11.4	2.8
	女性:今は職業を持っていない	190	13.2	15.3	5.3	26.8	24.7	22.6	29.5	4.2	3.7	10.5	3.2	6.8	21.1	8.4	2.1	11.1	7.4
	女性:今まで職業を持ったことがない	14	0.0	7.1	14.3	14.3	21.4	21.4	35.7	0.0	7.1	0.0	28.6	21.4	28.6	0.0	0.0	0.0	21.4
	男性:職業を持っている	162	14.2	19.1	10.5	18.5	25.3	22.8	21.0	4.3	3.7	9.3	4.9	11.7	22.8	10.5	1.9	14.8	3.1
	男性:今は職業を持っていない	115	25.2	27.8	10.4	24.3	26.1	17.4	13.0	10.4	5.2	3.5	2.6	6.1	13.9	21.7	2.6	8.7	6.1
	男性:今まで職業を持ったことがない	7	14.3	28.6	14.3	14.3	28.6	42.9	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	3	33.3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	

### (3) 「男女共同参画社会」についての自由意見

◆古賀市の男女共同参画の社会づくりについて、ご意見やご要望などありましたら自由にお書きください。

#### 【職業】

- 個々の考えで良いのではない。大半が中小企業に勤務されていると思う。この様な方は、休業は難しい。本人の考えでよいと思う。(男性 40 代)
- 働く場での周りの従業員の協力も必要だと思う(男性 20 代)
- 良い文化は残すことに賛成だが、女性が平等に社会へと活躍できるよう、多様面で改善してほしい。働く条件、給料も見合わない、福利厚生、時間外労働…それを考えると女性は家にいたほうが良いと思い、男女平等にはならず、全て負の連鎖にしか思えない  
(女性 30 代)

#### 【家庭】

- 古賀市だけに限らず、男性の意識は低いと思う。男性が意識向上し、家事育児介護に関わらないことには、女性が家事と仕事を両立し参画できる社会にはならないと思う。今の社会は働く女性にあまりにも負担がかかっている。(女性 40 代)
- 女性、男性にこだわらず、やれる人がやるが基本だと思う。家それぞれの内容は、他にはわからないもの。違って、個性あふれる生き方をする人達が、多く出てきて、それを認め合っていける社会になってほしい。(女性 50 代)

#### 【地域社会】

- 区長は町内会のお世話以外市役所で各部会の活動、小中学校の行事参加消防団とのおつきあい等役職が大変である。(女性 50 代)
- 生活の糧を得る為、仕事中心になることは仕方ないが、定年後の生活も見据えた、若い世代のうちから地域、その他の活動への参画意識を社会全体に広めたい！(男性 50 代)

#### 【育児・教育】

- 男女問わず、家族やまわりにいる人のことを大切に思うことを教育の場で伝えていってほしい。そうしたら、自然と平等な社会になると思う。(女性 30 代)
- 男女共同参画とは、どの範囲までの事をいうの。男には男、女には女にしか出来ないこと、子育ての大事な 4、5 歳までに基礎的しつけ等されるように母親は家庭を守って欲しい。教育、教育というけれど人の教育をして欲しい。ホッコリした家庭が作れるよう支援がされることを望む。(女性 70 歳以上)
- 長期の学校の休み中(夏休み)平日の昼に働いている母親にとって子どもを預けるところがない。学童保育とかに(短期で)預けられるようにできない？(女性 40 代)
- 学童保育の充実→子育て中の女性が働きやすい環境を作る(男性 40 代)
- 義務教育の中での男女平等、生活面での参画等を授業の中に組み込む(ホームルーム、オルグ等)(男性 50 代)
- 子育てや介護をサポートする環境をもっと充実して、援助を気軽に受けやすくする。子育て介護ボランティアの育成、活動を進めていくように、新しい視点での取り組みを期待する。(女性不明)

### 【高齢社会】

- 高齢化社会に向けて国は、病院→在宅へと方向をすすめているが、実際問題、低価格で入所できる公的な施設は何年待ちという状態。そしてお金をもっている裕福な方は有料の施設に入所できるという状態。高額な施設に入れない人は結局、介護が必要な親を見る為、仕事を休んだり、辞めなければいけないという事もでてきていると思う。金銭的にも人間的にも精神的にも貧富の差によって介護に負担が生じると思う。公的なサービスや施設の充実を望む。(女性 40 代)
- 女性は子ども、家事、仕事と現実時間が無い。男性も同様。現役引退した男女いずれも経験豊富で逆に時間が有り、第 2 の生き方として、社会づくりに参加が容易にできるのでは？60~65 歳はまだ若い。病気以外の方は自信があると思う。(女性 60 代)

### 【男女共同参画社会】

- 人間は個人差がある。だれでもが向いているとは共同ではない。(女性 70 歳以上)
- 育児や介護だけにこだわらないで欲しい。市民全てが関わっているわけではないと思う。  
(女性 20 代)
- 無理に女性を参画させる必要はないと思う。ただ参画を提供する場所を開示することは必要だと思う。(男性 60 代)
- 男女に関係なく役職をこなす方でないといけない最近では女性の校長先生も増え、国会では女性大臣も増え、男女共同参画の社会づくりができつつあると思う。(女性 50 代)
- 男性だろうが女性だろうが能力がある人、やる気がある人がリーダーになる事がよい事だと思うので、男女の比率等は関係なく、男性の立場も女性の立場も状況を良く理解できる人がリーダーになるべきだと思う(男性 40 代)
- 何でも一歩ずつとは思いますが、まだ手さぐりの感がある。(女性 60 代)
- ゆとり(経済的にも)のある家族を形成すれば、余裕も生まれ、自然とこういう社会になっていくと思う。(男性 70 歳以上)
- 私自身、反対という立場ではないが、周囲の女性には、こういった動きには反対という人が多い。メディア等では、男女共同参画について声高に叫ばれている様だが、女性の中には、逆にそれを迷惑に感じている人も多いようだ。社会構造、個人意識、文化、風習、世代交代に時間を掛けないと制度だけ急ぐと、社会に歪が出てきそうな気がする。  
(男性 40 代)
- 男性、女性にしか出来ないこともあると思う。古くからの慣習も大切な部分も有ると思う。また違って当然であり、全てが同量(半・半)でなくても良いのではと考える。  
(女性 60 代)
- 古賀市だけが取り残されつつある。(男性 50 代)
- 啓発活動により、いつまでも男女差が残る。(男性 50 代)
- 男女共同参画の姿がはっきりみえていない(女性 70 歳以上)
- 男女関係無くリーダーの資格がある人がリーダーとなるべき。なので、男女関係無くリーダー育成が大事だと思う。(男性 50 代)
- お互いが尊重し合える、格差の無いゆとりある地域社会にしてほしい。そうすれば、男

尊女卑やDV等がなくなると考える。(男性 40代)

- 古賀はまだ古い考え(男尊女卑)が根強いと思う。広報とかで何かこれを打破する方法はないものだろうか?一人では中々”あの女”は、になってしまう。(女性 60代)
- 男女共同参画とは機会や処遇を平等に与えることであって、数の平等をいうのではないと思う(男性 60代)
- 男女共同参画という思想(被害者意識を植え付ける)そのものが間違っている。男女共同参画をすぐに撤廃してほしい。(男性 70歳以上)
- はっきり言って私は古賀市の男女共同参画について何も知らない。問4で子どもの教育についてアイウに全て5わからないにつけた。妻が娘にも男の子と同等に経済的に自立…で高校、大学も出て就職もしたが全て男女平等で頭でっかちで口は達者だが行動が伴わず、妻が泣いている。私が女性だったら絶対料理を人より上手にでき何でもさっさと手伝えるようまずやり、そして自分の平等かんを進める。それが一番好かれ、頼りにされ、ありがたがれれば口で何を言っても誠意がないと人に通じない。男の子も炊事よりもっとやる事あるんじゃないか。男にとって全て仕事も家庭も男女平等であればこんな楽なことは無い。そんな幸せな世に生まれてみたかった。自分の都合の良いところだけは男女平等の若者をつくらないように気をつけて欲しい。(男性 60代)
- 男女どちらにしても、責任感をきちんと持ってリーダーになれるような人が地域に乏しいと思う(女性 40代)
- 男女共同参画の解釈をその時々で変えないこと(男性 70歳以上)
- 男女共同参画は重要な事と四六時中聞かされるが、社会情勢も合わせ、本人の自発的意識改革がなければ、成果は出ないと考える。今の世論はマスコミや学者の誘導により動かされている感がある。大切なのは本人の意思で考え、行動し、責任を持つことであり、責任転嫁しないしくみを作ることと思う。(男性 60代)
- 認知度が低いと思う。(女性 60代)
- 男女共同参画のメンバーというのは、経験が豊富な中高年の方々が多いのでは?それは大変よいことだと思うが、やはりもう少し若いフレッシュな感覚やアイデアを取り入れることで大きく発展するのでは?(仕事の関係で困難だと思いますが)(女性 60代)

#### 【市への要望】

- 研修会等様々な企画はなされているが、広報、宣伝が不十分で参加者が少ないと思う。ワーク・ライフ・バランスの推進や男性の育児休業の義務化等を進めるべきだと思う。(男性 50代)
- 成功した女性による講演は、かえって女性にとって負担や行き詰まりを感じる事が多い。啓発一辺倒ではない、各々の課で取り組める様々な施策を期待したい。(女性 40代)
- 会社への働きかけをしてほしい(女性 30代)
- 古賀スーパーイオンがなくなると、車を持たない人は買い物に困る。とても不便な地区だ。利用者もたくさんいると思うので誘致してもらいたい。古賀の人は新宮や福津で買い物をしている。(女性 40代)
- 企業の経営者およびトップリーダーとのコミュニケーションを掘下げて討議したらどうか。(男性 60代)

- 育児休業や介護休業制度の利用を市職員が率先して実施してほしい。  
上記を使うことによって不利益をとまなわぬよう管理職も心して欲しい。  
(女性 70 歳以上)
- どのような取り組みを行われているのか知らない。  
市報を見てもあまり情報がないように思う。(男性 40 代)
- 市として男女共同参画をどう進めていくのかみえません。  
広報や啓発をするためポスター設置するでは難しいと思います。(男性 40 代)
- 男女というより人間としての価値観(生きる・社会貢献)を共有するセミナーを企画実施する。(男性 70 歳以上)
- 仕事についている者が参加しやすいよう、土日、平日夜間にも参加できるようにしてほしい。(男性 40 代)
- 市がどのような取り組みをしているか伝わってこない。男女共同参画の社会づくりに取り組んでいる印象があまりない。(女性 50 代)
- 男女共同参画の社会づくりが古賀市の経済発展につなぐよう対策を打って欲しい。福間、新宮に負けている!!(男性 60 代)
- 古賀市には中央公民館に健康づくりの為に機械がおいてあるが、もっと高齢者のためにウォーキングの機械や健康の為に機械を入れて欲しい!!コスモスのところにプールがあるようだが、高くていけない!!(女性 60 代)
- 役所と議会より始めるべき(男性 40 代)
- もっと古賀市を活性化してからだと思う。新宮や福間に置いてきぼり状態だ。このままだと古賀市から引越しも考えている。(女性 40 代)
- 副市長に女性登用を望む。(女性 50 代)
- まずは古賀駅近く商店街を良くしてほしい。(男性 30 代)
- 古賀市は公園など、草がすごかったり、グリーンパークの水は汚かったりと汚い、もう少しきれいな公園とか整備できないか?(女性 40 代)
- ガッツリ私事ですが、30代、40代の低所得男性が出会い(～できれば結婚)までできるような企画等を考えてもらいたいです。(男性 30 代)
- 古賀市は店が減っている。女性の職場がなくなっている。参画する社会づくり(企業・店)からしないといけないのではないかと?生活するにはお金が必要。家庭経済が安定しなかったら何もできなくなる。若い人達も市外に部屋をかまえ、市外で働きます。企業集め、人集めしてほしい。(女性 50 代)
- 男女共同参画啓発活動を継続・発展して行ってほしい。(男性 50 代)  
【女性の活躍】
- あらゆる女性が積極的になることを期待します。(男性 70 歳以上)
- 高齢化が進み人手が足りなくなる前に、女性の方々の力が大切だ。(男性 70 歳以上)  
【アンケート】
- こんなことを市民に聞くな。市役所職員が有償な人物なので、考えるべきである  
(男性 70 歳以上)
- 質問自体が「パートナーがいること」を前提につくられており、シングルの人に対する

配慮に欠けたアンケートだと思う。市役所自身がその固定観念から脱しなければ。

(男性 40 代)

- 女性ばかりを守るような質問が多く、このアンケート自体が平等でない  
DV の被害者＝女性ではないことを理解していない  
現在では女性上位  
特に DV 法は女性の悪用がひどい (男性 40 代)

### III. 調査結果からみえる現状と課題

特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所 理事 倉富 史枝

#### はじめに

男女共同参画社会基本法（以下、基本法とする）には、男女共同参画の取り組みにおける国民及び自治体の責務が明記されている。古賀市においては、平成 15 年に「古賀市男女共同参画計画」を策定し、平成 16 年には「古賀市男女平等をめざす基本条例」を施行した。その後、平成 23 年度には「第 2 次古賀市男女共同参画計画（パートナーシップで築く男女共同参画のまち）」を策定し、平成 24 年度から平成 33 年度までの「第 4 次古賀市総合振興計画」との整合性を図りながら、男女平等の基本原則に基づいて行政各分野で事業を展開し、男女共同参画社会の実現を目指してきた。

本調査は、この 5 年間の古賀市の取組の成果を検証するとともに、本市における今後の男女共同参画を進める上での課題を把握するための基礎データを得ることを目的として実施したものである。福岡県の「男女共同参画に向けての意識調査」（平成 26 年 12 月実施）及び内閣府の「女性の活躍推進に関する世論調査」（平成 26 年 8 月実施）と比較できる項目もあり、本市の特徴をみる事が可能である。

調査で得たデータを基に、本市における男女共同参画に関する市民意識の現状と動向および今後の課題について考察したい。

また、回答者の基本的属性をみると、性別構成は、女性 57.4%に対し男性 42.6%で、女性が約 15 ポイント上回り、男女共同参画に対する関心は、女性の方が高いことがうかがえる。年齢の構成比をみると、女性は 60 歳代が最も比率が高く、70 歳代も約 2 割あり、男性は 70 歳代と 60 歳代が約 3 割あり、60 歳以上の年齢者層の比率は、女性では 48.5%、男性では 56.7%であった。古賀市の実際の年齢別構成比は、60 歳以上は 37.8%（平成 27 年 3 月末）であることから、本調査結果は、人口高齢者層の意識が回答内容にも反映される可能性があり、特に男性にはその傾向が強い点には留意が必要といえる。

#### 1. 男女平等に関する意識について

男女の地位の平等感について 8 つの項目で尋ねたところ、「学校教育」「余暇生活」以外の 6 つの項目で、『男性優位』と感じている人の割合は、「平等」を上回っている。「国や政治の場」「職場」では『男性優位』が 7 割近くにのぼり、不平等感の高い項目であった。

女性の「平等」の割合は全ての項目で男性を下回り、男女の地位の平等については、女性の方が男性よりも不平等感が強い。特に、「法律や制度」については、男性は平等の割合が約 5 割、一方、女性は男性優遇の割合が約 5 割で、男女の認識の差が最も大きい。男女雇用機会均等法が 1986 年に施行されて 30 年、基本法制定からは 17 年を過ぎ、多方面に法律や制度が整備されてきたが、生活の中で適切に運用されている点については課題が多い。女性には法整備が現実の男女平等に結びついているという認識にはなっていないのであろう。「国や政治」も、男女とも男性優遇が高いものの平等は 20.5 ポイント女性の方が低く、男性との認識の差は大きい。女性が閣僚に登用されると目立つが、実際に政治の場で男性と同等に活躍しているとは言い難い現状に対して、女性の方がより不平等と感じていることが推測され

る。県や国の調査と比べると、「家庭生活」「職場」「社会活動の場」など自分たちが実際に活動に参画し実体験を伴う場では、「平等」の割合が下回っている点も本市の特徴である。

## 2. 家庭内の役割分担の状況

「男は仕事、女は家庭」という考え方、固定的性別役割分担意識については「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』が 54.7%、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた『反対派』が 42.0%となり、性別役割分担の賛成派の方が反対派を 12.7 ポイント上回っている。国や県の調査と比較すると今回調査の結果は、反対派の割合が低く、固定的性別役割分担意識は根強いといえる。また、性別役割分担への賛否に関しては、一般的に女性の方が男性よりも『反対派』の割合が高くなる傾向があるが、今回調査結果においても女性の『反対派』が男性を 10 ポイント上回っている。但し、男性は 60 歳以上の回答者の割合が高いため、高齢者層で『賛成派』が多い結果が影響を与えていることも留意が必要である。

現在、配偶者がいる人に対し、実際の家庭内での役割分担の状況について 8 つの項目で尋ねた。女性の「自分」が行う割合が最も高い項目は「炊事」で 85.1%にのぼり、性別役割分担意識に反対派と賛成派での割合の違いはなく、考え方に関わらず炊事は女性の役割となっている現状がわかる。続いて、「掃除・洗濯」が 78.3%、「日々の家計の管理」が 71.6%で、女性の「自分」が行う割合は高い。男性の「パートナー」が行うという項目も、女性の回答と順位は同じだが、「炊事」は 69.4%、「掃除・洗濯」62.0%、「日々の家計の管理」64.2%で、どの項目も女性の「自分」を下回り、「自分・パートナー分担」は女性の割合より上回っており、夫が日常の家事を分担しているという認識は男性の方が女性より高い。また、男性では、「自分・パートナー分担」は性別役割分担意識に反対派は賛成派を上回っており、「女は家庭」と考えない男性では、家事を行っているという認識が高い傾向がうかがえる。

「子どものしつけ・教育」は、男女とも「自分・パートナー分担」が 4 割を超えて最も高く、夫婦で担っているという認識は高く、県調査よりも分担の割合は高い。とはいえ、女性の「自分」は 30 代、40 代で高く、子どもに手のかかる年代では母親は自分が一人で担っているという認識は高い。「高齢者などの介護」は女性では「自分」が高く、男性では「自分・パートナー分担」が高く、男性は介護に夫婦で関わっているという認識が高い。

男性では「自分」の割合が最も高いのは、「自治会・町内会などへの会合への参加」の 36.1%で県調査よりも高く、男性が担っているという認識が高い項目だが、女性も「自分」は 31.7%で 3 割を超えており、家族や地域の状況に応じて分担が異なるものといえる。また、男性の「自分」は「高額の商品や土地・家屋の購入」も 3 割半で高く、女性の「パートナー」は約 4 割で、「自分・パートナー分担」は男女とも 4 割半ばであるが、県調査よりは低い。家庭内の経済な決定に主導権を夫が持つという伝統的な家父長制意識に基づく役割分担がやや根強い状況がうかがえる。しかし、「子どもの教育方針・進路目標の決定」を主に行うのは、男女とも「自分・パートナー分担」が約 5 割と最も高く、子どもの進路決定について主導権を夫が持つのではなく、夫婦で平等に関わっている状況がうかがえる。



### 3. 子どものしつけや教育についての考え方

固定的な性別役割分担を解消する方向で子どもの育て方を考えているのか、女の子への経済自立志向と男の子への生活自立志向を尋ねた。

「女の子も男の子と同等に経済的に自立できるような教育が必要」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」は、ともに9割以上の人が賛成している。但し、積極的な賛成の割合は、女の子の経済的自立志向の方が男の子の生活自立志向よりも高く、特に男性では約20ポイント高かった。男の子の生活自立に対しては女の子の経済的自立よりも消極的であり、その傾向は男性に強いといえる。性別役割分担に反対する人では、女の子の経済的自立も男の子の生活自立も積極的な「賛成」の割合が高くなっていた。

また、「男の子は理科系・女の子は文科系に進んだ方がよい」とする、性別で異なる子どもの進路について尋ねたところ、支持しない人は6割を超えて支持する人より多かった。だが、積極的な反対は男性の方が女性より13.4ポイント低く、また、男女とも70代以上で支持する人が高くなっていた。性別役割分担に反対する人では、積極的な「反対」の割合が高くなっていた。

以上から、子どもの育て方は、基本的には性別役割分担を解消する方向に概ね進んでいることがわかる。しかし、実際の家庭生活では日常の掃除・洗濯も炊事も女性の8割前後が担っていたことから、家庭内の性別役割分担の状況を目の当たりにする子どもへ現実からの影響が大きいことが懸念される。女の子は、経済的自立を目指した育て方をされても、家事は妻の役割と思わせられるならば、結婚や子育てが負担として伝わる可能性がある。結果として、母親世代同様に結婚か仕事か二者択一を迫られ、将来の未婚や少子化の拡大につながるかもしれない。男の子は、母親だけが家事をしており、父親は自分が家事の技術を身につけることに積極的ではないのであれば、現状が再生産されていく恐れもある。

子どもたちを男女の枠にはめず、自身の可能性が広がるように、実生活での固定的性別役割分担の解消は重要である。父親が家事や子育てに関わり子どもたちのモデルとなれるよう、就労環境の改善をはじめワーク・ライフ・バランスを目指した支援は、今後さらに求められる。また、祖父母世代である年齢の高い層では、性別で分けた育て方を支持する人が多いため、世代間の考え方の隔たりをより小さくするように、意識啓発を進めることも必要である。

### 4. 職業や仕事について

今回調査対象者で、職業をもっている人は男性では57.0%で、女性では46.0%で、2015年の全国の労働力調査（以下、労働力調査とする）による就業率は、男性は67.8%、女性は48.0%となっており、全国と比較すると男性はかなり低いが、これは、対象者の高齢者層割合が高いことが反映された結果といえる。

就労している人の就業形態をみると、女性は「常勤パートタイマー」が38.1%、「契約社員・派遣社員」「臨時、アルバイト」「その他」を合わせた『非正規雇用者』は54.6%となり、「正社員・正職員」の27.3%の2倍にのぼり、女性は雇用されている場合には非正規が高い。一方、男性は「正社員・正職員」で51.9%、『非正規雇用者』は24.7%で正規と非正規の比率は女性と逆転して、正規雇用中心である。但し、労働力調査の正規雇用と非正規雇

用の比率は、女性は 43.7%対 56.3%、男性は 78.2%対 21.8%で、今回調査の方が男性の非正規雇用の比率が高い。

以前、職業を持っていたが今は持っていない人の仕事を辞めた理由については、「定年になったため」は、男性では 77.4%と圧倒的に高いが、女性では 25.8%で、「結婚やその準備のため」(23.2%)と並ぶ。女性の 3 位は「出産や育児のため、家事育児に専念したいから」(16.3%)で、結婚や出産は女性の職業中断の理由として大きいことがわかる。「家族の介護が十分にできないから」、いわゆる介護離職者の比率は低いものの、結婚や出産に関する項目では男性が 0%だったのに比べると男女の差は小さく、今後の介護と仕事の両立は男女共の課題となりつつあることがわかる。

女性が職業を持つことについての考え方は、男女とも「ずっと職業を持ち続ける方がよい」が 4 割を超え、就業継続型への支持は高いが、「子どもができれば職業をやめ、子どもが大きくなって再び職業を持つ方がよい」という、いわゆる「女性のM字型就労」とよばれている働き方を支持する割合も男女とも 4 割弱ある。男性では専業主婦を志向する割合が女性よりもやや上回っている。男女とも就業継続型は未婚者では高いが、既婚者ではM字型と拮抗している。仕事を辞めた理由で、女性は結婚や出産が高かったことから、実際に結婚したら女性の就労継続が難しいことが既婚者のM字型の支持につながっているのかもしれない。また、性別役割分担意識が強い人では、専業主婦型よりM字型就労の支持が高く、「女は家庭」という考えに賛成しても子育てを終えたら女性が働くことは認めていることがわかる。

男女とも職業生活と家庭生活の調和がとれた生活、いわゆるワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件整備は、「育児のための施設・サービスを拡充する」が最も高く、特に、自営・会社経営・会社役員、女性の常勤パートタイマーの割合では高くなっていた。保育施設は正規雇用者と比べて非正規雇用者や自営業者では入所が困難であることが背景にあるかと思われる。「介護のための施設・サービスを拡充する」も 4 割を超えて高く、仕事と育児や介護という家族的責任との両立のためには施設の拡充は重要な課題となっていることがわかる。「育児休業制度を利用しやすくする」も 3 位で高く、男女とも 40 代より低い年齢層では最も高く、後述するが、育児休業は制度があっても男性ではほとんど利用されていない状況にあり、当事者の年代では利用しやすい制度が求められているのであろう。また、女性では「男性に家事・育児等への参加を促すための啓発をする」が男性をやや上回っており、家庭の役割では炊事や洗濯は殆ど妻が行っていたことから、男性の家事への参画は女性にとってはより重視されていることがうかがえる。

## 5. 育児や介護について

育児休業法は 1992 年以降改正を重ね、現在は「育児・介護休業法」のもとで、男性も育児休業や介護休業を取得できる。国は、2020 年時点で育児休業取得率 13%を目標に掲げている。しかし、2015 年度の男性の育児休業取得率はわずか 2.30%で、2011 年の 2.63%をピークに横ばいに入っている状況である。

男性が育児休業を取得することについては、7 割が賛成しており肯定的である。特に、これから結婚や出産を控えている 20 代では男女とも 8 割半ばが賛成している。介護休業についても、男性が取得することに 8 割が賛成しており、育児休業よりさらに肯定的に捉えられて

いる。

現状では男性の育児休業や介護休業の取得率が低いことについて理由を尋ねたところ、「職場の理解が得られない」が72.7%と最も高くなっていた。順に「取得すると仕事上周圍の人に迷惑がかかる」(57.6%)、「取得した場合、経済的に苦しくなる」(56.4%)、「仕事の評価や昇進などに影響する」(50.4%)が半数を超えて高かった。「取得した場合、経済的に苦しくなる」は男女で差が大きく、女性は男性よりも13ポイント高く、男性では自営・会社経営・会社役員が高かった。また、「周囲に取得した男性がいない」は女性の方が男性よりも約10ポイント高かった。

育児・介護休業法は、日本が1995年に批准した国際労働機関(ILO)156号条約(育児や介護などの「家族的責任」を持った人への雇用差別や労働待遇の変更を禁止)と連動して、国内で整備されてきた。男性が育児休業や介護休業を取得することへは肯定的な意見が多数を占めながら、今なお、「職場の理解が得られない」「取得すると仕事上周圍の人に迷惑がかかる」という理由が高い状況は、労働者の人権問題としてとらえなければならない。事業所や市民への啓発を進める際に、国際標準での人権の視点は重要である。また、育児・介護休業期間中の労働者及び事業主の経済的負担は小さくなってきている。休業給付金は雇用保険から支給され(育児休業は賃金の67%、介護休業は40%)、社会保険料は、育児休業期間は免除される(介護休業期間の保険料は免除されない)。「取得した場合、経済的に苦しくなる」という自営・会社経営・会社役員の割合が高いが、これらの制度を理解したうえでの回答かは疑問が残り、情報提供の重要性が示唆される。また、夫の収入が妻の収入をかなり上回る場合には、夫の育児休業取得が世帯の経済的な苦しさにつながることは理解できるものの、夫婦の賃金格差が社会的な課題であるという認識は高める必要がある。さらに、女性では育児休業取得経験者が周囲にいる割合は高く、女性の方がロールモデルの重要性を認識しているといえる。男性の休業取得者について、多様な模範事例を紹介すること、その際に、給付金の情報などを合わせて伝えることなど、情報提供に工夫が求められる。

## 6. 地域活動について

地域の役職に(妻などが)推薦された場合の対応を尋ねたところ、全体として「断る(断ることを進める)」が「引き受ける(引き受けることをすすめる)」を大きく上回る。

性別でみると、「引き受ける(引き受けることをすすめる)」と回答した人は、男性が女性を大きく上回っており、男性は女性が役職につくことへ女性よりも肯定的である。20代では男女とも「引き受ける(引き受けることをすすめる)」が他の年代よりも高く、年齢の低い層では役職への抵抗感が低いといえる。30代、40代の子育て年代の男性は、他の年代よりも「断る(断ることを薦める)」の割合が高い。

役職を断る(断ることをすすめる)理由については、女性は「役職につく知識や経験がないから」が半数を超え、男性を14.4ポイント上回っていた。「責任が重いから」も女性が男性を7.6ポイント上回っていた。「家事・育児や介護に支障がでるから」女性の30代で半数を超え、40代も高く、男性も20~40代で他の年代よりも高く、子育て期の年代では地域の役職と家庭責任との両立の困難を感じていることがわかる。一方で、「家族の協力が得られないから」は女性では30代が最も高いが、男性は最も低く、乳幼児を抱える年代では、妻が地

域の役職につくために協力する必要性の認識は、夫の立場にある男性に低い傾向がうかがえる。

地域（自治会）の現状については、「男女の役割に大きな差はない」が男性は約3割あり、女性を10ポイント上回り、女性の方に不平等感が高い。「会合でのお茶だしや準備・片付けなどは女性が担当することが多い」は女性では半数近くあり、お茶出しは女という役割の偏りが不平等感の背景にあることが推測される。

地域の決定の場に女性の参画が求められても、これまで地域活動でお茶出しなどの補助的な役割しか経験していないならば、自分は知識も経験もないので気おくれする女性が多いことも当然といえよう。地域での性別役割分担の解消を積極的に進めることが女性の登用につながる。また、家庭責任を抱えている女性がさらに役職の責任を担うことは難しい。地域活動における託児などの子育て支援、さらには、夫などの家族が家事責任を分担できるように長時間労働の解消が求められる。

## 7. 配偶者等からの暴力について

配偶者や交際相手からの暴力、いわゆるドメスティックバイオレンスの被害について、ここ3年くらいでの被害の経験（『経験がある』＝「何度もあった」＋「1・2度あった」）を13項目で尋ねた。「大声でどなる」「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」が高く、精神的暴力は男女とも経験率が高いことがわかる。女性は、「『誰のおかげで生活できるんだ』とか『甲斐性なし』と言う」精神的暴力、「必要な生活費を渡さない」経済的暴力、「いやがっているのに性的行為を強要する」性的暴力、「交友関係や電話・メールなどを細かく監視する」社会的暴力の経験率が男性よりも高く、多様な被害を受けていることがわかる。離・死別の女性で身体的暴力の被害経験率が高く、離婚した人では離婚原因にDVがあることも推測される。

配偶者や交際相手からの暴力を経験した人に、暴力についてだれかに相談したか尋ねたところ「相談しなかった」が男女とも6割以上を占めており、どこにも相談していない人は多い。相談した人の相談相手は「家族や親戚」と「友人・知人」が約半数あり、DVの被害は身近な人に相談する人が多いことがわかる。特に、女性では約6割と高く、男性を上回った。公的機関の窓口を利用した人は少ないが、男性では「医療関係者・介護関係者」「警察」が女性より高く、男性は緊急性の高い状況での相談が多いことが推測される。

どこにも相談しなかった人の理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高い。これ以外の項目は低く、「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえがまんすれば、このままなんとかやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が2割を超えた。女性は、「相談しても無駄だと思ったから」「相談することによって、更に不快な思いをすと思ったから」「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」が男性より高かった。身近な人に相談した女性の割合は高かったが、相談したことによって返って失望した経験のある人では、どこにも相談しなくなる場合も多いことが推測される。

相談しやすい窓口の整備および窓口に関する情報の周知とともに、被害者の身近な人が相談を受けた場合に二次加害が発生したり、被害者が相談したことで危険な目にあったりしな

いよう、DVに関する啓発を広く市民全体に対して行うことが重要である。

## 8. 男女共同参画に関する施策について

「男女共同参画社会」を実現するために古賀市に期待することについて尋ねたところ、女性が男性を上回った項目は多く、「男性も家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」は女性では男性を約10ポイント高く、特に、女性の30代と60代の子育てや介護に関わる年代では、3割を超えていた。「働く場での男女格差をなくすよう事業者（企業主）等に対して働きかける」「育児休業や介護休業制度の普及啓発をすすめる」も女性が高い項目だが、職業を持っている場合や30代以下の若い年齢層では男性も高くなっており、当事者の場合は男性も改善を望んでいるといえる。先述したように、多様な場において男性優遇であるという認識は、女性は男性より高く、さらに「家庭生活」「職場」「社会活動の場」など実体験を伴う場での平等感も男女とも国や県の調査より低かった。女性や当事者年代の男性が、職場や家庭での意識改革の促進を行政へ大きく期待すること理解できよう。

男性が女性を上回った項目は、「市の各種審議会の委員など、市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす」「区長や地域自治会役員に女性を増やす」、また、「広報・啓発活動や学習機会の提供を充実する」「男女共同参画センターの設置など、男女共同参画の啓発・活動拠点づくりを進める」であった。男性は、女性の決定の場への参画に関わることへの支援、啓発事業の整備といった項目への関心が高い。しかしながら、女性の決定の場への参画を進めるためには固定的な性別役割分担の解消が必要であり、女性の参画推進は男性も含めた意識改革と合わせて進めていかねばならない。

多様な支援が行政へ求められており、性・年代に応じた事業を提供していくとともに、市民の実情に応じた支援策や啓発事業を進めていくことが求められる。今回の調査結果をふまえながら、古賀市の男女共同参画計画が実効性の高い計画となるように策定し、条例に基づいて男女共同参画のまちづくりを進めることが重要であろう。